

今の私は、税のことについて、どのような仕組みで、どのように扱われているのかさえ、正直ほとんど知りません。ただ、日頃私達が様々な形で納めている税が、日本の為に、そして、私達の暮らしを支える為に使われていることは知っています。

私は、中学校生活最後の今夏、市が国際交流事業の一環として例年この時期に開催している「竹田市国際交流団」の一人として、八月八日から五日間、韓国にホームステイをしました。韓国では、平和学習をしたり、世界遺産を見たりする等、大変貴重な体験となりました。が、実は、この旅費の一部が、市の税金から負担されていることを知りました。自分でも分かっていたのですが、出発前に両親から「税金で行かせてもらうのだから、よく感謝すること。他の人が一生懸命に働いて払われたお金なのだから、とにかくしっかり、たくさんのことを学んで来なさい。」と、言われました。私は、そう言われる度につくづく自分は幸せだと感じました。

こんなこともあり、私は父に「税とは何か。」を尋ねてみました。父が言うには「税とは簡単にいうと、社会に加わる時の会員費のようなものだよ。」ということでした。私はなる程と納得がいききました。例えば、自分が何かのファンクラブに入会すれば会員費が必要ですし、入会し続けるには、当然、年会費を払い続けねばなりません。税もこれと同じで、自分が社会の一員であり続ける以上、やはりきちんと納めるべきものですし、それだからこそ、様々な恩恵にあずかれるのだと思います。

今年の七月、私達の故郷を大豪雨が襲い、洪水により大打撃を受けました。私の家は、災害があった所から大分離れていたもので、最初はテレビの前でその被害状況を知りました。そして、両親がボランティアに行くというので、私もせめて何かお手伝いできることはないかと、作業と一緒に連れて行ってもらいました。実際に見た被災地は、にわかには信じ難い光景が広がっていました。陸上の大会で練習した歩道には泥が山積し、道路は砂ぼこりが立ち、マスク無しでは息もできないほどでした。作業には県内は勿論、前の震災で被害に遭われた東北地方からも支援に来られていました。「自分達の時も助けてもらったから。」というのがその理由でした。私はこうしたボランティアも税も、同じなのではないかと、その時に感じました。つまり、皆その時に持っている力に応じて分担し合い、相互に助け支え合っているからです。

大切な故郷の完全復旧には、まだまだ時間もお金もかかるそうです。きっとそこには、全国の方々の善意が詰まった税が充てられるでしょう。近い将来、私もしっかり納税できる人になりたい。それは、私が社会の一会員であると同時に、税の恩恵で大切な街が復興し、税のお蔭で、またとない学びの機会を得たからです。今度は支える番に。

命を助ける税金

滋賀大学教育学部附属中学校 3年 谷口 友香

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

夢、希望をはぐくむ税

札幌市立あいの里東中学校3年 伊澤 佑佳

母が私にある冊子を見せてくれた。ごみの中から、わずかなお金にしかならない鉄くずを、一日中探し回っているセネガルの少年の写真が目飛び込んできた。家の手伝い、弟妹の面倒、戦争に巻き込まれている子、学校に通うお金や、学校すら近くにない子どもたちが、世界にはたくさんいる。病院や薬、手を洗う水もない。学校に通えることは幸運だという。私の普通の生活が、国が変わると全く違ってくる。日本は恵まれた環境だと思った。学校は国が学費や教科書を補助してくれるし、水道からは飲み水が出る、病院や薬、救急車だつてある。ごみが散乱していることもなく、安心して暮らせる街がある。命を授かった時から守られている。夢や希望を持てる環境がある。幸せだと感じた。

父は毎日遅くまで働いている。一生懸命働いているお給料の中から、税金が支払われているのに驚いた。他にも家や土地、車にも税金を納めていることを両親から聞いた。税と私たちの生活は密接につながっており、安心して暮らせる社会が成立していると思う。鉄くずを探し回っている少年の写真が浮かんだ。彼の夢は何だろう。学校に通えたら、夢はもっと膨らんでいくのではないか。日本も税金を滞納する人が増えると、私たちの生活も変わる。学校に行き、将来の夢を叶える為に努力できるのも、両親や納税者がいるからだ痛感した。

私は、幼少の頃から祖父母の家に行くとき訪れていた所がある。学べて遊べて、大好きな場所だ。数年前、ここが税金の無駄遣いだと非難された。ここに来たこともない人たちが無駄だと一方的に唱えることに反感を抱いた。今年、祖母が町内会の防災訓練でその施設へ行き、色々学んできたと話してくれた。私が好きな場所は、今までのものを残し、そこに防災センターとしての機能を加え、幼い子からお年寄りまで多くの人を使うことのできる、皆の役に立てる施設へと変わったことが嬉しかった。今あるものを生かしながら、時代と共に変化し対応することは大事なことだと思う。税金の無駄か否かを判断するのは、とても難しいことだ。しかし国民一人一人が納めている大切な税金を、無駄なく使うこと、無駄なく使われているかを判断する力を、私たちも身につけていく必要があると思う。

私には医師になりたいという夢がある。将来は海外で働き、学校にも行けず、病気で苦しんでいる人たちにも夢や希望を持ってもらえるような手伝いをしたい。日本のように、全ての国の子どもが夢や希望を持てるようになって欲しいと思う。皆、地球で生まれた同じ人間だから。

私が大人になっても、豊かな日本で子どもたちが育っていけるように、そして、私たちを育ててくれた人々が住みやすい国であるために、しっかりと納税していきたい。日本に生まれ育っていることを、両親や納税者の方々に感謝し、税の大切さを伝えていきたい。

「生活保護不正受給」芸能人の親族が生活保護を受給していたという問題が発覚した後、厚労省や生活保護窓口への相談が激増したという。「生活保護」とは、本来なら、資産や能力等すべてを活用してもなお生活に困きゆうする人に対し、健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに、自立を助長することを目的とした制度である。

それなのに、なぜこんなにも多くの人たちが、生活保護を求め、窓口を訪れるのか。

働けないのか。働かないのか。そこには、当然ながら大きな違いがある。働けるのに、働かない人に、もちろん保護は受けてほしくない。

また、近くであれ遠くであれ、助けてくれる家族がいる。助けられる家族がいれば、保護は受けるべきではないと思う。

確かに国民のみんなは平等に、社会保障を受けることが出来るべきである。今までしっかりと働いて、しっかりと税金を納めてきた人たちは、将来きちんとした社会保障を約束されて当然であると思う。

しかし、理由もなしに納税の義務を拒否し、勤労の義務を怠る人に平等の保障はされるべきではないと思う。

私には、軽度の障害を持った妹がいる。彼女の将来を考えた時、本当につらいことだが、自分一人で働いて、満足な生活が出来るだけの収入を得ることは難しいだろうと思う。また、彼女には、そんな苦勞をして欲しくないと思っている。その苦勞によって、今の彼女の可愛い笑顔が見られなくなってしまうのは、私自身にとって、とても悲しいことだからだ。しかし、だからといって私は彼女に生活保護を受けろとは、絶対に言うつもりはない。姉妹で助け合っていきたいと考えている。

家族とはそういう時のために、存在するのではないだろうか。それは、経済的な面だけをいっているのではない。心の支え、繋がり、絆を大切にしたいのである。

彼女が二十歳になれば、国民年金を納めなければいけない。その時は、三人の姉で助けてあげたい。将来、彼女には、負い目を感じず、保障を受けられるように私たちが助けていきたい。

「あなたには、私たちがついている。」

そういつて、安心させてあげたい。

そのために、高専三年の姉も、中学三年の私たち姉妹も、将来を考え進路を決めた。そして、その実現のために、毎日努力をしている。

妹のため…しかし、それが一番自分のためになる。私に大きな力を奮い立たせてくれる。

今、働けるのに働いていない人に言いたい。納められるのに納めていない人に言いたい。あなたの一番大切な人の将来のために、自分の将来のために、頑張ろう。

そして、政府はそのお金を福祉のために有効に使う努力をしてほしい。

納税による助け合い

札幌市立琴似中学校 1年 三木 綾花

「税金についての作文を書きたいんだけど何だかピンと来ないんだ。平成二六年から消費税が上がるんだっけ？」

「うん、上がると困るけど、あなたも沢山お世話になっているから仕方ないかな？」

こんな母とのたわいもない会話から、具体的に私が何をお世話になっているのか挙げてみようと思いました。

すると、小学校、中学校をはじめ、図書館や音楽ホール、体育館……私たちが良く利用する公共施設の維持、管理から教科書の配布や予防接種等の個人の為のものまで、幅広く税の恩恵を受けていることが分かりました。

私は小さい頃足が悪く、矯正用の外ぐつ、室内ばき、運動用の中ばきを使用していましたが、これらも税金から補助を受けていたのだと改めて知りました。私の使用していたものは医療用の装具で、完全オーダーメイドなため、一足十万円以上するものもあつたそうです。もし、全額自己負担だったら、全ての種類を揃えられなかったかも知れません。そして何かをガマンすることで、私の足が完全に治らなかったかも？と想像するとゾッとします。三種類のクツをはきわけたおかげで、今は普段通り運動もできる様になりました。

私がこの様に税金の補助を受けられたのは何と言っても、一生懸命働いて、しっかりと税金を納めてくれる人がいたからです。

昨年度の国の一般会計を見ると、税収はおおよそ四十二兆八千億円（法人税を含む）これを日本の全人口一億三千万人で割ると、赤ちゃんからお年寄りまで、一人当たり年間三十一万円程を納税している計算になります。この数字からすると実際の納税者の負担はかなりな額になると思われます。

参考までに私の従姉の給与明細を見せてもらいました。総支給二十二万円に対し諸税の合計が四万円以上が給与から直接徴収されていました。健康で忙しい彼女には、病院にも音楽ホールにも縁が無く、税の負担が大きいと感じるのもよく分かります。けれども税金は、本当に困っている人を助けたり、私たちの生活を守る、欠くことのできない社会の絆です。

私が将来納税する番になった時は、正しく税金を納めることで誰かを支えたいと思います。

そして同時に、本当に必要な人に必要な分が行き届いているか？また、無駄使いはないか？をしっかりと見極められるように、関心を持ち続けて行きたいです。

僕の家納税

能代市立常盤中学校 1年 大森 紫苑

最近、ニュースで消費税を引き上げするかどうかが、話題になっています。僕たち中学生にとって、一番身近な税は、この消費税なのではないでしょうか。実際、僕も買い物をする時に、直接支払う金額が増えるかもしれない、ということ、関心をもっています。

しかし、今回、税について、家の人と話をしてみて、消費税以外の税について、あまり知らないことに気がつきました。たとえば、税金はすべて国に納められていると思っていましたが、実際は県民税や市民税があるということ、初めて知りました。また、いつも乗っている車にも自動車税が、燃料のガソリンにもガソリン税があると知り、たくさんものものに税金がかけていることに驚きました。

これはよく考えてみると、当然のことかもしれません。なぜなら、学校や警察、消防、整備された道路など、僕たちの生活のほとんどが税金によって支えられているからです。

僕の家では、買い物をした時の支払いのレシートや領収書は、二種類に分けて保管しています。一つは、日常生活に使った買い物の領収書。もう一つは、農業に使った買い物の領収書。領収書の入れ物が二つあり、別々に保存しています。

なぜ、こんなことをしているのか、不思議に思うかもしれませんが、僕の家では大事なことです。それは、僕の家が兼業農家だからです。家の人たちは二つの方法で収入を得ています。会社に勤めて得る給料と、農家での収入です。そして、この二つを合計したものを一年分の収入として、申告して、税金を払っているのです。

だから、毎年、確定申告の時期が近づいてくると、祖父や祖母は大忙しです。二つの入れ物から保管していた領収書を出して、計算を始めます。日常生活にかかるものに関しては、領収書の中から、医療費などの控除の対象になっているものを計算します。

でも、一番時間がかかるのは、農業用の申告書の作成です。大きな机に領収書を置き、祖母と祖父が話し合いながら、領収書の仕分けを始めます。農業用の機械、ガソリン、灯油、農機具や農業用の車の修理などにかかったものについて計算をします。

時には、僕にも声がかかります。

「紫苑、電卓持ってきて。」

「紫苑、いらぬ紙あったら、ちょうだい。」

毎年、何気なく見ていた僕の家風景。その中に込められていた税金の意味。会社で働きながら、田んぼや畑の作物を育て、出荷する家の人たち。その苦労が税金となって僕たちの生活を支えていることに、初めて気がつきました。

将来、僕も家の人たちのように、一生懸命働き家族を支えたいと思います。そして、きちんと確定申告をして、税を納め、社会を支えることのできる大人になりたいと思います。

自分なりに考えてみた消費税

横手市立十文字中学校 3年 高橋 京佑

連日のロンドンオリンピックの華やかな報道に気をとられているうちに、消費税増税関連八法案が成立した。翌日の新聞を見ると、増税のニュースは、五輪三連覇を果たした女子レスリングの吉田沙保里選手の晴れやかな笑顔よりも大きく、トップ記事として報道されている。それはそうだ。消費税が、十四年四月には八パーセント、十五年十月には十パーセントまで引き上げられるという大き過ぎる出来事なのだから。今、僕が欲しい六十一巻の漫画を全部揃えると、増税後は、千二百二十円も余計にお小遣いから出す羽目になる。

テレビの街頭インタビューでは、賛否両論の声が流れてくる。再来年の春から、財布を開く母の愚痴が増えることは想像に難くないが、正直なところ、今の僕には、増税が是か非かよく分からない。新聞を見比べても、全国紙は「財政健全化への歴史的な一歩」「画期的」と評価しているのに対し、地元紙は、「国民本位に立ち戻れ」と批判的な論調に終始している。新聞の意見も真っ向から対立しているのだ。肯定派の言う、先送りしてきた借金体質の国家財政を立て直す歴史的一歩だとか、国際的な日本の信用を危機一髪で食い止めたとか、待ったなしの社会保障改革に着手できるといった記事を読むと、なるほどと納得できる。その一方で、反対派が主張する、今、不況に苦しむ国民に更に重い負担を強いるべきか、まだ改革の中身が不十分なのに増税先行か、民主党のマニフェスト違反ではないかなどの言葉にもうなずける。読めば読むほどどちらの意見ももつとも思えてくる。

その中で、与謝野馨元財務相の「国家とは、国民が割勘で運営している組織だ」という言葉が印象に残った。国民は割勘で出したお金で、社会福祉、警察、道路整備、ゴミ処理などのサービスを国家に運営してもらっている訳だ。公立中学校の生徒一人当たりには年間九十七万九千円もが教育費として税金から出ている。国民の皆さんの割勘で出してもらっていると思うと有り難いことだ。組織の運営費が足りなくなったら、借金を重ねるだけでなく何らかの方法で調達しなければならぬことは僕でも分かる。シンプルに考えれば、節約しても駄目なら割勘を少し増額するのも仕方ない気がする。ただ、上手に節約できているのか、その運営費が正しく使われているのかを常にチェックする必要があるのだろう。

増税の是非について自分なりの結論は出ていないが、今、僕に出来ることは、今後、政策がどう動き行われていくのか、それをよく見る「眼」を持ち続けていくことではないかと思った。オリンピックの華やかな舞台上で競った選手たちの何人かは、目立たない地道な努力によって栄光を掴んだことを話していた。消費税のことを考えながら、この夏僕が得たことは、たとえ僕一人の力は目立たなくても、中学生なりに政治に関心を持って、よく見る「眼」を持ち続けたという強い思いだ。

みんなのために

大仙市立中仙中学校2年 佐々木 凜生

一億四千万円。一体、何の値段でしょうか。実はこれは、私が夏休み中に見学してきたはしご車の一台の値段です。正直、驚くべき値段です。私も最初聞いた時、びっくりしました。さらに驚いたのが、このはしご車が大仙市と仙北市に一台ずつあるということです。つまりこの大曲仙北地域に、二億八千万円分です。消防署に勤務する父に聞いたところ、珍しいことではないとのことでした。さらに聞くと、高度な救命処置が可能な高規格救急車は五千万円、普通の消防ポンプ車で四千万円なのだそうです。すべて特注で造り、一台として同じ車はないということも驚きでした。

では、だれがこのお金を払っているのか。

それは、私たち市民です。私は今までこのことを知りませんでした。また、恥ずかしいことですが、この費用がどこから出ているのか、全く気にも留めていませんでした。これらの車の値段を高いと思うのでしょうか。この話を聞いたとき、私は、高すぎと思い、税金の無駄使いだと反論したい気持ちになりました。しかし、父の「市民一人を助けることができれば元を取れる。」この言葉で納得しました。これのおかげでだれかの命を救えると考えると必要な費用であり、簡単に「高すぎる。」とは言えないと思いました。

友人から、近所に何度も救急車が来る家があるという話を聞いたことがあります。その人は、「救急車だとすぐに駆け付けてくれて、無料で診察してもらえらるから。」と言っていたそうです。この話を聞いて、私は悲しくなりました。もしその最中にもっと重症な人が出たら、大きな事故が発生したらどうなるのか。確かに、税金はみんな平等に納めているのでみんなに救急車を利用する権利があります。それでも私は、この人の意見に納得できません。

最近、お互いがお互いを思いやる気持ちが少なくなり、それに隣近所の付き合いの希薄さが拍車をかけている気がします。これは、救急車だけに限りません。また近年では、救急車の運用がいきづまり、有料化の議論がなされているようです。しかし、原因をつくったのは私たちであり、同時に不便さを一番に感じるのも私たちなのです。みんなが出している税金をもっと大事に使う必要があると思います。

「納めているから」からのスタートではなく、「みんなのためにある」という税の原点に戻り、考えて行動することこそ、これからの私たちに求められているのではないのでしょうか。

税について

稲敷市立新利根中学校 1年 酒井 和真

僕宛に保健所から毎年送られてくる郵便物があつた。僕がその存在を知つたのは、つい最近のことである。それは、「小児慢性特定疾患治療研究事業」の継続申請書だ。

僕の腎臓は生まれたときから他の子とは違ふらしく、ずっと病院に通つていゝ。手術も二回した。一度目の手術は三才になる直前だったのであまり記憶に無い。一ヶ月以上入院したそうだ。両親は朝から晩まで僕に付き添うために、病院の近くにアパートを借りたという。手術費、入院費、アパートの家賃をはじめとする諸費用、両親はお金がいくらかかつても構わないからとにかく治つてほしいという気持ちだつたらしい。

そんな時、主治医の先生から、「育成医療制度」について病院の担当室に相談してみるようにアドバイスを受けたそうだ。その結果、僕の治療費は公費でも負担してもらへることになり、両親の負担額はずいぶんと軽減されたそうである。その後僕の両親は、主治医の先生の勧めもあつて「小児慢性特定疾患治療研究事業」に申請した。

この「小児慢性特定疾患治療研究事業」に登録している子どもの数は全国で約十万人だそうだ。平成二十三年度には百二十億円の予算がつけられた。小児がんや慢性の腎臓病などたくさんの病気が対象となっている。このような病気の治療は長期にわたつて行われるうえに、高額な医療費がかかる。そのために病気の子どもの抱える家族の経済的な負担を軽減する目的でつくられた制度だそうである。

高額な治療費が負担できずに命を落とす子どもがいてはいけない、ということであつた制度なのだと思う。健康で生活出来るのが一番理想だけれど、残念ながら病気になってしまう人がいる。僕は、二回の入院生活でたくさんの子と出会つた。生まれてから一度も意識を回復したことがない子、髪の毛が全部抜けてしまつてずっと帽子をかぶつていた子、点滴の針を刺す場所がなくて看護師さんが困つていた子、食べ物に制限がかけられて、ほとんど食べられなくて泣いていた子、みんな好きで病気になつたわけではなかつた。でも生きるために頑張つていた。

健康な人たちの見えないところに、健康な人には絶対に分からない苦勞をしている子どもがたくさんいるのだ。その子どもたちが元気になるためにも税金は使われている。

僕は幸いにも今元気だ。年に一回届いていた書類も今年は届かなかつた。去年から申請するのをやめたからだ。主治医の先生に「治つたよ」と言われたわけではないけれど、僕は今元気だ。

僕は大人になったら、しっかり働いて税金を納めたい。病気の子どものたちの治療にも使われる税金を、今度は僕が納める側になりたいと思う。それが懸命に僕の治療をしてくれた人たちへの恩返しにもなつてほしい。

みんなの税金

栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 3年 星野 果穂

私は、お盆休みに祖母とお墓参りをしました。祖母は手を合わせて「おかげさまで元気です」と、小さく言いました。

祖母は少し前にかんになり、手術のために入院していました。いつも元気でそばにいてくれた祖母が弱っている姿を、初めて見て、とても心が痛みました。しかし、今ではすっかり元気になって、毎晩おいしい夕ご飯をつくってくれます。

祖父母は高齢者だから年金をもらって生活していること、祖母が病院で受診した時にも、一部が税金で賄われていたことを後で知りました。そして、私たちの生活に寄り添い、支えてくれる税金に気が付きました。興味を持ち、社会の教科書などで税金について調べてみると、様々な発見がありました。

まず、私が税について調べるために使ったその教科書が、税金で支給されていたことです。公立学校の中学生は、年間で約百万円も教育費としてもらっています。また、東日本大震災復興特別会計も設けられています。今もなお、深い傷跡が残ったままの被災地が一日でも早く復興するため、とても大切な税金の一つだと思います。さらに、私たちの安全を守ってくれる警察や消防にも税金が使われています。国民一人あたり、一年間に警察や消防に使われる税金は約四万円だそうです。

しかし、私が最も驚いたのは、国の「借金」にあたる公債金です。国が国債という証券を発行し、これを国民などが買うことでうまれるお金のことです。国債の残高は、平成二十四年度末には七百九兆円になると見込まれていて、元本と利子の支払いに使われる国債費は歳出の中で大きな割合を占めています。この先もずっと公債が増えていき、国債費の割合がもっと大きくなれば、国民のための「借金」で国民が苦しむことになってしまいます。だから、税金の使い方をよく見直す必要があると思います。

また、税金の使い方を見直しても、税金が足りないのも事実です。政府が増税をすると、国民からの批判が大きくなります。でも、誰のための税金かといえば、ほかでもなく私たち国民です。そのことをよく理解したうえで、税金を納めるべきだと思います。そして、国民全員が日々のなかで、税金で支えられて生きていることを認識することが、重要なのだと思います。

少子高齢化がますます進む日本では、社会保障がとても重要になってきています。様々な税による保障をうけると同時に、税のある安心を感じられるような税の使い方を考えていきたいと思います。また、これからの日本の財政を支えるのは、私たちです。自分が納める税金が、少しでも誰かの役に立つという思いやりの心を持って、納税できる社会人になりたいと思います。

税による見えない基盤

群馬大学教育学部附属中学校 3年 国松 由梨花

数ヶ月前、学校から帰るとただ事ではない空気を感じ、すぐに母の蒼白な顔を覗いた。「おじいちゃんが癌になったみたい。これから検査や入院で大変だけどわかっていてね。」と告げられた。昨日まで楽しく一緒に話していた祖父ただけに、実感がわかなかった。少し冷静に受け止められたのは、随分たってからだった。治療が始まり祖父と話していた時ふと気になって、

「癌の治療や手術って、すごくお金がかかるんじゃない？」と聞くと、「高齢者だから医療費が安いんだよ。保険があるから安心して治療を受けられるんだ。」と返事が返ってきた。私は医療費を心配することなく、祖父が治療に専念できることにとても感謝した。そんな事があり、今まで全く興味を持ったことがなかった、高齢者の医療費を知る必要がある事を初めて実感した。

「2008年から後期高齢者医療制度が始まり、75歳以上の高齢者すべてが対象となる。医療にかかった自己負担額はほぼ一割。現役世代人口の減少と高齢者人口の拡大を考慮して、この保険料負担割合は徐々に引き上げられていく仕組みである。」と調べてみてわかった。かつて医療費の自己負担が無かったことを考えれば少し負担が増えたとは言え、一割なら確かに楽だと思う。そして何より、その医療費を支えているのが国の税金であることを忘れてはならないと思った。

日本で第一の問題となっているであろう「少子高齢化」。今後日本は、医療費を担っていくだけの税金を十分確保していけるのだろうかと不安になる。これまでの医療費を含めた税金の基盤は、高齢者の方々が何十年にも渡り支えて来た。今後は、少子化の時代に生まれた私達納税者が自覚を持って税を納めることが必要なのだと改めて感じた。

現在インドネシアでは、平均年齢が27歳だと聞き本当に驚いた。テレビの画像からは、国や国民の勢いや熱気が伝わり、経済成長の著しさが感じられた。今の日本からは想像もできない光景だが、日本も昔は若年層がもっと厚く、社会不安がこれほどではなかったのだと思う。インドネシアは日本とは文化や気候、社会情勢が全く違う。社会保障制度も全て違う。しかし高齢化の国だからと衰退するのではなく、未来を嘱望できる国に育てるために、日本の時代にあった税の制度を考えて行くべきだ。もちろん消費税増税などの処置も仕方がないと思う。実際に社会福祉制度が充実している北欧諸国では高額な消費税を払いながらも豊かな生活を実現している。

今の私に出来ることはほとんどないかもしれない。しかし小さな買い物でも「何で消費税がかかるの？嫌だなあ。」と「税を払う」ということだけに着目せず、社会保障費をはじめとして、税によって生活の基盤が支えられていることにもっと感謝すべきなのだと思う。

税金で助けられた命

学校法人佐藤栄学園栄東中学校 1年 野口 姿奈

私は、四歳の頃旧国立成育医療センターで大きな手術をした。その時のことは、あまり覚えていない。でも、はっきりと覚えていることがある。それは、病院がこどもの国みたいで同じ年のこどもがいっぱいいて、みんな重い病気なのに明るかったことだ。母にきくと私は大泣き状態で、看護婦さんにかかなり迷惑をかけていたそうである。でも、私には意外に怖いとか痛いとかいう嫌な記憶は残っていない。完全看護のため、母と離れての入院生活は、辛かったはずなのになぜだろう。ひとつひとつ記憶をたどって思い出してみた。

検査室も手術室も病室もみんなこども用で手術室は、宇宙かプラネタリウムみたいだった。レントゲン室にも仕掛けがあった気がする。病室には、ひとりに一台のビデオ付のテレビがあって、おもちゃや絵本やビデオがいっぱいあった。食事もデザート付でかわいい星の人参やハートのご飯で、同じ病室のお友達と一緒に食べたような気がした。

おかげで私は、元気になり今ではほとんど病院に行くことはない。きっと治療費がたくさんかかったと思った。しかし、母によると現子育て支援医療助成金にあたる申請をさいたま市にしたので、全く医療費は払っていないそうである。つまり、私の命は大人の人達が納めた税金で助けてもらったのである。

私の場合、扁桃腺肥大と無呼吸症候群という病気で、すぐに手術が必要だった。でも、年齢が小さいため、普通の病院では手術が難しかった。だから緊急に対応できて、最良の医療ができる国立育成医療センターで手術を受けた。この病院は、こどものために国が税金で建てて、税金を使って運営されている。同じように県が税金で建てた県立小児医療センターが、私の家の近くに移ってくるのが二〇一一年六月に決まった。新生児集中治療室を三〇床に増やし、母子の医療機能も充実させるなど今まで以上の小児医療施設になる予定だそう。きっとたくさんのこどもの命を救うだけでなく、辛い入院生活や治療を少しでも楽しく希望のもてるものにする病院になるに違いない。

このように私達の生活と税金は、切っては切れない関係になっている。私はまだ、消費税しか払っていないが、生まれてから現在もいろいろな形で税金に守られ、助けてもらっている。だから私は、たくさんの人達に感謝して、大人になったら恩返ししたいと思う。姉は、私の入院生活をきいて、小児科医をめざして勉強して、将来は小児医療センターで働きたいと言っている。私は、自分を救ってくれた税金に関わる仕事をしたいと思っている。みんなの税金がどれだけの人々を救っているか、自分が困った時の助けになるかを伝えることができれば、「嫌々納める税金」でなく「生き生き納める税金」になると思う。そのためにも、一生懸命勉強したいと思う。

エールに感謝

阿賀野市立京ヶ瀬中学校3年 上野 きりか

「えっ。お父さんの病気、ガンなの。大丈夫なの？治るんだよね。」と私は思わず大きな声で母に聞いた。昨年十一月はじめごろ、四十歳になった父は会社の人間ドックを初めて受けた。再検査になってしまったため県立がんセンターで更に詳しい検査をしたのだ。その結果がクリスマスに分かったのだ。結果は悪性のガンだった。医師から「初期のガンではありません。」と言われたそうだ。二年前に母も大病を患って同じ病院に入院・手術をしやっと回復したばかりだった。しかも母の入院中に私と弟の世話をしてくれた祖父が突然亡くなってしまっていた。私達家族にはこの先どうなってしまうのだろうか。と不安で心が一杯になった。二月二十二日八時間もの命がけの大手術が無事に終わった。祖母も母も少しホッとしながらも必死で看病していた。私も心配で病院へ一緒に行った時に、看護師さんが「お父さん元気になって来たよ。娘が空手の大会で予選リーグを初めて勝ったよって大喜びしていたのよ。」と教えてくれた。「私たち職員も皆でエールを送っていたのよ。」と言ってくれた。看護師さんが自分の事を職員と言っていたので不思議と思い聞いてみた。「ここは県立の病院だから、皆の税金で運営されているのよ。私達は皆県職員なのよ。患者さんやその家族が元気になるようにエールを送る所なのよ。」と優しく教えてくれた。私は、病院の中にある図書館の本やパンフレットなどで出来る限り調べてみた。ガンという病気は日本人の二人に一人がかかってしまう病気だという事。年間で七十万の人が発症してしまう。そのため国は、平成十八年六月二十三日にガン対策基本法を作り、日本中どこにいても質の高い治療が受けられるように拠点病院の整備やガン専門医や薬物治療専門医、開発薬承認などの整備を進めてきた。平成二十四年度では全国に三百九十七施設。新潟県には九つの拠点病院があり新潟県立がんセンターはそのうちの中心的な役割を担っている事。又、入院前に自分の加入している保険事務所に「限度額適用認定証」の交付を申請しておけば所得や入院・手術の回数などに応じて医療費三割負担額から更に高額療養費現物給付となり退院時に控除されて請求されるため安心して医療を受けることができる。これは全て皆の税金で運営されていることを私は初めて知る事ができた。大切な家族が大きな病気になってしまっても皆の税金で支え合う仕組みに改めて感謝した。病気やケガをしない人間など存在しないからだ。今でも父の手術後一番苦しかった時の看護師さんの一言が忘れられない。税金は同じ国に生きる仲間の為、困った時に最大のエールとなろう。私も、今自分の出来る事を一生懸命努力し、将来困難に立ち向かう仲間の為精一杯のエールを送る納税者の一員になりたい。一人一人が支え合えば日本中で税金エールが響き合い必ず大きな「力」となるだろう。

税がくれたもの

白馬村立白馬中学校 3年 嶋田 多希

近所のおばあちゃんが救急車で運ばれた。その知らせが耳に飛び込んできたとき、真っ先に心配したのは、彼女の体だった。そして私は、それを当たり前だと思っていた。

おばあちゃんは、身よりがなく、独り暮らしだ。生活保護を受けていて、金銭的に楽とはいえない生活を送っていた。

そんな彼女が、何の不安もなく病院へ行けたことへの有難さを私に教えてくれたのは、母だった。青年海外協力隊でインドネシアを訪れたときの話を、母はぽつりぽつりとしはじめた。

インドネシアでは、病院へ運ばれても、すぐ治療をしてもらえないわけではない。まず薬局へ行き、手術や手当に必要なものを買わなければならないのだ。金が足りなければ、治療はできない。母は、親戚全員が集まったが、手術のための金が十分になく、生きる望みを絶たれた若い女性が忘れられないという。

生活保護を受ける人は医療費を支払わなくてよい、と日本では決まっている。つまり、社会的に弱い立場にある人々が不自由なく暮らせる仕組みができているということだ。だから、おばあちゃんは病院に行けた。だから、私は真っ先に彼女の体を心配することができた。それが分かったとき、私は感謝せずにはいられなかった。私たちの生活を支えている「税」という大きな存在を感じて。

堅苦しい印象しか持てなかった「税」の文字。今は少し、輝いて見える。きっと、この一文字には、税を納める人の誇りと、税によって支えられる人の喜びが詰まっているのだろう。将来、社会を担う一員となったとき、私の目に映る「税」の文字は、今よりもっと頼もしくなっているだろうか。

近所のおばあちゃんが救急車で運ばれた。その知らせが耳に飛び込んできたとき、真っ先に心配したのは、彼女の体だった。金でも薬でもなく、体だった。そうできたことに、私は幸せを感じる。喜びをおぼえる。そう、この幸せも喜びも安らぎも皆、税がくれたものなのだ。

税でつながる「絆」

千葉市立葛城中学校 3年 福島 南帆

父のお給料からたくさん税金が引かれている、と母が言っていたのを聞いたことがあります。そのときは、税金は消費税でもう払っているのにどうしてそんなにたくさん税金を払わなくてはならないのだろう、と思いました。しかし、調べてみると本当は、税は全ての人に分け隔てなく恩恵をもたらす、すばらしいものなのだ、と気づきました。

たくさんの人々が納めた税金はどのような形で国民に還元されているのでしょうか。祖父に訊いてみました。

訊いてみると、いつも私が何げなく利用している施設、設備の多くが人々の税金で運営されていることに、とても驚きました。私たちが勉強できる環境、私たちが歩く、滑らかに舗装された道路。無料で遊べる公園、たくさんの本を読むことができる図書館。毎晩灯る街灯。何かあったらすぐに駆けつけて下さる警察の方、消防の方、救急車。みんな税金のおかげなのです。たくさんの人々が一生懸命働いて稼いだお金——税金で私たちは毎日を快適に過ごすことができているのだと実感しました。

また、国民全員がお金を出し合えば、金額は少しずつでもそれが集まれば、色々なことを動かすことができる大きな力となるのだと思います。その力で、一人では難しいことでも、例えば、職を失った人の生活の保護であったり、ボランティアの人たちへの援助であったり、そのようなことをすることができるのだと思います。

一昨年、東日本大震災が起こり、多くの尊い命が失われました。仮設住宅が建てられ、被災者の方の生活が向上した今でも、精神面や仕事など、助けが必要な人は、まだまだたくさんいることでしょう。津波によって破壊されてしまった町も立て直さなくてはなりません。原子力発電所の問題もあります。しかしその問題には全て、お金がかかってしまいます。民間の企業やボランティアが全てを支援するには無理があるでしょう。ですから税金によってみんなの力を結集すべきだと思うのです。

今、国の財政はとても赤字になっていると聞きました。そのため消費税率を十パーセントに引き上げるそうです。私は日本の未来のためにも増税に賛成です。それで日本が全ての人々が安心して暮らせる国になるのなら、納める側の人にも意義があると思います。

国民が払った税金は大きな力となり、たくさんの人々に幸せを齎しています。実現できることの幅が広がり日本国内に留まらず外国に対しても義援金や援助ができているのだと思います。これは税を納めることで国民が団結したからではないのでしょうか。税金は国民全員を結ぶ「絆」となっているのだと思います。私はその「絆」の一員になることができるように、みんなの幸せのために、豊かな生活を営むために、そして日本の未来のために、しっかりと税金を納めていきたいと思っています。

「助け合い」の貯金

船橋市立宮本中学校 3年 谷口 有咲

「税」について考えて、まず最初に思い浮かんだのが「年貢」だった。ボロボロの着物を着た農民が汗水たらして作った米を立派な格好をした偉そうな人が馬に乗せて持ち去ってしまう。これが、何かの時代劇で見た「年貢」の印象であり、私の「税」に対するイメージも大して変わりはなかった。

しかし今回「税」についての作文を書くために、私なりに調べてみてそのイメージは変わった。

何でもそうかもしれないが、何かを考えるときに大切なのは、視点を変えることだ。今回調べてみて、「税金を払う側」ではなく、「税金を使う側」で「税」というものを考えることができた。

朝起きて顔を洗う。その水道は税金によって維持されている。学校に行く。通学路がきれいに舗装されているのも税金。安全に通行できるように作られている歩道も税金、信号も税金。学校に着く。校舎も税金、私たち生徒安全に過ごすための耐震工事も税金。授業を受ける。私たちが普段使っている教科書も指導してくださる先生方のお給料も税金。部活に行く。体育館もボールも税金…。

考えてみればキリがない。私が普通で当たり前だと思っていた毎日の生活が、税金によって成り立っていて、税金によって守られていたのだ。さらに普通ではない状況、何か起こった時にも税金によって守られていることを知った。

私はまだ四歳くらいの頃、難病といわれる病気にかかり、一カ月ほど入院したことがある。まだ小さかったので、毎日打つ注射やあの独特な雰囲気か怖かったことしか覚えていない。でも今になって考えてみれば、あの時の治療にかかった費用、入院にかかった費用は全て税金が使われていたのだ。

昔は三パーセントだった消費税が、今は五パーセントだ。そしてさらに今、増税されようとしている。二〇パーセント以上の国もあることを考えると、今の日本の消費税は低い気もする。しかし高いとか低いではなく、使う側からみれば、いくら必要なのかということだと思う。そう考えてみれば簡単に増税反対だなんて言えなくなるはずだ。少なくとも税金のおかげで今こうして元気に生活できている私は、正しい使い方をされる税金になら喜んで払う。今までの私を含めて、日本人の税金に対する印象が悪すぎるような気がする。税金についてももっともっと知ることで、きっとその印象も大きく変わってくるのではないだろうか。

一〇〇円の買い物をする時に払う五円が誰かのためになる。「税」とは、一方的に奪われる「年貢」ではなく「助け合い」のための貯金みたいなものだから。

国の歳出と私たちの生活

葛飾区立上平井中学校 3年 鈴木 菜桜

最近、よくニュースや新聞で「税金」という言葉を目にします。昨年までの私は、その言葉を気にも止めませんでした。しかし、中学三年生になった今、公民の授業が始まり、税について考える機会が増えてきました。税金とは何かを知ることは、国の現状を理解するきっかけになるとと思います。そこで私は、授業で習ったことと合わせて、税について調べてみました。

私達国民は、所得税や消費税、法人税を国や都道府県に支払っています。国に集まった税金は一体何に使われているのでしょうか。一年間の国の歳出の内訳をみると、次のようになっています。全体の五八・八パーセントは国家事業のために使われており、その内の二九・二パーセントが社会保障関係費、五・一パーセントが公共事業関係費、〇・六パーセントが震災復興費となっています。その中でも私が最も興味を持ったのは、震災復興費です。二〇一一年三月に発生した東日本大震災の復興経費として、今年度は三兆五七三四億円が当てられています。これには、仮設住宅の提供に使われる「災害救助等関連経費」や、がれきなどの処理に使われる「災害廃棄物処理事業費」が含まれています。私の親せきは、宮城県沿岸部に住んでいます。三月十一日、親せきの住む地域に津波が押し寄せ、家が流されたり、全壊するなど甚大な被害を受けました。その一年後、宮城県沿岸部を訪れました。そこにはがれきが山のように積まれ、胸が痛みました。しかし、私の親せきは明るく生活していました。私は、日本は復興に向けて着実に前進しているのだな、と実感しました。今、被災地ではがれきの処理が行われ、施設が復旧されるなど、復興が少しずつ、確実に進んでいます。これらが私たちの納める税金で行われていると知った今、税金を支払うことは、私たちが私たち自身で明るい未来を築いていくために欠かせないことだと強く思うようになりました。

社会保障関係費も同じです。社会保障関係費は、国の歳出総額の約二九パーセントという大きな割合を占めています。その中に、医療費や介護給付費が含まれています。つまり、私たちが税金を支払うことで、尊い命が救われ、一人でも多くの方が安心して生活することができるのです。

税とは一体何かを調べていくと、税は私たちの生活の一部であり、なくてはならないものであることが分かりました。私たち中学生にできること、それは税と向き合い、真剣に考えることだと思います。一人一人が税金を納めるのは大切なことだと理解し、生活に欠かせないと感じることが、将来日本が人々にとって過ごしやすい国になる、大きな一歩となるのではないのでしょうか。

消費増税が欠かせないワケ

品川区立荏原第五中学校 3年 藤本 彩花

今夏八月十日。消費増税を柱とする社会保障と税の一体改革関連法が成立しました。現行5%の消費税率は14年4月に8%、その翌年10月には10%へと2段階で上がり、増収分はすべて社会保障として国民に還元されると発表されました。先進国の中であまり良くない状態にある日本の財政の健全化に向けて大きな一歩となったのではないかと思います。また、社会保障関係費が年約1兆円のペースで膨張している中、消費税率が10%に上がることで、現在より約13兆5千億円も税収が増え、現代日本の様々な社会問題の解決にも役立つのではないかと思います。

しかし、安心してばかりいるわけにはいかないと思います。日本はこの改革法が成立したことで財政再建へ向けて少し前進しましたが、経済の活力を高める成長促進策や抜本的な社会保障改革など、経済再生のためにしなければいけないことはまだ多くあると思うからです。国の財政への信認が崩れたときにいちばん被害を受けるのは国民の暮らし、そう欧州経済危機は私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。年金の大幅な削減や増税を一遍に実現しないと、失った市場の信頼は取り戻せなくなるよ、と伝えているのだと思います。

この法の成立は、日本が財政の健全化に本気であることで大きな意味を持ちます。先進国の中で最悪の状態の日本の財政の信認を支えるよりどころは、他国に比べ消費税率が低く、増税余地はあるという点であり、問われていたのは実行力だったと思います。

「デフレなのに消費税率を上げるのはおかしい」「庶民の生活を苦しめるだけだ。」法案成立に先立って開かれた参議院の中央公聴会では、そのような意見が相次いだそうです。目先だけみれば確かに物を買うときにお金を多く払わなければいけなくなるからその通りだけれど、世界最速で進む高齢化の中で増え続ける社会保障費をどう賄うのか、という超難問から目をそらすわけにはいきません。国民がみんなて負担を分かち合わなければいけない消費増税。つらいけれどやむをえない選択といえると思います。

けれども、増税がもたらす新たな課題には真剣に取り組む必要があります。大企業の取引先に対して弱い立場にある中小企業には増税分を価格に転嫁できず利益を削るしかなくなるという懸念が強くなります。そのため、増税の負担が相対的に重い低所得者に理解してもらうための政府の方策も欠かせないと思います。

しかし、消費増税だけで政治のエネルギーを使い果たしてもらっては困ります。なぜなら、増税は高齢化や人口減少などという逆境を乗り越えて経済を再生させるための条件の一つにすぎないと思うからです。

人の為、国の為になる税金へ

大田区立志茂田中学校3年 三橋 幸奈

「あなたは、税金のありがたさを忘れてしまったのですか。」

テレビで、「増税反対」という文字をかかげ、必死になっている大人達の姿を見ると、私はこう彼らに問いかけたくなる。確かに、彼らの気持ちは分からなくもない。不景気で失業者が増加する今の世の中。今の状況で生活するのがやっただというのに、さらに税金の負担が重くなるのが、堪えられないのだろう。しかし、税金は、彼らが言うほど悪いものなのだろうか。

私も以前は、働いてもいないのに、税金を払わなければならない理由が分からなかった。ところが、ある体験を通して、私の考えは一八〇度回転することになる。

去年の夏のことだ。私は、区の代表で海外派遣生徒として選ばれ、ドイツへ十二日間研修に行った。日本から共に来た、先生や区の役員さん、そして現地では日本人ガイドの方やホストファミリーなど、たくさんの人によって守られ、支えられたおかげで、私は何一つ不安もなく、十二日間過ごすことができた。その上、ものづくり体験や現地の学校訪問など、盛り沢山の体験プログラムで、心身共に大きく成長できたように思う。普通ドイツへ十二日間行くとすると、三、四十万は優にこえる。しかし私が負担した費用といえばパスポート代位で、後は区の税金によるもの。さらに、派遣生徒数は五十六名だから、全員分の料金を考えてみてもその額は計り知れない。医療費や福祉費など、もっと多くの人の為になる使い道があるのに、たった五十六名の私達の成長を願って使われた税金。私は税金のありがたさを身をもって感じた。また私は、税金とは人々が成長していく為の、陰の応援団のような存在ではないかと思った。

今まで税金を払うことが嫌だった私が、この体験を通して、喜んで払えるようになった。誰かがこの税金のおかげで、自分の成長へつながることができるのなら。この税金が、そんな人達の陰の応援団という立場で支えられることが、私は誇らしく思う。

税金が無駄なことや悪徳官僚によって使われていることは事実だと思うし、それを知って税金を払いたくないという人がいるかもしれない。しかし、税金が私達の生活の為に使われているのは確かだ。現に、私達が使っている教科書はその証なのではないか。今こうして生きている、それも税金のおかげと言えるのではないだろうか。

国が今、多額の借金をしてまでも、教育費や医療費を賄っているのは意味があると思う。それは、私達がきっと将来成長して、お金に変えられない、かけがえのないものを日本にもたらしてくれる、そんな願いが込められているのではないだろうか。だから、増税反対な人も今一度税金のありがたさを理解し、税金が国の為、人の成長の為に使われる社会をつくることが必要だと、私は思う。

増税の意味

伊勢原市立成瀬中学校 3年 足立 理紗

「増税反対」「国民を殺す気か」

各地でデモをする人の声が鳴り響いている。

今年八月、消費税増税法案が国会で成立した。「社会保障と税の一体化改革」の一環として、社会保障の充実・安定化と財政の健全化を達成するために増税がなされる。最終的に消費税率は現在の五パーセントから十パーセントに引き上げられる予定だ。

それに伴って、国内では増税反対のデモが行われている。一説によれば、日本国民の約八割が増税に反対しているとも言われている。確かに私達日本国民にとって、消費税率は低ければ低いほど良いと考えるのが一般的だと思われる。

しかし、数多くの世界の幸福度ランキングにおいて上位を占めている北欧諸国のほとんどは消費税率が二十パーセント以上である。それに対し、日本ほどのランキングにおいても三十位以内に入るものは見当たらない。

なぜ現在の日本の四倍以上の消費税率であるにもかかわらず、北欧諸国は日本よりずっと幸福度が高いのだろうか。

これらの幸福度ランキングで常に首位を争っているデンマークの消費税率は二十五パーセントである。デンマークではその集まった税金で「ゆりかごから墓場まで」の手厚い社会保障が実現できている。国民の医療費の無償やあらゆる公共施設のバリアフリーへの対応、設備の充実など、小さな子を持つ親や障害者、高齢者を含む全ての国民への支援が行き届いている。また、教育費も大学まで無料で、十八歳以上の学生には生活費を支給するなど、国の未来を担う学生への手当も充実している。だから、税金は「取られるもの」という概念は無く、見える形で還元される、むしろ「喜んで支払えるもの」であり、税金に対する不満がないそうだ。

また、デンマークの国民は政治への関心が高いため、税金の使われ方に関する情報の公開性も高い。すると、政府は国民の納得しない税金の使い方はできないし、国民は自分が払った税金が有効に使われているという確証が得られるというところでも、国民の支持を得ているのだろう。

日本の話題に戻るが、もちろんデンマークのような税金の仕組みがそのまま日本にも適している訳ではないと思う。しかし、このような国から学ぶべき事はとても多い。これから増税されるにあたり、豊かな未来のためには、国民は消費税率の高低のみにとらわれず、どのように使われるかということに関心を向けたうえでしっかり税金を納め、まず国民と政府の信頼関係を築くことが大切だと思う。

今回の増税の目的の一つは、社会保障の充実・安定化と政府は公言している。だから私は国を信じ、より豊かな未来に期待して、正しく税金を納めていきたい。

誇りをもって

横浜市立篠原中学校3年 竹花 茉莉

今回、税金について調べた際、あらゆるものに税金が含まれていること、また、生活している中で、色々なことに税金が使われていることが解りました。

身近なことでは、私たち中学生に対して、よりよい教育を受けられるよう、一人につき年間約九十八万円もの税金が使われています。

公立の学校なので教育費はかからない、そう思っていたので、そんなに高いお金を使って勉強していたことに、とても驚きました。

一方で、脱税や申告漏れなどのニュースが多いことも知りました。収入をわざと少なく見せかけたり、日本での税金が高いからか、わざわざ仕事を海外に移したりするケースもあるようです。

喜んで税金を納めるというのは、なかなか無理なことかもしれないけれど、お金をたくさん儲けても自分の住んでいる国の将来には払いたくないというのは、なんだか悲しい気がします。

平成二十五年分の所得税から適用される復興特別所得税が創設されました。

私は、今年の夏、「しのはら仙台プロジェクト」という事業に参加し、実際に被災地「仙台」を訪ねました。現地で体験し、感じ、自ら何ができるかを考える、という活動です。それに先立って、六月には「心のきずな61」という復興支援の募金活動に参加しました。そのときに印象的だったのは、募金箱を抱えて立っている私にむかってくる人たちの、お金を出す時の顔が、とてもうれしそうに、そして誇らしげに見えたことです。

復興税が始まったら、みんなあの時の人たちと同じように、誇らしく納税をしてくれるのでしょうか。そうだといいな、と思います。

「義務だから納税をするのは仕方がない」、というのではなく、「日本の将来を私も考えています、応援しています」、という気持ちで納税できたら、また、国民みんなから集めたお金を、「無駄にはしません、大切にに使わせていただきます」、という気持ちで使えたらいいなと思います。

税金を大切に使わなくてはいけないのは、政治家の人たちや公務員の人たち、そして被災地の人たちだけではありません。国民一人一人、私たちみんななんだとも思いました。

私はよく図書館や、地区センターを利用しています。公共のものを大切に使うたり、また、何よりもまず、私は、私に与えられた九十八万円を無駄にしたりしないよう、ちゃんと勉強をしなくてはいけないと思いました。

未来を創る税

都留市立都留第二中学校 3年 岩澤 真優

以前、父が教えてくれた言葉に『One for all, All for one』がある。日本語に訳すと「一人はみんなのために、みんなは一人のために」といい、ラグビー精神の根本だそうだ。

私はそれ以来この言葉が好きになった。それだけではなく、私の生活のモットーになった。所属していたバスケット部での活動や、学級での活動の際、チーム（集団）での活動にこのような助け合いの精神は欠くことができないからだ。

この言葉の意味は、私なりに理解したつもりでいたが、つい先日、この言葉の新たな使われ方を父が教えてくれた。今は、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」と訳すことが多くなってきているということだ。スポーツにおける「目的」は言うまでもなくチームの勝利となるが、この言葉に注目すると「皆で助け合うこと」の必要性がより鮮明に浮かび上がってきた。

税については、社会の授業で学んだ程度で、その本質についてはよく理解できていなかったが、この言葉の意味を通して、私なりに税の大切さを理解することができた。

一人ひとりが大きな目的のために、またより明るい未来を創るために、少しずつお金を出し合う。大きな「日本」という船をしっかりと動かしていくためには「税」は欠くことができないものだと思う。

私たちの乗る「日本」という船の中には様々な部署がある。その多くが大切な税金によって運営されている。医療、警察、消防、道路などである。どれをとっても国民の生活を守るために必要不可欠なものである。私に直接関わる義務教育について考えても、中学生一人あたり年間約九十五万七千円もの税金が使われ、私たちの生活を保障してくれている。

最近、消費税の増税が議論されている。もちろん過度な増税は決してあってはいけませんが、東日本大震災の復興費用や年々増加する国の借金を減らしていくためには、ある程度の増税は仕方のないことだと思う。個人のわがままを通そうとするのではなく、日本人全員が幸せに暮らすことができるように、皆で大きな視点を持ちながら、未来について考えていくことが必要なのではないか。

これまで税の大切さについてあまり考えたことがなかった。税を納めることは、「損をする」という感覚さえあった。しかし、今回この作文を書くにあたり、税のことを調べて、改めて税の必要性を強く感じ、税を身近に感じることができた。

私たち子どもは今、様々な面で税によって守られている。このありがたさを決して忘れずに、社会人になった際、納税者としての意識をしっかりと持った人になりたい。そして、皆の共通の目的である「より暮らしやすい日本」、「より明るい未来」の実現に向け、努力し続けていきたい。

納得した税金

砺波市立出町中学校 3年 栗嶋 彩名

一年間のうちで自分が払っている税金がいくらなのか答えられる人はいるだろうか。税金には、所得税や法人税、住民税、中学生の私にとって一番身近な消費税など税にはいろいろあります。

今年、新社会人となって介護の仕事に就いた姉は、体のあちこちの痛みを訴えながらも毎日一生懸命働いていました。一ヶ月が経ち待ちに待った初給料。当然、ニコニコ顔で上機嫌な姉を想像していましたが、現実にはブスッとふてくされた顔で給料明細を見つめていました。姉の不機嫌になった原因は、総支給額の給料から所得税や厚生年金などの金額が引かれていることでした。頑張って働いた給料から、こんなに税金を盗られるなんて・・・と。税金というのは、どうしても「盗られる」という意識があります。でも、本当にそれでいいのでしょうか。逆に税金を「納める」というのも、私には何だか江戸時代の年貢を連想してしまいます。私は、税金は「支払う」ものであると思います。公共サービスという対価・見返りを期待して「支払う」ものです。

税金の使われ方は一般に、私達の健康や生活を守るための「社会保障関係費」道路や住宅の設備、整備のための「公共事業関係費」教育や科学技術を発展させるための「文教及び科学振興費」国の防衛のための「防衛関係費」発展途上国の経済援助のための「経済協力費」など数多くあります。その中で、特に私は「社会保障関係費」に関心があります。社会保障とは、医療、年金、福祉、介護、生活保護などの公共サービスのことです。私の姉が介護士であり、私自身も介護の仕事に興味があり、今年の春には以前お世話になった介護施設へボランティアに行きました。毎日たくさんのおじいちゃん、おばあちゃんがデイサービスを利用して、お風呂に入れてもらって幸せそうでした。こうした高齢者の方々が少ない負担でサービスが受けられるのは税金が使われているからだとして初めて知りました。

税金の種類や使いみちを活字で表示されているだけでは何の実感も湧きませんが、自分が実際に体験している場所で、税金がこんな風に使われているのかを目のあたりにするととても有難く感じました。少子高齢化が進み社会保障費はさらに増えていきます。私達が社会人になった時に支払う税金は、消費税だけでなく、さらに増え続けることでしょう。私も姉のように給料明細を見て不機嫌になるかもしれません。しかしそれ以上に自分が税金によって、たくさんの恩恵を受けていることを忘れてはいけなかったと思います。そしてその感謝の気持ちを持つことが、「税金を支払う」ことへの納得につながっていくと思います。

「活動費」と「税金」

鯖江市鯖江中学校 1年 齊藤 はるか

「社会で暮らしていくための会費のようなもの」

税金について調べていくうちに見つけたこの一文を見て、私はなるほどと思った。税金というと取られるもの、納めなければならないものといったイメージしかなかったが「会費」と考えると納得がいく。

私は吹奏楽部に所属しているが、年度始めに「活動費」徴収の案内が配られた。案内には「活動費は積み立て、ユニフォーム購入や遠征費用、楽器の補修に使います」とあり、併せて昨年度の活動費が厳正に監査・処理されたとの報告書もそえられていた。

私は、もし活動費を集めなかったら、と考えてみた。楽器の修理や遠征のたびに高額な集金があり、部員には相当な負担になるだろう。必要な備品も購入できず、満足な部活動ができないかもしれない。

次に、活動費が払えない人がいたら、と考えた。そのような場合を考えて、活動費は一括払いか、半年ごとの分割払いかが選択できるようになっていた。これなら、部員の都合に合わせて活動費を払うことができる。両親も「学校の活動なんだから仕方ない。大事に使ってもらわないと」と言って活動費を出してくれた。

そして最後に、故意に活動費を払わない人がいたら、と考えてみた。集まるべきものが集まらないので、少ない活動費の中でやりくりしなければならない。そうすると、修理して使うべき楽器が直せない、人数分のユニフォームが揃わないといったことが起きるだろう。そして何より、活動費を払った人と払わない人とで不平等になりはしないか。部員の人間関係がぎくしゃくするかもしれない。

こうやって考えてみると、活動費も税金も同じだと思った。国民が納めている税金でこの社会が成り立っていて、税金は、国民が幸せになるために使われる。

私はまだ中学生で、税金にお世話になってばかりだけど、いつか社会に出て税金を納める時が来る、その時は、これまで受けてきた医療や福祉、サービスに感謝し、これからもその恩恵を受けられるよう、本当に困っている人を助けられるよう、笑顔で税金を納められる納税者になりたいと思う。

それから、活動費徴収の案内には、次のような文章も書かれていた。

『吹奏楽部の活動費は高額ですが、部の活躍を応援する鯖江市から補助を受けています』

税金とぼくらの暮らし

豊橋市立南稜中学校 1年 田中 蒼大

六月二十八日、衆議院本会議で「消費税増税法案」が可決された。このまま行くと、二〇一四年四月に八パーセント、二〇一五年十月には消費税が十パーセントにまで引き上げられる。

日頃、税金についてなど、深く考えたことのないぼくだが、これは中学生のぼくにとっても直接ふりかかって来る問題ではないかと思う。消費税は実際にものを買ったり、サービスの提供を受ける時にすでに組み込まれていて、もっとも身近な税金である。あまり負担しているという意識もない。だがこれが今よりたくさん支払うことになると思うだろうか？

日本の消費税は、世界の国々と比較してもとても低い税率だと言われている。特に北欧の国々は消費税が高いことで有名だ。それにもかかわらず、国民の幸福度はすごく高い。北欧では、病院は無料、大学まで授業料は無料、給食費も無料、老後の暮らしも保証されていて国民は貯金などしなくても安心して過ごせるという。つまり、払った分だけ国が国民のために税金を使ってくれるという訳だ。一方、日本は国民の幸福度がすごく低い。それは国がムダな使い方をしていたり、一部の人だけが得しているだけで、自分達には何も恩恵がないと感じているからだ。

でも本当にそうなのだろうか？北欧の国々のように、働いてかせいだお金の大半を税金として納めることになれば、もっと頑張って働こうという意欲が低下してしまうことはないのだろうか？

ぼくらの生活をあらためて振り返ってみると、学校で配られる教科書や赤ちゃんの頃から何度も受けている予防接種などは全て税金でまかなわれている。身の回りにある公共施設や道路、公園は税金で管理されている。ぼく達の暮らしを安全に守ってくれている警察署や消防署、またそこで働く人々の給料も税金で支払われている。震災にあった人達への援助や、救援活動を行ってくれた自衛隊などにも税金が使われている。他にもあげたらきりが無い…。そう考えたら、「どうして税金を払わなくてはいけないのか」という答えは自然とわかってくる。

人は「税」を通して互いに助け合って生きているのだ。今、ぼくらが払う消費税なんてほんの一部に過ぎない。ぼくの両親や祖父母を含め、多くの大人の人達が支払ってくれている様々な税金がぼくらを支えてくれている事に感謝しなければいけないと気づいた。さしあたって、ぼくは配布された教科書を大切に、しっかり勉強したり、病気やけがで病院に行くことがないように、健康に元気に過ごすことが小さな恩返しだと思う。

税の大切さ

清須市立新川中学校 2年 古川 未紗

これまで税について関心がなかった私が税について考えるようになったのは、昨年三月十一日に起きた東日本大震災がきっかけでした。

私は、一瞬にして、人や家が津波に飲み込まれていく映像をテレビで見て、言葉をなくしました。多くの人々が、家や家族、大切な人を失いました。自然災害の恐ろしさを知ると共に、被害に遭われた方々のやり場のない憎しみ、そして、悲しみを思うと胸がしめつけられました。

このような状況の中、被災直後から多くの自衛隊や消防、警察の人たちが被災者の救命援助、がれきの処理、道路の復旧作業などにあたっていました。そして、早急に仮設住宅も建てられました。その時、それらにかかったお金は、日本国民が支払った税が使われていることを知りました。それまで私がもっていた税に対する「とられる」、「損」という気持ちが打ち砕かれ、税の大切さを改めて感じました。そして、税は私たちの暮らしの中の様々なところで役立っていることに気がつきました。私の身近なところでも、教科書、先生の給料、学校の校舎と体育館、机といす、図書室の本などたくさんのところで税が使われていました。今、私が楽しく学校生活を送ることが出来ているのも、税のおかげだと感謝の気持ちをもてるようになりました。

最近、増税という政策が挙げられ、議論されているニュースをよく目にします。震災から一年以上経った今でも、多くの人たちが不自由な生活を余儀なくされ、震災がれきは山積みされ、処理の見通しがつかないままです。今日本は、復興のためにはどうすればよいかということを考えて、一刻も早く前に進んでいかなくはいけません。復興のためにはばく大なお金が必要となってきます。私は、復興のためには増税もやむを得ないと思います。税は、道路、学校など公共施設の復旧、整備そして被災者の生活支援などに使われようとしています。このような時こそ、本当に必要としている人たちのために大切に使ってほしいと思います。国全体で税を使って復興していくことは、国民の絆を深め、明るい未来へつながっていくと思います。一日も早い復興を願う気持ちは、国民みんな誰も同じです。納得出来る使われ方なら、国民の理解もきっと得られるはずです。

税の大切さを知るためには、税の使われ方をしっかり知ることが必要だと思います。私たちが納めた大切な税だから、私たち一人一人が、税にもっと強く関心を持ってほしいです。

私は、今まで安心して安全な生活を送ることが出来たことを、当たり前と思わず感謝し、互いを思いやり、支え合うことの大切さを忘れず、これから過ごして行きたいです。そうすれば、気持ちよく笑顔で納税出来ると思います。

中学三年生になって、社会科が公民になった。新しい教科書を開き、頁をめくった時、(あ、この本、この間読んだ。)

と思った。中三になるという春休み、母に勧められた『あたらしい憲法のはなし』だ。(昭和二十二年だよ。“あたらしく”ないよ。あー、ゲームやりたい。面倒一。)正直そう思って受け取った。しかし、読み始めると違った。何故だか、とても厳粛な気持ちになった。『春から中三だし、義務教育最後だし。それに震災から一年経ったから。』と本を手渡された意味が少しづつ判り始めてきた。

昭和二十二年。日本国憲法が公布された翌年、今の私たちと同じ中学生の為の教科書として作られた本の中には——皆さんの中には今度の戦争でお父さんやお兄さんを送り出された人も多いでしょう。ご無事にお帰りになったでしょうか。それともとうとうお帰りにならなかったでしょうか。また空襲で家やうちの人をなくされた人も多いでしょう。(中略)二度とこんなおそろしい、悲しい思いをしたくないと思いませんか。——とあった。新しい憲法にこめられた祈りにも似た思いが綴られ、それが三・一一の震災後と重なり、胸に迫ってきた。

真新しい教科書を閉じ、手を載せて目をつぶる。毎春、当然のように教科書を受け取ってきた。憲法第二十六条による教育を受ける権利と、憲法第三十条納税の義務に支えられた教科書の無償配布、そして施される日々の学校教育。あの『あたらしい憲法のはなし』で学んだ中学生とその家族が、戦後復興と高度経済成長を支え、私たちの親世代を育み、その恩恵は、今の私たちに受け継がれている。——空襲で焼けた所へ行っごらんさい。焼けただれた土から、もう草が青々と生えています。草でさえ力強く生きてゆくのです。ましてや皆さんは人間です。——再び『あたらしい憲法のはなし』を読みながら、私は思う。大震災後の復興、既に到来している高齢社会。あの戦後の中学生たちと、あと数年後には社会に出る私たちが背負うものに何の違いがあるのだろうか。誰もが健康で文化的な生活を送るために必要な、その源となる“税金”。教科書・学校、道路・水道、消防・警察、医療・福祉……。私たちは今まで、“納税”によって支えられた数々の社会資本の恩恵に守られ、大きくなった。そして間もなく義務教育が終わる。義務教育で学んだ九年間を土台にして、更に学び、私たちは夢を叶えるだろう。社会人となり、今度は“納税者”となって、社会を支えるのだ。

“税金”は“明日へのバトン”だ。学生という助走期間を経て、“納税者”というバトンを受けとる。社会を支え、次の世代を育み、いつかバトンを渡す時まで、強く強く走り抜く。それは単に“義務”でない。それこそが受け継がれてきた人の“生きる姿”だと思う。

自分で未来の自分を助ける

大津市立皇子山中学校 3年 能澤 絹佳

税の事を少しずつ知る年齢になってきました。それまでは、使っている自覚がないので自分にどれだけの税金が使われているのかあまり気付く事はありませんでした。

朝目覚めてから、寝るまでに使った物、一つ一つに値段が付いていて、「本当は本日あなたの行動につかった税金は〇〇円です。」と知らされたら申し訳ない気持ちになったり、「今、捨てたペットボトルの処理には〇〇円かかります。」ちょっとおせっかいなゴミ箱があったらドキッとします。そのお金は誰が出してくれたのかと考えると税に感心を持つのかもかもしれません。どのサービスも堂々と受けられるように、納税の義務をしっかりと理解し、納税をスムーズにする生活を送らなければと思います。

あたり前の事ですが消費税は買い手が物を手にする時に、交換で支払うものなので未納がありません。販売店がその税をまとめて納付する義務をはたさなかったら、そこで届かない税金となってしまいます。信用して頂けるのですから、お店の方は責任をもって納税することが必要です。

事業が得意で収入が多い方は、その力を貸してあげて欲しいです。「税金がこんなに払えます。」と自慢して、成功をかみしめて下さい。でも、今の社会はどこかひねくれていて、高額納税者に感謝するのではなく「ねたみ」になったりして、気持ち良く公表できないのが残念です。税金は特別な遠い出来事ではなくとても身近な、自分がかかわれる行事だとは思えないでしょうか。

税の資料に目を通すと、あれも？それも？と知らなかった事がずいぶんとありました。私が働く頃には何人で一人を支えているのか気になります。目で見るわけではないので、少子高齢化の文字を見ても、どのような状態なのかははっきりとわかりません。だから資料を参考に自分が世の中の役に立つための準備をしたいです。

「天は全てお見通し」と祖母から聞いた事があります。「天はいい事も悪い事もみんな見ている。人にはわからないと思っている事でも天はごまかせないよ。」というような意味だったと思います。悪い事をしていつか責任を取らないといけないのなら脱税など恐くてできないはずですが。逆に元気で働き正直に生きていけば、天から助けてもらえるかもしれません。

公共サービスは充実しているほど豊なくらしに結びついていくと思いますが、小さな納税者の私達も、今からしっかり自分の役割を自覚して、「自分で未来の自分を助ける。」につながっていったらと思います。

健康で働けて、納税できる大人を目指したいです。みんなで力を合わせて信頼と協力ができたら、税のバランスがとれた、素敵な生活が約束されるような気がします。

税を考える

京都市立大枝中学校 3年 山本 菜由

私が暮らす地域の自慢は、綺麗に整備された道路や、たくさんの緑豊かな公園がある事です。小さい子供から、お年寄りの方まで、みんなが安全にのびのびと生活しています。

このような街づくりは、税金を使って行われています。街づくりを含め、公共事業は、多くの費用がかかりますが、利益が少ないため、これらを行う企業がありません。私達の街の素晴らしい環境は、税金がなければ、成り立たないのです。

私が、このように、自分の暮らしと税金について考え始めたのは、つい最近の事です。きっかけとなったのは、六月二十六日、「消費税法案」が衆議院を通過した事でした。新聞やテレビのニュースで大々的に報じられ、それまで無関心だった私も、この出来事について詳しく知りたいと思い始めました。

この日から私は新聞をよく読むようになりました。消費税増税が日本の経済にもたらす影響や、暮らしがどう変化するかなど、たくさんの情報を知っていくうちに、私は、自分の暮らしと税金に深い繋がりがある事に気付きました。そして、それだけ身近な存在である税金について、自分の知らなかった事が、こんなにもたくさんあったのか、と驚きました。

特に、私達が納めた税金の使い道を知った時は、税金がいかに大切なものであるかを感じました。道路や公園、学校、病院、上下水道、信号機などの公共施設や、警察、消防、ゴミの収集、福祉などの様々な公共サービス。私達の生活になくてはならない、これらの事柄は、国民みんながちゃんと税金を納めているから、成立しているのだとわかりました。

こうした知識は、私の「社会を見る視野」をぐんと広くさせました。暮らしのあらゆる分野に、私達が納めた税金が使われていると思うと、「自分の生活する街を、もっともっと大切にしよう。」という気持ちが、自然とわいてきました。

税金に関する知識を得て変わったのは、「社会を見る視野」が広がった事だけではありません。国の政治の仕組みや、今世の中で起こっている出来事、その全てに自分との繋がりを感じ、興味を持つようになったのです。社会を知る事は、私達の生活をよりよいものにしていく事だと思えるようにもなりました。

私は今、十四歳です。今まで、「まだ中学生だから。」と、税金についても政治についても考えていませんでした。でも、後六年で私も成人です。国の政治のあり方を考え、選挙に行き、政治に参加する事になります。それは、日本を動かす一人になる事でもあるのです。

だから、私は日本の税金について、そして政治について、もっともっと知りたいと思います。私達の暮らしと、これからの日本が、よりよいものになるために。

税金の大切さ

学校法人愛泉学園堺リベラル中学校 2年 川端 夏希

去年私の祖母が入院した。がんだった。がんの医療費はかなりお金がかかる
とテレビで見て知っていた。いったい、いくらかかったのか気になったので祖
母に聞いてみた。すると、「十七万円位だったよ。限度額適用認定証を発行して
もらい、それを病院に見せたから三割負担よりもまだ安くなった。」と教えてく
れた。限度額適用認定証のおかげで十七万円位に負担がおさえられた。私は、
限度額適用認定証とはどういうものなのか知りたくなったので市役所に勤務し
ている母に限度額適用認定証とはどういうものなのか聞いてみた。限度額適用
認定証とは、所得に応じてある一定額以上の医療費を病院の窓口で支払わな
くて済む便利なもので、支払わなくて済んだ医療費は、社会保険料の収入だけ
では足りないの主に国や地方自治体の税負担で賄われていることも教えてもら
った。そこで私は税金について調べてみた。国の歳出のうち一番多く使われて
いるのは社会保障関係費だ。そして、社会保障制度を通じて一年間に国民に給
付される金銭またはサービスの合計額である社会保障給付費は毎年一兆円規模
で増加しており、負担割合は社会保険料が約六〇%、税金が約四〇%。社会保
障給付費で二番目に多いのが医療だ。

近年、高齢化社会が進み、年々、社会保障給付費が増加する一方で、社会保
険料の収入は横ばいになっている。社会保障の安定的な財源を確保する為に消
費税を一〇%に増加し、増加した五%分を社会保障の財源に充てようとしてい
る。財源を確保しなければ制度が維持できなくなってしまう。維持できなくな
ると医療費の負担が増え、特に病院に行く機会が多い高齢者の方々は困ってし
まう。医療費の負担が増えると病院へ行くのもちゅうちょし、病気が悪化し
たりしかねない。私はこうならない為にも今の制度は必要だと思う。財源を確保
する為にも消費税を増税しなくてはいけないのであれば増税は賛成だが、財源
が足りなくなったら増税、また足りなくなったら増税をするのではなく、その
前に社会保険料の収入を増やすようにしたり努力しなければならない。今、短
時間労働者に対して被用者保険を拡大しようとしている。反対されている方も
多いが社会保険料の収入が横ばいになったままではどんどん状況が悪化しどん
どん税金が投入されていくだけなので被用者保険を拡大する事は必要な事なの
かもしれない。

私は将来、医者になりたい。私が、医者になった時にも、今のような制度が
続いて欲しい。みんなが安心して病院へ行く事が出来るようにする為にも税金
は本当に大切なものだと思う。

人と税の支え合い

貝塚市立第二中学校 3年 弥園 幸太郎

人と人が支え合う。税を通して私達はその大切さを学ぶことができる。現在、日本には様々な種類の税がある。それらは直接的にも間接的にも人のために使われる。では、それらは実際どのように使われているのか。私達国民の生活を振り返ることで確かしてみよう。

私達中学生の場合、教育費や教科書代などが挙げられる。私は、新学期が始まるときにもらう新品の教科書を見ると「よし、勉強を頑張ろう。」と、意欲が湧いてくる。当たり前なことかもしれないが、小学生や中学生は学校に行くことができる。しかし、私はそれがとても素晴らしいことだと思う。なぜなら、私達は学校に行くことで友達を沢山作り、楽しく充実した毎日を送ることができるからだ。最近、公立高校だけでなく、大阪府は私立高校にも学費が支援されている。それによって、私達中学生の進路の幅が広がるので、とてもありがたい。

税が使われるのは教育に関するばかりではない。税の多くは社会保障関係費に使われているのだ。私の母は持病を抱えている。母は毎日薬を飲んでいて、これからもきつと薬を飲まなければならない。もしかしたら入院することになるかもしれない。そんなとき、それらの費用は国民が負担している税によって、大きく軽減されるのだ。本当に感謝している。それは私の場合だけではないはずだ。日本中にはそのような人々が沢山いるのではないだろうか。そう考えると、私達にはプロスポーツ選手のようにスポンサーがついているように思う。しかも、それは「日本国民全員」というとても大きなスポンサーだ。プロスポーツ選手はスポンサーの支援によって、のびのびとパフォーマンスをすることができる。私達も国民が税という形で支援してくれているからこそ、のびのびと生活することができるのだ。そして、自分が支えてもらっているだけでなく、自分も多くの人々を支えているのだ。私は買い物をして消費税を支払うとき、国民の義務としてではなく、国民への恩返しだと心がけるようにしている。

今日、国債が発行され続けており、税の無駄使いや、年金問題なども話題になっている。それに伴って、最近、消費税率引き上げ法案が議論されている。国の財政が悪化していて、それを国民全体でサポートしていくということには賛成である。しかし、「いくらでも税を払う。」とは断じて言っていない。私は、政府がもう一度税の使い方を見直し、できるだけ国民の負担を軽減してくれることを願っている。

私達国民は税に様々な面で支えられている。さらにそれは、人と人の支え合いにつながってくるのだ。税には良い点ばかりではなく、まだまだ見直さなければならない点がある。それらを改善し、より良い社会を築き上げていこうではないか。さあ、今こそ立ち上がる時だ。がんばろう、日本！

「税」なくして国はない

豊岡市立出石中学校3年 平野 稔之

消費税、増税。この案について、国会から一般市民まで多くの人々の中で賛否の意見が交わされました。僕は中学生で国の仕組みについてはよく分からないけど、「税」について考えることは、とても大切だと思います。

少し前、租税教室がありました。ビデオを見たり、説明を聞いたりして、少しながら税の大切さについて学びました。その中で、税金が僕達の生活のために活用されていることを知りました。

僕達が日々通っている学校は税金で建てられています。授業料や教科書などのほとんどが税金で賄われています。つまり、僕達が健全な社会人として生きていくための土台となる学校生活は税金によって助けられています。

僕は四人兄弟です。三人の姉は全員全日制の公立高校に進学しました。仮に、僕が全日制の公立高校へ進学したとします。すると、小・中・高の十二年分×四人の教育費のうち、約四千三百万円を税金で負担してもらっていることとなります。そう考えると、税金というものがとてもありがたいことなのだ実感してきます。

釣りのとき、「キャッチアンドリリース」という言葉を聞きます。釣った魚を戻すという意味のこの言葉は、国の財政にも当てはめて考えることができると思います。国民から税という形で集めたお金をそのまま国民に役立てる。これが国の成り立つ一番の理想的な形だと思います。しかし、今は歳入より歳出の方が大きく、今年度末には、国債が七百兆円を超えと言われています。このことは僕にとって「キャッチアンドリリース」というより、「出血大サービス」という感じがします。これから「出血大サービス」が続いて取り返しがつかなくなるということだけは避けるべきだと思います。

今の日本はバブルの崩壊から不景気になっています。そして、この状態で増税をした場合、さらに不景気に拍車をかけてしまうかもしれません。でも、このまま好景気になることを待つのではちがあかないと思います。もし、これ以上国債が増えれば、政府が政府として機能できなくなるかもしれません。だからこそ、税のあり方について討議し、増税するのもしないのか考えていくべきなのだと思います。僕は「税なくして国はない。」そう思います。

何をするにもお金は必要です。今の日本は国債を発行して後にくる負担を先送りしています。でも僕は、今の自分ができるだけ楽をして、将来暮らしが大変になるより、今の自分が苦しくても、将来国が豊かになるほうが良いと思います。そのためにも、財政を何度も練り直し、必要ならば税についても考えていくべきだと思います。

豊かで安心して暮らせる未来のためには税がどれだけ僕達の生活に重要な役割をもっているかを考えるべきだと思います。

義務と権利～分かち合う幸せ～

桜井市立桜井中学校 1年 北尾 結花

日本国憲法第三十条では、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う」と納税の義務について規定しています。納税は国が定めた義務なのだから、税の果たす役割を正しく理解し社会の一員としてその使い道に関心を持つ必要があるなあと思いました。

そんなある日、税についての資料を読んでいると、少子高齢化がこれからの社会にとって重要な課題になることが分かりました。この問題の一つは、健康で文化的な社会や老後の安定した生活を実現させるための社会保障の費用が増えていくことです。もう一つが、その費用を負担する働き手が減っていくことです。このことから、私は将来自分達の所得から支出されてしまう「税」というものに対して漠然としたマイナスのイメージを持ってしまいました。

そんなことを思っている時、祖母が病気になって入院してしまいました。そして、税について考えていた私にお父さんが、

「税金があるから社会保障が充実し、安い費用で治療が受けられるんだ。」と話してくれました。私のお父さんは労働者として税金を納めているにもかかわらず「税」というものにマイナスのイメージを持っていないようでした。そして、私はお父さんと話していくうちに、少子高齢社会の中、介護や福祉、高齢者の医療の充実等、誰もが幸福と感じられる国づくりのためには税金はなくてはならないものだということが分かりました。

消費者という立場から考えてみると「税」に対するイメージは良いものではないかもしれません。しかし、それは「税」に対するマイナス面にばかり気を取られ、それによって私達の豊かな生活が守られているということに目を向けていないからであると思います。国民の一人一人が納税という義務をしっかりと果たすことで、社会保障などの権利が守られているということを忘れてはなりません。税に対する正しい知識と関心を持たずに、権利ばかりを主張する人にはなりたくないなあと思いました。税の果たす役割とは、社会の中心となる働き手が、いわゆる社会的弱者となる私達のような未成年者や高齢者、あるいは障害者を、よりよく生きることができるよう支え、すべての国民が共に幸せを分かち合える社会を目指す大切なシステムなのであると思います。

私はお父さんのように税に対する正しい理解と関心を持ち「納税」という義務をしっかりと果たし、幸せを分かち合うような誰もが笑顔でいられる国づくりに貢献したいと思っています。

税金のありがたさ

有田川町立石垣中学校 3年 岩垣 恵太

僕は今まで、税金について、どのように使われているのかよくわかっていませんでした。けれども昨年、税金の使われ方でとても身近に感じることができた出来事が起こりました。

それは、昨年の九月三日の大雨の後の事です。その時の雨は、僕が今まで経験したことのないほどの大雨でした。川のそばにある僕の家では、何度も川の様子を見に行っては、水位の上昇を気にしていました。幸い家には何の被害もなくほっとしていた所に、畑の様子を見に行った祖母が、

「畑が流された」

と言って帰って来たのです。あわてて僕も畑を見に行くと、なんと川のそばにあった畑が、一晩のうちに、すっかり川に流されていたのです。そこには、祖父母がずいぶん前から大切に育ててきたみかんの木が何本も植えられていたはずなのに、その木はほとんどが流され、残された木もほとんどが根が見え、たくさんのごみが枝に引っかかっている状態でした。

その後祖父母は、その畑をどうするのか何日も話し合っていました。元の様な畑にするには、まず新しい土を入れ、道をつけ、木々を植え、かん水の設備も作らなければなりません。その畑で、その年にとれるはずだったみかんがとれない上、ずい分な出費が必要となるため、祖父母は畑の復興を半ばあきらめていた様子でした。

ところが、何日か過ぎた時、思いがけない話が飛び込んで来たのです。今回の水害が国のげきじん災害に認定されたので、畑の復興費用の一部を税金が負担してくれることになったのです。おかげで、あきらめかけていた畑の復興を見事に果たすことができました。ダンプカーで何杯も土が運びこまれる様子を祖父母は嬉しそうに見ていました。かん水の設備も、税金のおかげで以前のように設置することができました。

そして、今年の春。僕も手伝って、みかんの小木を植えました。流される前のような木に育つまでは、まだまだ何年も必要ですが、一度はあきらめかけた畑の復興は、僕たち家族にとってはとてもうれしいことでした。仕事を終えた祖父は、新しい畑を見ながら、

「税金に感謝しないとあかん」

と言っていました。確かに、僕の家族だけでの復興は難しかったと思います。税金のおかげで、また元のような畑に戻すことができたのです。僕は、今回のことほど、税金のありがたさを感じたことはありませんでした。

あと数年すると、今年植えた小木にも、みかんが実るはずですよ。僕は今から、それを楽しみにしています。そして、その時はまた、収穫の手伝いをしようと、今から思っています。

正しく税金が使われるために

倉敷市立玉島北中学校 2年 山田 千晶

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

税は私達を守る力の源

学校法人鶴学園広島なぎさ中学校 3年 長田 真実

私は、日本を安全で住みやすい国だと信じています。それは、国によって守られているからです。

身近なところへ視点を向ければ、例えば一人で帰宅する時の夜道。若干の不安は湧いてくるものの怯える程のものではありません。良好な治安が維持されているからです。

国全体へ視点を向ければ、例えば突発的な災害。どんな状況下にあれ救助を期待する気持ちが萎える事はないでしょう。その態勢が常に備わっていると確信しているからです。

しかし、そこで忘れてはならないのは、このような安全で住みやすい社会を築き維持する為に莫大な税が投入されているという事です。

私は、時折「税金が高過ぎる」という言葉を耳にします。では、何をもって高過ぎるというのでしょうか。所得に対する割合からでしょうか。まだ納税者ではない私には、詳しく理解する事ができません。

しかし、未熟な私ですら断言できる事は、「安全で住みやすい社会の源は、税である」という事です。

私がこのような考えを持つ切っ掛けとなったのは、昨年東北地方を襲った未曾有の大震災における自衛隊や警察官の方々の勇猛果敢な姿を目の当たりにしたからでした。

勿論、目の当たり、と言っても報道を通しての事ですが、私は、その勇姿に涙を止める事ができませんでした。

身の危険を顧みず救助、捜索に取り組む前向きな姿、困難な状況を打破して被災者の方々へ届ける物資。

そして、これは後から報じられて知ったのですが、捜索に携わった自衛隊の方の中には既に他界されている方を発見した際、運ぶ担架がなかったので、背負って運ばれたそうです。

これは、もう「職務を超越した愛情」が遂げさせた「血の通った振る舞い」以外のなにものでもない、私には感じられました。

もしもその他界されていた方が私の家族であったなら、どんなに嬉しかった事でしょう。

無論、その自衛官の方は、一公務員である訳ですから、私には、「税の行き着いた先にあった愛情」とも捉える事ができました。

だからこそ、私には、今ある日本の社会は、絶えず私達の安全を模索し手を施してくれている、それでも発生した異常事態の際には、必ず救援の手を差し伸べてくれる、その源となっているのが税である、と考えられ、その考えに執着しているのです。

私の父は、「綾川町は住みやすい町だ」という。私には良し悪しは分からないが、今年の春、うれしいことがあった。それは、生涯学習センターが開館したことだ。たくさんの本が並び、自習室も完備されていた。父の話によると、中学校や駅も何年か後に新しくなるらしい。しかし、その膨大な費用はどこから出るのだろうと疑問に思い尋ねると、税金が使われることが分かった。税については、物を購入する時に消費税がかかることや、教科書は税金のおかげで無償であることぐらいしか知らなかった。そこで、私の生活と税の使われ方について調べてみることにした。

まず、学校の費用だ。年間一人あたり公立小学校で約八十三万円、中学校で約九十六万円、施設や教科書などの教育費として税金が使われている。だから、私は義務教育費として、約七百八十六万円もの税金を使わせてもらうことになる。また、医療費の公費負担額は、年間一人あたり約十万円。今はそれほど病気やけがをすることはないが、予防接種や幼い頃の入院などを考えると、医療費でも税金を随分使わせてもらっている。さらに、安全な生活を送るための警察・消防費、衛生的な生活のためのゴミ処理費や上下水道の整備費……。未来の私には、乳幼児医療や子育て支援費、災害未然防止のための耐震調査や補強工事費、環境を守る未来エネルギー創出のための補助金なども必要だろう。書き出すときりがないほど、これまでの、またこれからの私の生活は、多額の税金に支えられて豊かであることに気づいた。

しかし、その税金を、今の私は払ってはいない。毎日通っている学校や当たり前に通っている道は、父母や祖父母、それ以前の世代の方々が納めた税金で造られたものなのだ。こう考えると、納税は、義務として国民に課せられているが、それだけではない気がした。日本が豊かな国であり続けるためのバトンなのだ。所得税や消費税、その他の税金を納めることで、豊かさを後押ししたりより良くしたりするのだ。だから私も、父母世代からバトンを必ず受け取らなければならないと思った。しかし、世の中には税金未納者もいるようだ。誰かが納めてくれた税金のおかげで生活が支えられているのだから、きちんと納めるべきだ。社会の一員として、税金の使われ方を知り納税意識をもつことが大切だと思う。

私は、この作文を書くにあたって、税について調べるだけでなく、町の施政方針のあらましを読んでみた。父がいていた「住みやすい町」も少し分かる気がした。自分が使わない新しい校舎にはほとんど興味がなかったのだが、建物が新しいか古いかが問題なのではなく、今や未来に住む人が豊かかどうかが大切なのだと思うようになった。税金で造られる新しい駅は、綾川町をもっと豊かにしてくれるだろう。

未来の架橋となる税金について

高知市立大津中学校 3年 横井 あかね

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

父の仕事

八女市立黒木中学校 3年 坂之下 鈴

私の父は、八年前にイラク、昨年三月の東日本大震災の後、その年の八月にはハイチに自衛隊の派遣隊員として参加しました。

八年前のイラクへの出発の時私は小学校二年生でした。母や姉が父を見送るのを見て泣いている時、私はもうこのまま父とは会えなくなるのではと、とても不安になったことを思い出します。東日本大震災の時は、地震が発生した直後から淡々と準備を進めて慌ただしく出発していきました。余震が続く中での作業は、本当に大丈夫かなととても心配になりました。帰ってきたときはさすがに疲れた様子でしたが、家、電気そして水があって家族が皆元気で暮らせる自分たちはとても幸せなのだと話してくれました。昨年ハイチ派遣では、やはり地震で壊滅的被害にあったハイチ共和国の建物、道路の復旧作業にあたっていました。そして半年間の任務を終え、今年二月に帰国しました。父がハイチへ派遣されていた半年間、私や弟の塾や、部活、他の習い事などの送迎や、その他の地域の行事もすべて、母が一人でやらなければいけませんでした。私は心のどこかで、そこまでして海外へ行く父に少し疑問を持っていました。

でも今、そんなことを思っていた自分がとてもはずかしくなりました。帰国してきた父は、何かやりとげた満足感で一杯の顔をして帰ってきたのです。慣れない土地で、父にもいろいろな苦労があったと思うし、辛いこともあったはずです。でも、週に一度のテレビ電話では、そんな所は全くなく、明るくふるまってくれていたのです。国のために誰もができないことをやりとげた父を私は今、誇りに思います。

父はよく、うちは国民の税金で暮らしているのだからとっています。いつも、全く気にもとめていなかったのですが、今回の税の作文を書くことをきいて、私にとって税とはどんなものだろうと考えたとき、真っ先に浮かんだのが、この父の言葉でした。自衛官がいろいろな地域に派遣されるときにも、多くの税金が使われています。そしてこれからの地域で活動する自衛官を支えていくのは、国民の税金なのだということを改めて実感することができました。

今回九州北部をおそった豪雨では、建物、橋、道路、土砂崩れ等、とても大変なたくさんの方が被害が出ました。家がなくなり避難生活を送る人も多く、私の住む黒木町に初めて仮設住宅が建設されることになりました。そしてやはりこれらのことにも、税金が使われるのです。困っている人に税金を使うのは当たり前のことです。もし私が被災者ならば、どれだけありがたいかわかりません。やがて、私たちも社会人となり、税金を納めるときがきます。私は国民一人ひとりの税金が有意義に使われていく世の中であってほしいと思います。国を支えていける大人になりたいです。

産まれる前からずっと

佐世保市立山澄中学校3年 松尾 翔一郎

僕の母子健康手帳の表紙には「横須賀市」と書いてある。これは僕が母のお腹にいる時、横須賀に住んでいたからだ。僕が産まれる七か月以上前に、母はこの手帳をもらっている。これを手にした時、母は「赤ちゃんがお腹にいる」と確信でき、うれしかったそうだ。母子手帳は市町村から妊婦さんに無料配布される。もしお腹にいるのが双子なら、子供一人に一冊ずつ二冊もらえるそうだ。つまり、母子手帳はお腹の赤ちゃんに配布されるものだ。僕はとても驚いた。そして、うれしくなった。なぜなら、産まれる前から市町村に歓迎されていると思えたからだ。僕たちは産まれる前から税のお世話になっている、そう感じた。

母子手帳には妊娠中の経果、出産の状態など母のことが細かく書かれている。しかし大半は、赤ちゃんである僕のことだ。産まれる前、産まれた時、そして産まれた後もずっとページは続く。健康診査は、一か月、三か月、一歳、一歳六か月、三歳に受けていた。母に聞くと、全て無料。これも税金だ。さらに先の方は、日付、病院名などが書いてあるページがあった。それは予防接種だった。何が何だかわからないほど、ほぼ全ての欄にいろいろ書いてある。こんなに予防接種を受けていたのか。そういえば、中学生になってからも予防接種をした。僕は十五もの予防接種を受けていた。僕が今こうして健康で元気にいられるのは、税金で予防接種をしてもらっているからだだろう。しかも、僕がお世話になったのは、横須賀、呉、川崎、佐世保と四か所もあった。どこに住んでもきちんと健診も予防接種も受けられるなんて、すごいと思った。

僕は小学六年の時、租税教室で税のことを初めて知った。もちろん消費税は何となく知っていたが、小学生一人当たり毎月約七万円教育費として使われていることを聞き、驚いた。また、ゴミ回収や道路、消防や救急など生活に欠かせないことが税金で賄われていることを知り、なくてはならないものと思った。今回、母子手帳を見たことで、前と少し違う気持ちがわいてきた。それは税金の優しさだ。税金はみんなが豊かな暮らしを送るために、納められ使われているが、それだけではない。産まれる前から子供の成長を考えて、健診や予防接種、そして教育と、大人になるまで、全ての人が子供を見守り、育ててくれていると思った。僕たちは温かく保護されている。これには感謝したい。これから少子高齢化がさらに進むと言われている。二千五十年には、高齢者一人に対し働き手一・二人で支えていかなければならない。僕たちは税金でたくさんのお金をしてもらったので、大人になったら高齢者に恩返しをしなければならぬ。負担は大きいかもしれないが、やはり温かく感じてもらえるようにしたい。どの年代の人も税金で心豊かな生活が送れる社会であってほしい。

税金のありがたさ

学校法人精道学園精道三川台中学校 3年 松本 哲

「お金で救える命もあるのよ。」と母は言います。

僕は小さい頃、「白血病」にかかり、五年間の入退院をくり返しました。高度な医療、高額な薬、主治医の先生方や、看病してくれたたくさんの人たちのおかげで、幸いにも僕はこうして元気に今を生きています。

母の話によると、日本は、難病の人が、お金の心配をせずに治療を受けられるように、様々な手厚い制度があるそうです。大変な病気を煩ったうえに、お金のことを心配しながら、治療を受けるのはとてもつらいことです。でも、日本では、安心して治療に専念できる環境を作ってくれています。そしてそのお金はすべて、国民の税金によってまかなわれているということでした。

よくテレビで、税金に関係することが報道されます。「税金」という言葉は、どうしても堅苦しく、お金を払わされるという思いがあったので、あまりよいイメージをもっていませんでした。消費税が上がるかもしれないというニュースにおいては、僕にも影響があるので、できるだけ消費税は上げてほしくないと思っていました。

しかし、僕の命は、「税金」によって救われた一つだと知り、考え方を改めました。まだ日本には、助けを必要としている人がたくさんあります。

例えば、東日本大震災で、多大な被害を受けた東方地方の方々の生活の立て直しです。

大切な人の命が奪われ、故郷を一瞬にしてなくしてしまった上に、今後の見通しも立たないまま苦しんでいる方がたくさんいらっしゃいます。僕にできることは何かないかと考えてはみるものの、あまりの被害の大きさに、何も力にできない自分が、情けなくなります。

今こそ、国民全体から集めた税金を使って東北の人たちの経済的な苦痛を和らげられたらいいと思います。精神的に深いダメージを負っている方々に、経済的な心配はさせたくありません。僕がお金の心配をせずに、治療に専念することができ、命を救ってもらえたように…

僕の祖母は、祖父が亡くなってから、年金生活を送っていて、税金を納める義務はないそうです。

「おばあちゃんは、税金を納めなくていいから、ラッキーだね。」

と言うと祖母は、

「税金を納めないのに、いろいろなことをしてもらうのは肩身が狭いよ。哲は税金を払えるような、立派な大人になってね。」

と言っていたことを思い出しました。

これからまた、多くの人の運命を担うこととなる「税金」の意義を正しく知り、また、「恩返し」の意味もこめて、税金をしっかり払える大人になりたいです。

税金の重み

熊本県立八代中学校3年 井上 由紀子

私の兄は、四月から地元の市役所に勤務している地方公務員である。初登庁の前日、父は兄に「皆の税金で給料をもらうのだから、しっかり頑張れ」と発破を掛けていたが、私はその言葉を特に気にすることもなく聞いていた。これまで税金のことなど考えたこともなかった私が三年生になって社会で税のことを学習し、また、この作文を書くにあたって改めてその種類や仕組みについて調べてみると、父が兄に言った言葉の重みが少し分かってきた。

父は建築士で事務所を営んでいるので、法人税、所得税、印紙税、登録免許税、消費税などたくさんの税金を払っている。もちろん税金を払うことは国民の義務で父だけでなく全ての国民が払う訳なのだが、だからこそ、納税者が一生懸命働いた給料の中からだす税金を本当に必要なことに使ってほしいと願うことはもっとものことだろう。

七月十二日の未明、熊本では一時間に百ミリリットルをこえる大雨が降った。映像で見る白川は、危険水位を超え音を立てて濁流が流れている。河川は一部氾濫し、町は水に浸ってしまっていた。それだけでなく、阿蘇地方では土砂が民家を襲い、その下では亡くなられた方も多くいらっしやった。すぐにたくさんの消防隊員、警察官、自衛官などの方々が夏の暑い中復興作業や行方不明の捜索に従事されているのをみると頭が下がる。兄も、その後市役所の職員として、片付け作業に向かった。「あまりのひどさにびっくりした」と帰ってきた兄の手には、大きなマメができ爪には泥がつまって真っ黒だったが、早く前の生活にもどることを願い作業をしてきた兄の姿は頼もしい。多くの公務員の方々が命がけで仕事をしてきているのだ。これから、多くの税金が水害で壊れた道路、河川の復興などに使われることになるだろう。人々の命と安全な暮らしを守るため、税金を使うことに誰も文句は言わないと思う。

しかし、一方で、国民の財産である税金を着服したり、その使い道に無駄や不公平があったりする報道をきくとたまらない。税金はきちんと納めるだけでなく、正しく公平に使うものである。

納税者は自分たちが納めている税金についてもっと知識を深め、気持ちよく納めることができるようになり、使う側は国民が快適に暮らせるような税金の使い方をしなければならない。こうして、お互いに税の重みを認め信頼しあう関係が築ければ、いろいろな問題を抱える日本の未来に明るい光が見えてくると思う。

少子高齢化の問題もあり、消費税も五パーセントから八パーセント、十パーセントに重たくなるという。私も共に助け合い、皆が心豊かに過ごすことができるよう、これから私達若者も折りふれ、税について考えていかなければならないと思う。

税金にありがとう

うるま市立石川中学校3年 石川 日向子

私は、小学四年生から歯科矯正をしています。小さい時から歯並びが悪く、噛む力が普通の人に比べて弱かった私に、両親が歯医者さんへ連れて行ってくれました。初めの頃は歯医者さんに行くのがイヤでイヤでたまりませんでした。抜歯をする時の麻酔がとても痛いし、血も止まらないし、毎回病院に行って後の三日間は痛くてご飯も食べられません。

「もう矯正なんてやめてしまいたい。」

そう思っていました。しかし、年を重ねるごとに歯並びが良くなっていくのを実感して、こんなにキレイになれるのならどんな痛みにだって絶えてみせる、そう決めたのです。歯科矯正に対して感謝の思いが芽生えた時、私にふと疑問が浮かびました。月に一度通院して、装置を取り換える度にお金がかかっています。お医者さんの話では五、六年間かけて治療しなければならないということだったので、これを続けていくとかなりの医療費になるのではないかと思い両親に聞いてみました。すると、私の歯並びは先天性の疾病によるものなので保険適用がなされ、医療費の七割を国や県が負担していると教えてくれました。すなわち、そのお金は国民が納めている税金なのです。その事が分かった時、私は初めて納税の義務の大切さ、ありがたさを痛感したのでした。

医療費だけではありません。私は中学二年生の夏、うるま市の海外短期派遣留学制度を利用してアメリカへ行きました。英語が好きでアメリカの人々ともっと会話がしたいという強い思いでこの留学を希望しました。私は一ヶ月間、ネイティブな英語に触れることができただけでなく、一緒に留学へ行った仲間との協調性や親元を離れて培われた自立心などを学ぶことができました。このかけがえのない経験は私の心の大きな糧となり、将来の自分を作る材料となりました。この海外短期派遣留学の費用は、うるま市が半分の額を負担してくれています。私の夢を両親が、うるま市が、税金がつなげてくれたのです。

調べてみると、税金はその他にもたくさんの役割を果たしています。私達が使っている教科書や学校、生活や安全を守るための警察消防費など、すべて国民のために税金は使われているのです。

私は今まで税金について『消費税をとられる』というマイナスイメージしかありませんでした。しかし、それは間違っています。日本国民が汗水流して働き、税金を納めることで私達の健康や夢が支えられているのです。日本の輝く未来が創られているのです。私はまだ学生で消費税位しか払う事ができないけれど、社会人になった時は一生懸命働いて税金を納め、未来に貢献していくような人間になりたいです。みなさんも少し立ち止まって考えてみて下さい。税金に助けられたことがきっとあると思います。税金は人を幸せにするものです。私は、税金に感謝しています。

ふるさと納税について

南城市立久高中学校 1年 大泉 光

私は今年三月に東京都八王子市にある小学校を卒業し、四月から親元を離れ沖縄県の南城市立久高中学校に通っています。私が住む久高島には「久高島留学センター」という所があり、全国から集まった中学生達14人と一緒に共同生活を送っています。私には2人の兄がいて、兄達も中学校生活をこの久高島で過ごしました。私も兄達を見ていてとてもうらやましく思い、この春から親元を離れ、久高島で暮らしています。

私は南城市の中学校に通っているため、当然南城市の学校で勉強をし、南城市の大会に出て、南城市の給食を食べています。しかし、親は東京都に住んでいるため、東京都に税金を納めています。私は父からこの話を聞き、いわ感を感じました。「なぜ、私は南城市の学校に通っているのに、税金は南城市に納めないのか」と思いました。

このような考えをもつ人達のために、「ふるさと納税」という仕組みがあることを知りました。ふるさと納税とは、自分の住んでいない、ある県や市に寄ふという形でお金を出します。そのお金は、その県や市の税金として使われ、出したお金は自分の住んでいる場所に納めた税金から引かれるという仕組みです。

そもそもこの仕組みは、「ふるさと」という名の通り、自分の故郷を出て働いている人達などが、自分達が生まれ育った地域を支えるために税金をはらいたいという思いを実現するために考えられた仕組みです。

私のように留学先の地域に納税することは、この仕組みが考え出された時には、想定されなかった使い方だと思います。また、近年では、東日本大震災の時に、この仕組みを使って、たくさんの義援金が集まりました。このように、考え出された時には、想定していなかった使い方でも、ふるさと納税の制度を利用することができます。

私の家では、兄達の時から今までに、ふるさと納税の仕組みを使って南城市に税金を納めたことがあります。私もこの仕組みを知り今までもっていた疑問を解消することが出来ると分かったので、父や母にたのんで、南城市に税金を納めてもらいたいと思いました。

そして私が大人になって、自分で税金を納めるようになったら、子供の時に生まれ育った故郷のために力になれるよう、ふるさと納税の制度を使って税金を納めたいと思いました。

消費税の引き上げについて

小樽市立長橋中学校 3年 木田 美也子

現在、東日本大震災の復興財源としても議論され、決定した消費税の引き上げ。二〇一五年十月には、十パーセントに増税されます。これは復興財源の他にも社会保障の充実や安定が目的とされています。しかしこれには大きな問題がありました。

一九九七年、消費税が三パーセントから五パーセントに値上げされました。同時に医療費の値上げなども行われ、総額九兆円の負担増がはかられました。「財政再建」の目的で行われたそれは、景気を悪化させ、税収を落とす結果に終わりました。

私はこれらのことを調べていて、不思議に感じたことがあります。「いくら復興のためとはいえ、消費税を上げたり、年金を下げたりすれば国民が物を買わなくなるのは当たり前。物を買わないことが予想できるのなら、不景気になるのも当たり前です。それならば、震災で原発の影響を受けたがれきを受け入れてくれる県や市を見つけるなど、これ以上職を失う人がいなくなる政策を行う方が…」それは、私が無知で何も知らないからこそ言えるのかもしれませんが。そうであつたらいいなと思います。

税の他に、財政を整えられるものはないのでしょうか。

現在の国会議員の数は七二三人。その年収は約二〇〇〇万円にも及び、世界最高水準です。さらに職務手当「文書通信交通滞在費」として年に一二〇〇万円などの手当がでています。その手当は確かにアメリカよりも低いものですが、他のイギリスやドイツ、フランスなどの国と比較すればかなり高いものです。一時、三〇〇万円削減されましたが、国会議員の給与の約十四パーセントとされているそれも、実際は三パーセントほどだったという見解もあります。

財政がそれほど緊迫しているのなら、身近なところから削っていくべきではないでしょうか。税を増やすという結論にいたるには、はやいような気がします。

あせってきたのか、私には増税が「目的」で復興や社会保障が「後づけ」に見えます。それはやっぱり、私が無知だからでしょうか。

税、と聞くと私たちにはまだはやい話に思えます。確かに実感があるのは消費税くらいです。しかし、将来必ずおとずれる義務であり、絶対に考えなければいけないものです。だからこそ今から税について学ぶことで、その義務をはたす準備をしなければいけないのかと思います。

税がどのように使われて、変化しているのか。それを知ることからはじめ、私たちは義務をはたせるのです。

「お父さん、税金って無いとどうなる？」私は極端な質問をした。丁度増税のニュースが終わった時のことだった。

「世の中がね、不公平になるよ。」

と父は言った。

その一言に聞き流すことのできない重みを感じた。軽い気持ちで質問したつもりだったのに。

不公平って何だろう。世の中って、日本だけじゃない？

不安に思いその日初めて税金について調べ始めた。税というのは、ただただ納めるものではなく、教科書や道路となって私たちの暮らしを支えるもの。医療費や、ゴミを処理するための費用の負担をしてくれるもの。日本国内だけで行われる税金のはたらきはそこまでだとずっと今まで思っていた。

しかし税金の果たしていた役割は、私の予想をはるかに超えていた。日本国民が納めた税金は、自国日本をただ支えるだけでなく、世界をも支えていたのだ。

ODA（政府開発援助）がその役割を税金に果たさせる重要な取り組みだ。主に発展途上国の支援を行っている。その内容は、私たちの税金を病院で使われる薬や注射に変え、他国で貧困や飢餓により苦しんでいる多くの人々を救うというものである。

私たちの税金が無ければその薬や注射で救われるはずだったたくさんのかげがえのない命はどうなってしまっていたのだろうか。

そこで改めて「不公平」という言葉が思い返された。すべての人が平等であるべきこの世の中で、そんな風にして見逃される命が一つたりともあって良いのだろうか。それこそが不公平なのだ。

今他国で苦しんでいる多くの人々は、日本や、それ以外のたくさんの先進国の助けを必要としている。日本を含め様々な先進国もまた、その心と懐の豊かさゆえに助けざるを得ないのだ。その豊かさは、いずれもその国民の人間性や協力性からくるものだと考えられる。

私もその豊かさに貢献できるのなら、私は喜んで税金を納める。納めるときの気持ちも今までよりも穏やかで、何となく心もこもる。その行為が国境を越え発展途上国の豊かさにもつながるものなら、大人になっても税金は大切に納めようと考え直すことができた。

幸せの源

東根市立第三中学校 3年 安達 和郁

中学校生活にも終盤の兆しが見え始め、受験を控える年を迎えた。私は今、週四回、学習塾に通っている。「今日塾でしょ、早く御飯食べなさい。」という母の声を聞き、箸を手にとり、何気なくテレビに目を向けた。最近では、毎日のように国会で話題となっている「消費税増税問題」が映し出された。自分は、税についての知識が疎かったため、そのニュースの重要性をうまく掴むことができていなかった。税とは、国民にとってそんなに大切なものなのだろうか。無知に等しかったため、誰が、いつ、どのように、誰に払っているのかが疑問になった。

私は、その疑問を少しでも解消したいと思い、母に税の用途について尋ねてみた。そして、主に医療や年金、福祉、介護などの公的サービスに使われる社会保障関係費や、地方自治体に交付される地方交付税交付金などに用いられているのだと分かった。

また、税金の使い道にはこのようなものもあった。警察や消防の助成。私はこの言葉を母の口から聞いた時、心に沁みる何かを感じたのを今でも鮮明に覚えている。

それはまだ、私が小学校一年生の時だ。登校中に、兄が十字路を曲がってきた乗用車と接触する交通事故が起こった。その日は、早朝から濃い霧がかかっていたため、視界がとても悪かったのが原因だった。眼前で起こる急な出来事に私は啞然とした。その時、幼なかつた私につき添い一緒に登校していた母が叫んだ。「救急車呼んで！早く！」それを聞いた地域の方が、すぐさま消防署に連絡し、兄は数分後に救急車で病院へと運ばれていった。

私はこの出来事を思い出し、ふと思った。もしも救急車というものが存在しなければ、この時兄は一体どうなっていたのだろうか。命を落とすまではいなくても、重体に陥ることは間違いなかつたはずだ。加えてこう感じた。兄は税により助けられたのだと。現在、兄は元気に学校に通っている。こうして家族そろって今を送れることは、紛れもなく税のお陰である。よくこのような言葉を耳にする。「一人は皆のために、皆は一人のために」これは正しく税を表した言葉だと思う。税とは国民全員が一体となり、国や地方に納めているもので、消費税などを通して自分も払っていたのだと母に教わった。一人一人が日本全体のために税を払い、その日本全体の協力によって兄は救われたのだ。こうして、人と人との繋がりや思いは、絆として紡がれていくのだと母の話を通して感じる事ができた。

私はこれらのことを知り、税に感謝すると共に税がとても好きになった。そして、自分が払った税金によって誰かが幸せになっているかもしれないと思うと、とても嬉しくなった。この素晴らしい相互扶助の関係や税についての認識をもっと広めていきたい。私はこれからも税を払い続ける。自分のため、家族のため、そして国民全員の幸せを願って。

税金と幸福な暮らし

茨城県立並木中等教育学校 1年 田崎 遥香

「ポテトチップ五百円、ジュース三百円」五年前、父がデンマークの出張から帰ってきた時の話だ。街並の美しさ、伝統ある建築物、人々の温かさ、たくさんのお話の中でも私が特に印象に残ったことの一つだ。とにかく物価が高かったという。

調べてみると、何と消費税は二十五パーセントという。私のおこづかいならかなり困る。私だったら大反対だ。

父に聞いたところ、

「デンマークは、国民の幸福度ランキングが世界一になったんだよ。医療、福祉、教育などはすべて無料なんだ。」

と、言っていた。デンマークの人々に不満はないのだろうか。その頃の私は、なぜデンマークの人々が幸福なのか、理由がはっきりとは理解できなかった。

一年前の震災のとき、私の住んでいる地域一帯が停電した。信号が消えてしまい、小学生だった私は車の列をすり抜けるようにおそるおそる下校したことを覚えている。夜は街灯が消え、町中が真っ暗になり不安な夜を過ごした。道路はところどころに亀裂が入ったりゆがんだりした。当たり前だと思っていた暮らしが一変した。あの日の心細い気持ちは忘れられない。しかし今は、信号は正常に点灯し、安全な暮らしを支えている。街灯の明かりは、下校する私を照らして安心させてくれている。道路もきれいに舗装され、元通りになった。これもすべて税金のおかげだと思うと感謝の気持ちでいっぱいだ。それと同時に、個人ではどうにもならない問題をみんなの力で成しとげるこの制度のすばらしさを実感した。

私は今では、デンマークの人々が幸福だと感じている理由が分かるようになった。それは、デンマークの人々は税金の使い道を知り納得しているからだと思う。私達国民も一人一人が税金について関心を持ち、使い道に考えを持つことが大切だと思った。

私は先日、はしかの予防接種を受けた。数年前に二十代の若者を中心に流行したので、中一の私は無料接種の対象になったのだ。個人の健康のためであるのと同時に、多くの人が接種することによって将来の流行を防ぐ目的もあるそう。税金は今日、明日の身近な生活を支えているだけでなく、未来の日本の安全な暮らしも計画的に支えていることが分かった。

これからは、日々の暮らしの中で、例えば授業を受ける時、教科書を開く瞬間、ゴミを捨てる時、水を飲む時などときどき立ち止まり税金を納めてくれている人達や、この日本の制度に感謝したいと思う。中学生である私は、社会から税金を通して、「一人前の大人になるんだよ。」と応援されている気持ちになった。これから私が社会人となって税金を納め、国民を支える番になった時、きちんと責任を果たし、世の中の役に立ちたいと思った。

税は誰のためのものか

栃木市立栃木東中学校 2年 大塚 未来

最近ニュースで芸能人の親の生活保護の問題が大きく取り上げられました。税がこのような問題と大きく関わっています。税は誰のために無くってはならないのでしょうか。

私は東日本大震災が起こったあの時、多くの人が募金をしている事を知りました。たくさんの方が被災地に物資を送り、少しでも元気を取り戻してほしいとコンサートを開いたり、復興に向けて、頑張っていました。税を払う事はこの行為と同じ意味を持っていると思います。情は人のためならずという言葉があるように人に優しく、親切にした事はめぐりめぐって、自分に返ってくるのです。税を納める事は他人を助ける事、そして自分自身を助ける事になるのです。誰かがたくさん払えばいいということではなく一人一人が意識を持ってしっかり税を納める事に意味があるのだと思います。

普通が一番いい、普通に暮らせる事が何より一番幸せな事です。当たり前を普通にできる事をこの先もずっと実行したいと誰もが思うでしょう。この当たり前がずっと続くよう税を払っていく事が義務化される理由なのだと思います。小さい子が安全で楽しく遊ぶための遊具や施設、きれいに整備された道路、道行く人のために設置された提示板など税が使われるものは私達の身近な所にもたくさん使われているのです。世界にはもっと生活が苦しく、大変な国があります。そういった国を立て替える事ができるのは私達なのではないのでしょうか。日本も昔戦争で負け、他の国から助けられ、今こうしてやっと他の国と対等な立場に立てるようになりました。今の状況に満足せず、他の国を助けるためにも税を払い、日本の財政を安定させ、当たり前の生活をもっと充実したものにしていけたら良いと思います。

私はまだ中学生なので自分で働いてお金を納める事ができないのですが、大人になったら、しっかり税を払って、国民としての義務を果たせるようにしたいと思います。

税は誰のためのものなのか。

最初に感じた疑問は、とても簡単な答えができました。それはみんなのためのものです。誰のものでもなく、困っている人、当たり前毎日を過ごしている人でも誰もが受けられる国民のものなのです。

税が国民全員のものであるならば、国民全員が税を払う義務があると思います。いつまでも税がしっかり支払われ、この当たり前の幸せを何十年も何百年もその先もずっと感じられるような日本という国であってほしいと思います。そのために今、私が何をしなくてはならないのか、これからどういう風に過ごすのか考えて行動していきたいです。それは一人一人の意識が何より大切だと思うからです。

税金について思うこと

富岡市立中学校3年 新井 李佳

「税金」というと、中学生の中には、関係ない、と感じる人もいるかもしれませんが、よく考えてみると、税金は本当に、私たちの生活に欠かせないものです。例えば、学校の建物や教科書、毎日通る道路など、これらは、税金がもとになって、私たちが恩恵を受けているものです。逆に、買い物をする時、何気なく消費税を納めています。近い将来、私たちも、もっと様々な税金を納めることとなります。

しかし、テレビのドラマや、実際のニュースなどで、よく脱税する人の話や、増税に反対する話題などを耳にすることがあります。なぜ、人は税金を納めるのが嫌なのでしょう。

私は、家族と脱税する人のことについて話をしました。その中で、こんな言葉を教えてもらいました。「この世のあらゆる楽、それらはすべて他者の楽を望むことから生ずる。この世のあらゆる苦、それらはすべて自らの楽を望むことから生ずる。」この言葉を、税金に置き換えて、説明してもらいました。つまり、税金を気持ちよく払って、みんなのために使ってもらおうという気持ちがある人は、心は平和で幸せだけれども、自分の都合ばかり考えて、税金を払うのが損だと思ったり、ごまかしたりする人は、結局幸せになれないということでした。

東日本大震災の時、日本中で、募金が集まりました。東北の皆さんの役に立ちたい、困っている人を救いたいと思う人がたくさんいたのだと思います。税金も考え方を变えて、だれかの役に立つこと、被災地や弱い立場の人の役に立てることを願って納めれば、きっと幸せな気持ちになれるはずです。実際に、ボランティアに行けなくても、納めた税金は支援金になると思います。

私の祖父は、六十歳の時から二十年以上車椅子の生活をしてしていますが、車椅子を購入するのに、毎回市の福祉課から補助としてもらっていて、本当にありがたいと言っていました。そんな祖父も、元気な頃は、一生懸命働いて、税金をきちんと納めてきたそうです。車椅子の他にも、たくさんサービスを受けていますが、障害があっても住みやすい環境にいられるのは、税金のおかげなんだということを忘れてはいけないということも教えてもらいました。

だから、私も大人になって、自分で働くようになり、税金を納める時が来たら、そういうことを思い出して、気持ちよく税金を納めることのできる人になろうと思います。できるだけ困っている人の役に立てるように、たくさん納税できればいいなと思っています。

税金の使い道を決める立場の皆さんには、どうか無駄使いしないで、正しく使ってほしいと思います。私たちの、明るい未来のために、みんなが気持ちよく税金を納め、支え合える日本社会になってほしいです。

税の力に感謝して

春日部市立谷原中学校 3年 藤村 真帆

一年前の夏、父が仕事中に屋根から落ち意識がとんでしまうほどの大重傷を負った事故があった。父は幸い、近所にいた人が救急車を呼んでくれて、死には至らずにすんだ。そして病院に運ばれた後「手足が動かなくなるかもしれない」と言われていた難しい手術も最高にいい形で終えることができた。

私は救急車も手術も全て税金が使われることを知り、こんなにも人を喜ばせてくれる税金は本当にすばらしいものだ実感した。だが元気になった今、父は私にこう言った。

「もしあそこで救急車がすぐに来なかったら、お父さんは助からなかったかもしれない。」と。そこで私は何年か前のニュースを思い出した。それは、たかがちょっとしたことだけのために救急車を呼び、本当の重傷者が犠牲となってしまったというものだ。私はそれを見て愕然としていた記憶がある。今となって「父が同じような犠牲者となってしまっていたら」と思うと、気持ちが落ち着かない。

税金は、人々の生命、身体、財産を守るための仕事をしていると資料で読んだ。しかし、助けられるはずの命を助けられない状態では、税金はとても意味がなく、無駄遣いしているように思えてならない。一人一人がお互いを思い遣っていくことができれば、これほど人々を助け、役立つものはないだろう。

現在日本は、近年起きた震災の復興に向けて駒を進めているが、そのためにも多くの税金が遣われている。そして、再来年からは増税が実行されようとしている。「増税」という言葉を聞くと、ほとんどの人が批判的なことを言う。私も少し前までは同じ意見だった。しかし、よく考えてみると、そう思うことが不思議に感じてくる。自分たちが納めているお金は国のため、傷ついてしまった同じ仲間のため、国民の安全のため、過ごしやすい環境にするため―。これらは全て、自分たちのためではないか。私たちの仲間が苦しんでいるのにこのままでどうする。こんなとき、私たちが一番協力できる手段は、納税なのではないか。きっと増税に反対する人は、自分の払うお金が多くなり、負担が生じるという極単純な思いから抵抗を感じているのだろう。「税金をかけているのはどんな事柄なのか」そのことをしっかり考え、国のため、仲間のために納税することはとても大切なことだと感じる。

私たちは“今”を生きることができている。しかし“今”を生きることができるのは、今まで税金を納めてきてくれた方々のおかげである。私たちはいつでも税金によって支えられている。そして税金は、人々を幸せに導くことができるすばらしい力だということも学んだ。私も将来、そんな税金に感謝し、国を守るために納税し、日本国民の一人として、社会に貢献していきたいと強く思う。

未来を支える税金

十日町市立中里中学校3年 桑原 萌

私たちの周りは、税金でいっぱいだ。道路や橋、図書館、学校も。その中でも、身近な学校について経験、最近思っていることを含め考えてみた。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

春、新学期に貰う教科書には必ずこの言葉がある。教科書の裏表紙、片隅に小さな文字で書いてあるそれには、あまり目がいかない。私が、その文字を見つけたのは小学生の頃だ。最初は、意味なんて分からなかったけれど、学年が上がるに連れ意味が分かるようになった。しかし、特に気を留めなかった。

そして、私は今中学三年生。義務教育九年目だ。来年からは受けることができない。だから、義務教育最後の今を大切にしたいと思い、お世話になっている義務教育をしっかりと使えているか見直したいと思う。

私たちが義務教育を受けられるのは、税金があるからだ。教育費、机やいす、学校の校舎、そして教科書——私たちの学校生活のほとんどが税金で賄われている。その税金は、大人たちが汗水流して働いたお金の一部である。だから、税金を納めてくれている大人たちによって私たちは今の学校生活が送れている。そんな私たちは、物を大切に使っているだろうか？教科に落書きしたり、用具などを乱暴に扱ったりしていないだろうか？私は今まで、教科書や机に落書きしていた。けれどこの行為は大人たちを裏切ることになっている。自分達が払った税金が、このようなことになっていたら嫌だと思う。私だったら、税金を払いたくなくなる。だから私は、これまでの行為を見直したい。

税金、とひとくくりにしても種類はたくさんある。そして用途も様々。私が税金の使われ方を調べたとき、気になったものがある。経済協力費だ。これは、発展途上国などの国に使われている。自国だけではなく、他国にまで税金を使っていることに私は驚いた。この経済協力費により救われている国もあるだろう。そして消費税、これは目的税でない為、経済協力費にも使われている。学生も払わなくてはならない消費税、私たちの税金が困っている人たちの為になっている。嬉しいことだ。

私たちは、「日本を担っていく」だけではなく少しでも世界が平和になることを祈って、税金を使い他国を助けられればいいと思う。決して簡単なことではないけれど、未来の日本がそんな国であってほしい。

未来の日本を担っていく私たち、できることは少ないけれど教科書の裏表紙の言葉を思い出し、お世話になった義務教育、税金を払っていた大人達、日本の未来の為に、恩返しとして日本をつくっていくことが義務だと思う。

みんなを支える税金

信州大学教育学部附属松本中学校 3年 宮永 理南

消費税増税の賛否については、以前から政治家の間でも意見が分かれていた。しかし、この夏、消費税増税法案が衆議院を通過し、いよいよ現実になろうとしている。

消費税というと、買い物をした時に発生するものなので、何だか余計に支払った様な気がして、増税は嫌だな、と思っていた。僕が税金について、しっかり考えるまでは……。

僕には、ウィットに富んだ会話をする祖父がいる。知り合いとも、初めて会った人とも、楽しい会話をする。そんな祖父が、二年前にパーキンソン病と診断された。

病気が進行して、筋肉がこわばり、体が思うように動かせなくなり、転倒して病院に入院した。当時は自分で食事をするのが困難で、会話もほとんど出来なかった。そんな祖父を見て、僕は、祖父が家に帰って来ても、身の周りのことが自分で出来ず、介護が必要なのではないかと心配した。退院する際には、祖父を受け入れる態勢を整えるため、介護サービスをお願いしたり、壁に手すりを付けたり、介護用ベッドを借りたりした。訪問リハビリなどもお願いして、祖父もリハビリを頑張った。自宅に戻ってきて一年程経った今では、祖母に助けをもらいながらも、自分の力で身の周りのことが出来るようになった。

祖父が受けている介護サービスの一部は、税金の使い道としてあてられているものだと知った時、僕は、増税なんて嫌だなと思った自分が恥ずかしくなった。

様々な介護サービスのお陰で、祖父は「健康で豊かな生活」を少しでも実現した。

今では、僕が好きだった気の利いた会話も出来るようになった。そして、これこそが、税金の意義であり、役割の一つであると感じた。

祖父が介護サービスを受けることなく、家族だけでの介護だったら、祖父はこんなにも自立した生活を送ることが出来るようになったのだろうか。本人の努力、家族の協力はもちろんであるが、医療費や介護費を支える税金の力、社会の人達の力があつたからこそ祖父は回復したのだと思う。国民の健康や生活を守るために税金が使われていることが身近に感じられ、とてもありがたく思った。

少子、高齢化が急速の進行していくこれからの時代「医療」「介護」などの社会福祉に使う予算は増える一方だ。しかも、今のままの社会保障制度では、将来の世代に大きな負担がかかることになってしまう。

そのために今、僕に出来ることは、税金についての知識を深め、正しく理解することだと思う。そして、いざ大人になって働くようになったら、自分や周りの大切な人達が豊かで安心して暮らせるための会費を支払うという意識を持って、税金を納めていきたいと思う。

日本国民は、国や住んでいる県、市町村に税金を納めています。消費税、自動車税、固定資産税、所得税等、たくさん種類があります。その中で、僕達中学生に一番身近な税金は消費税だと思います。何か買い物をしたりすると同時に税金を納めたことになり、未成年の僕たちが税金を納める事ができる唯一の方法です。しかし、一部の人々で「税金なんてない方が良い」と言う人がいますが、僕はそうは思いません。国民の安全や医療、教育等に税金は必要だからです。僕達の毎日の生活の中で、当り前に思っている事に、税金は使われているのです。

税金は政治家や公務員の給料にも使われています。「税金はない方が良い」と思う人はこのように考えてみてはどうでしょうか。この日本を会社だとします。納税者である僕達国民はこの会社の社長で、政治家や公務員は社員です。社員は会社の為に働きます。労働には賃金を払わなければなりません。社長は社員に給料を支払い、予算を与えます。与えられた予算の中で、公共の施設を作ったり、サービスを提供したりします。どちらも僕達の生活に役立っています。社長が与えている給料と予算が税金なのです。このようにポジティブに考えると、税金はいろいろな形で僕達国民の為に使われていて、必要だと思えるのではないのでしょうか。

テレビや新聞で、消費税率を更に上げるという議論がさかんに行われています。「すぐにも必要だ」「まだ早い」などの意見があります。僕はまだ中学生ですが、少子高齢化が進み、なかなか就職ができない現状では、僕達への負担は増々大きくなると思います。しかし、もし税金が国へ入らなくなり、社会保障が受けられなくなったらどうなってしまうのでしょうか。日本という国が機能しなくなって、僕達の生活もおかしくなります。一番大事な事は、みんなが一生けん命に納めた大切な税金を、みんなの為に正しく使う事です。そして、正しく税金が使われているのか、関心を持ち続けていく事だと思います。僕は、みんなで考え、努力し、行動していけば、必ず日本の未来は良くなると信じます。

僕が社会人になり、仕事をするようになったら、きちんと税金を納めたいと思います。自分の事ばかり考えるのではなく、日本がいつまでも、安心、安全で、支え合う素晴らしい国であり続けるように、しっかりと義務を果たしていこうと思っています。

東日本大震災が起きた三月十一日に、私は学校にいました。ちょうど授業が全部終わり帰りの学活を行っていました。地震が起きた時、今までに体験したことのない揺れで、立っていることも出来ませんでした。クラスメイトも、パニックになっている人が多かったようです。しかし、学校の生徒は全員、無事に避難することができました。

しかし、津波で、この旭市も多くの被害を受けました。被害は津波だけでなく、私の家は、地震の液状化の影響で傾いてしまい、人が住める状態ではなくなりました。その間、私は祖母の家にお世話になっていました。地震が起きてから二、三日してから、やっと自分の目で自宅を見る事ができました。私は、自宅を見たとき、とてもショックでした。自分の住んでいた家が、本当にこれだったかと、自分の目を疑いました。

その年の五月に、やっと「仮設住宅」に入ることが出来ました。ずっと私は、祖母の家で気をつかって住んでいたもので、とてもうれしかったです。両親は放心状態でしたが、姉と私は「前向きにしよう」と励まし合っていました。今、私の家は修理して、元のようにになりました。

自分の家に帰ることが出来た。自分の家が一番だと心から喜んでいます。仮設住宅は、旭市が税を使って建ててくれたものです。素早く建ててくれたおかげで住む所は困らずに感謝しています。

私達の旭市も大きな被害を受けましたが、福島県などの東北地方は、もっと大きな被害を受けました。特に福島県で起きた原発事故は甚大な被害を人々にもたらしました。家があっても放射能汚染で帰ることの出来ない人、農地や工場が汚染され仕事を失くした人、学校や町が汚染され散り散りになった子ども達、東北ではまだまだ、元の生活に戻れない方々がたくさんいます。これからどうなるのか私はとても不安です。それは、これらのことを元通りにするには莫大なお金が必要だからです。高齢化社会や景気が悪いせいで国や地方の公共団体の財政はとても厳しいということを勉強しました。それなのに大震災の復興に莫大なお金がかけられるのでしょうか。

私はインターネットで来年の一月一日から復興税というものが新しくできることを知りました。所得税や法人税に上乗せされると聞いています。復興税について私は、福島県などの被災した人々のために役に立てて、とてもいいと思います。私はみんなが苦勞して納めた復興税をムダのないように十分に活かして欲しいと思います。福島県などの被災した人々が元の生活に戻れるのには大変な時間とお金がかかると思いますので、私の家でもしっかりと納めてもらいたいと思います。もちろん私も後何年か後には、しっかり納めて復興に協力していきたいと思います。

心に活力を届ける税金

東京都立白鷗高等学校附属中学校3年 西田 野々香

夏休みのある日、私は江戸川区花火大会へ行きました。その花火大会は、私の住む江戸川区が主催しています。ということは、区の税金が使われていることとなります。なぜ花火大会に税金が使われているのだろう。それは、花火を見ているうちに分かってきました。

華やかな花火に、わあっと歓声を上げて、拍手をする。私は、部活の疲れを忘れて、リフレッシュすることができました。

税金は、社会保障やインフラの整備にだけ使われているわけではありません。実は、私たちの心に活力をもたらしていたのです。税金が花火大会に使われる理由の一つは、ここにあると思います。花火大会のように、心の楽しみとなるものは、充実した生活の根幹にあるはずです。

考えてみると、スポーツも心の楽しみです。区内には、区営のスポーツ施設がたくさんあります。これらは税金で運営されています。私は、そのような施設で家族とサッカーや野球を楽しみます。また、私の弟は、区営の施設のフットサル教室に通っています。区営の施設では、テニスをして楽しむお年寄りの方を見かけます。区の広報で調べてみると、お年寄りの方むけの講座を区が開いていることも分かりました。これらにも税金が使われています。参加費用も低く設定され、年を重ねても、誰もが趣味を楽しめます。

花火大会やスポーツ施設、講座に税金が使われているもう一つの理由は、すべての人に心の豊かさを届けるためだと思います。経済力のある人だけが楽しめるのは、おかしいことです。経済力に関係なく、誰もが楽しみを味わえるべきです。これを実現できるのは、皆で納める税金であるからこそだと思います。

社会保障やインフラの整備に、税金はもちろん必要です。それは、安心できる環境を作るためです。しかし、いくら環境が整っていても、私たち自身が元気で充実していなければ意味がありません。税金は環境の面と心の面から私たちを支えているのです。この税金の恩恵を、ただ何気なく受け取るのではなく、感謝し、税金の重みを感じて受け取りたいです。そして、税金は心の元気のためにも使われていることを、もっと多くの人に知ってほしいと思います。そうすれば、税金をしっかりと納めたうえで、その恵みをかみしめ心の活力とするという、良いサイクルが生まれます。今、私は消費税だけしか払っていません。その金額は少ないかもしれませんが、誰かの力となっているのは確かです。大人になっても、目の前の負担を考えるのではなく、その先の、税金の行方を考えたいです。税金は、すべての人のいきいきとした生活を支えるためにあります。税金の力が私たちの生きる力となり、さらには日本全体の前進力となることを、私は信じています。

日本とバンクーバーの消費税比較

学校法人東京都市大学等々力中学校 3年 藤井 里奈

私はこの夏休み、バンクーバーに三週間ホームステイをしました。そこで日本とバンクーバーの消費税制の違いについて、今回私が感じた事と共に比較したいと思います。

日本の消費税率は五%。どんな物にも一律五%の消費税がついてきます。卵一個から住宅まで同じ税率です。しかしこれでは現在国が抱える様々な問題を解決できないと増税案も出ており、実際再来年から段階的に実施の予定だそうです。私はこの増税は他に具体案が無い限り、やむを得ない事だと賛成の立場です。

しかし、かといって今と全く同じ状態で増税するのでは納得できません。

ここで、バンクーバーと比較してみましょう。私がバンクーバーへ行ってまず最初に買ったのが飲み物。スーパーで買いましたがその時、棚にならんでいた表示価格とほぼ同じ価格のままレジで買うことができました。しかし、別の日にリュックが必要となった時は棚に並んでいる表示価格と、実際に払った額の差にあまりにも差があり、とても驚きました。この差こそが「バンクーバーの消費税」です。バンクーバーでは州毎に決められている税（G S T）と、カナダ全土で決められている税（P S T）を合併した、H S Tが消費税となっています。細かく分けるとG S Tが五%。P S Tが七%。合わせて十二%。リュックを買った際、日本では五%の消費税がバンクーバーでは十二%もあったのだから、表示価格と、購入価格に、消費税による大きな差があったのも納得できます。

では、何故、飲み物を買った時にはさほど消費税が発生しなかったのでしょうか。これは帰って来てから分かったことですがこんな理由がありました。

バンクーバーの消費税のうち、州毎に決められている税（G S T）には、課税の対象外となるものがあります。それは、生活するのにとても重要かつ必要な品々に有効となっており、一般的な食料品、処方薬、公共交通費、公共や一部私立教育機関の授業料・・・等々に適用されています。だから飲み物を買った時、G T Sを除いたP S Tの七%のみの消費税しか課税されずほぼ表示価格のまま、買うことができたのです。

このバンクーバーの税制を知り、私はとても上手く出来ている税制だな。とつくづく感心しました。

税金は国と国民の生活に還元する為にあるはずですが。しかしその国民が納税の為に辛く、苦しい思いをするのでは本末転倒です。日本が世界の国々の中で安全で教育や医療制度が安定し、清潔で健康な国であり続ける為に政府は今の消費税制を徹底的に見直し、国民の安心を得られる形で改革するべきだと今回の三週間の滞在を通じて強く思いました。

連日テレビで報道されていた消費税増税法が、衆議院で可決された。二〇一四年四月に八%、一五年一〇月に一〇%へ引き上げるというものだ。野田首相は「増収分は全て社会保障として国民に還元される。」と約束した。

このニュースを聞いても、私はあまりピンとこなかった。今の環境でも何一つ不自由なく生活できていたからだ。そんな私が税について真剣に考えるきっかけになったのは、この夏震災ボランティアに参加した事である。

八月中旬、私は家族で石巻市の震災ボランティアに参加した。作業の後、代表の方の案内で石巻市の様子を見て回った。市街地は震災前の姿を取り戻しつつあった。しかし、市街地から少し離れると、市街地とは対照的で高く積まれた瓦礫の山や打ち上げられたままの漁船など、生なましい震災の爪痕が今もなお至る処に残っていた。復興は少しずつ進んでいるものの、まだ全体の一割にも満たないという。これからこの街はどのようにして復興していくのだろうか。疑問に思った私は隣で説明をうけていた父に聞いてみた。すると父は国が発行する復興国債を使うということを教えてくれた。復興国債を発行することはもともとから多額の借金を抱えている日本にとって相当な痛手だろう。しかし、被災地の状況を見ると、そのような事を言っている場合ではないと感じた。

今回のボランティア活動では、私達の他にも多くの大学生のボランティア団体が共に汗を流してはたらいた。ボランティア活動は、ただ与えるだけではなく、地域の方々と共に活動することが大切なのだという。地域の方々と共に活動することが大切なのだという。地域の方々と共に活動することで、自分達も何かしなければならぬという意識を持ってもらえるからだ。税の仕組みによって成り立っている社会も、同じなのではないかと私は思う。どちらも支えられ、支え合う事が重要なのだ。

数年後には、私も社会から税の恩恵を受ける立場から、税で社会を支える「担い手」となる。少子高齢化が懸念されている今、私達は今以上に厳しい税の負担を強いられることになるだろう。石巻市をはじめとする多くの被災地が復興してきているように、日本全体がこれらの問題に立ち向かっていかなければならない。

「日本もまだまだ捨てたものじゃないな。」参加者の中の一人が真剣に活動に取り組む大学生を見てこう話していた。この言葉を聞いて私はうれしくなった。私達の事を期待してくださっている方々がいることを実感できたからだ。来年の冬で九年間の義務教育が終わる。税の恩恵を受けてきた身から。税で社会を支える担い手へと一歩近づくことになる。今後の日本を支える一員として、責任を持って義務教育を終える事が今の私の使命であると思う。先人の期待がつまった税金。それを生かすも殺すも私達次第だ。税。それは支えられ、支え合うという「証」だと私は思う。

少し前まで私が「税金」と聞いて思い浮かぶのは消費税でした。買い物で必ず取られる税金を不満に思う事もありました。

私の祖母は数年前に脳動脈瘤の大きな手術を受けました。手術は無事終わりましたが、手術入院費はかなり高額でした。祖父も定年していたので、あまり丈夫でない祖母は「これから年を取っていくから節約して医療費を貯めておかないと。」と不安そうでした。しばらくして母から、祖母の手術入院費がかなり返金された話を聞きました。高額療養費という制度で一定額以上かかる医療費は税金で負担してもらえ返金されたそうです。祖母も安心して体調も落ちつき元気になりました。

しかしまた一昨年祖母は子宮頸癌の手術を受けました。しばらくして大分回復した祖母から電話がありました。子宮頸癌を予防するワクチンがあると新聞で読み、私と姉に打つように勧める話でした。母が色々調べると、ワクチンは三回接種で約五万円の費用がかかる事が分かりました。姉と二人で打つには十万円もの費用がかかるので母も迷っていました。祖母は私達に自分のような辛い思いをさせたくないと言われ接種を何度も勧めてきました。それから少し経って頸癌ワクチンが公費負担で無料で受けられるというニュースを知り母も祖母も「良かったね。」と話していました。

病院にワクチンを受けに行った時、何気なく見た母子手帳には私が生まれてから今までに受けたたくさんの予防接種の記録がありました。その全てが公費負担で受けられたのです。注射は痛いので好きではないけれど、私は知らないうちに税金で守られていた事を初めて感じました。健康で暮らせる事は当たり前だと思っていました。しかし、発展途上国の乳児期の死亡率の高さは予防接種を受けられない事に一因がある、と習った事を思い出し、日本の子供達は守られているんだと改めて感じました。その他に生まれるまでの妊婦健診や出産にも助成がある事、生まれてからの検診や、発育相談制度等、今まで家族に守られて育ってきた事は感じていたけれど、そうやって考えてみると税金を納めているたくさんの人達に支えられながら育ってきたんだ、と見えなかった絆が見えてきたようでした。税金によって義務教育が受けられたり、色々な公共施設を利用できたり、又、祖母が早期に癌を見つけられたのも市の検診を受けたから、そういう事は分かっていたけれど、手帳の中から見えた絆は私にとって実感できた、とても大きな発見でした。

これから買い物で消費税を払う時、お小遣いからの小さな額だけれど私にできる絆の一步だと思うでしょう。又、大震災の傷跡はとても大きく復興までにはまだまだ時間がかかりそうです。私も働くようになったらきちんと税金を納め子供からお年寄りまでが安心して暮らせる日本の制度を担う一員になりたいと強く思いました。

消費税の増税問題

相模女子大学中学部 3年 石毛 麻里奈

最近の税金についての話題といえば、やはり消費税の増税問題だろう、と思い、消費税について少し調べてみた。

日本では、消費税を八パーセントや十パーセントに引き上げると言っているが、他の国の消費税はどのくらいなんだろうか。調べると、驚きの数字が出てきた、なんと、ヨーロッパ諸国では、消費税が十五パーセント以上なのだ。「ヨーロッパは高すぎだ。」と思うかもしれない。だが、様々な問題があり単純に比較することはできないが、日本とヨーロッパ諸国の人々が払っている税金は大して変わらない。なぜなら、国によって税率は異なるが、食料品、衣料品、近距離運賃、医薬品、新聞などの税金は安いからだ。ここで考えたいことは、今、実質的な消費税率が日本とヨーロッパ諸国では大差がないのに、日本はこれ以上消費税率を上げるのか、ということだ。

良い例に、スウェーデンの税金の制度がある。この国の税率は二十五パーセントで、とても高い。ところが、国民からの不満の声は少ない。むしろ、国民の幸福感は日本よりもはるかに高い。食料品の消費税でさえ二十一パーセントもあるのに、不満の声がないのはなぜだろうか。それは、スウェーデンの福祉制度に答えがある。まず、医療費は二十歳以下は無料、二十歳を超えても一年間に支払うのは約一万二千元までだ。大学、大学院までの教育費も無料だ。そのほか、月額約一万三千円の児童手当、託児所の無料化、老人ケアのサービスなどもある。つまり、高額負担な代わりに高福祉なのだ。

では、日本も増税する代わりに福祉制度を充実させればよいのか、というと、そうはいかないのが現状だろう。理由は二つある。一つ目は、スウェーデンが自殺大国だと思われるからだ。高福祉でハングリー精神を失い、高負担でやる気を失って自殺率が高いと思われる。自殺率が高かったのは昔の話で、現在は決して高くはないのだが、そう思われている以上、反対の声があがるだろう。二つ目は、国民が政府に対して信頼していないからだ。日本の福祉政策は理念を提示できていないため、制度の信頼性を損ね、将来の不透明さを生んでいる。そして「どうせ税金が高くなるだけで福祉制度なんか良くなるんじゃないでしょ。」と国民に思われる。スウェーデンの税金制度は「支払った税金はちゃんと世の中の役に立ち、自分も福祉としてその恩恵を受けられる」という信頼がなければならないので、今の日本がこの制度を取り入れることは難しいだろう。

今まで他の国の税金制度を見てきたが、増税するならどのような方法がいいだろうか。今の日本の現状を見れば、ヨーロッパ式がいいだろう。だが増税の前に、日本の現状としっかり向き合い、政府は国民から信頼されるような国づくりをすることが必要なのではないか。

私の住んでいる山梨県では、今年四月から新たに森林環境税というものが導入されました。そこで、私はその森林環境税について、どのようなものなのか、調べてみることにしました。すると、様々なことがわかりました。

山梨県の面積の七十七・八パーセントは森林です。森には、水を蓄えたり、供給したりする働きや、洪水や土砂災害を防止する働き、さらに光合成をして地球温暖化を防止する働きなど、私たちの生命や財産、安心できる環境を守っていくために、とても重要な役割があるのです。ですから、森林をしっかりと整備して、保全していくことが必要なのです。

しかし、山梨県内の民有林の多くは、手入れが行き届かずに荒廃が進んでいて、土壌が流出してしまったりと、森林が持つ機能の低下が心配されています。そこで、森林からの恩恵を受けている社会全体で、未来に引き継ぐ健全な森づくりをしていこうというのが、この森林環境税が導入された理由です。そして、それは荒廃した森林を間伐、除伐などの手入れをして、健全な森林に再生するために使われるということです。

私はこの税をととても良いものだと感じました。なぜなら、森林を手入れして、良い状態に保つことによって、私達が安全で安心して暮らせることはもちろんですが、豊かで美しい森になることによって心に安らぎを与えてくれ、精神的にも豊かになることができるからです。それと、住民が税として納めることによって、森林に対する意識が高まり、さらに良い森づくりにつながっていくと思います。そうやって、社会全体で森林を守っていくことができるのです。

私の住んでいる県の約八十パーセントを覆う森林は、降りそそぐ日光や雨を受け止め、私達に恵みをもたらしてくれる、なくてはならない存在なのです。家の近くの森林を見てみると、一見普通の緑のある森林ですが、実は不健康で荒れてしまっているものもあります。それでは本来の自然の恩恵を受けることはできません。むしろ、山崩れや洪水を引き起こしてしまい、私達に害をもたらしてしまうこともあります。

私達人間が、森林、また森林で暮らす動物と共に豊かに生きていくために、人が自然と向き合い、健全な森林を増やし、残していく。そのために住民がお金を出し合う、これがこの森林環境税なのだと思います。また、他の税でも同じ様なことが言えると思います。皆でお金を出し合い、社会を豊かにしていく、それが「税」の役割なのだと、この森林環境税を通して感じました。

税は暮らしを貧しくするのではなく、豊かにするものなのです。

税のもう一つの行き先

福井大学教育地域科学部附属中学校2年 下出 涼太

税金で作られたものには、道路や図書館、病院などたくさんの施設がある。つまり、税金の使い道＝公共施設の建設と思われがちだ。ところが、僕が中学生になって、税金はもっと奥深いところにも使われていることを初めて知った。

僕はソフトテニス部に所属しており、しばしば市営のテニスコートを使用する。友達と一緒に自主練習する場合には、まずインターネットで空き状況を確認するのだが、一時間ごとの空き状況、空いているコートの番号までを見ることが出来る。だからそれを見てから友達と相談して電話予約をすればいいのだ。これが当然だと思っていた。しかし、ある日、そのテニスコートの予約がとれなかったので、市営ではない別のテニスコートで練習をすることにした。早速空き状況を確認できるホームページを探したが見つからない。仕方なく電話をかけると、

「電話予約はできませんので、こちらに直接お越し下さい。」

と言われてしまった。しかも、空いてるのかどうかすら電話では教えてもらえなかった僕は「そんなのありえん！」と思った。実はそのコートまでは家から往復で一時間近くかかるのだ。「それに仮に行ったとしても、空いていなかったらどうするんだ。」と少し腹が立った。だがよく考えてみれば、今までのような方法が決して当たり前ではなく、税金のおかげなのだ気付いた。いつものテニスコートは市民の税金によって運営までが行われている。施設を造ったまま放置するのではなく、多くの人に手軽に利用してもらえるようなサービスを提供する為にも税は使われているのだ。

もう一つ、似たような体験を図書館でもした。僕の市に市立図書館は三つあり、それぞれ離れた所にある。ある日、遠くの図書館にしかないCDを借りたいと思い、渋る父親を説得し、何とかその図書館に行った。するとカードを作った際に、インターネットで予約をするとどの図書館にある本でも最寄りの図書館まで届けてくれ、準備が出来たらメールを送ってくれるというシステムがあることを知った。「へえ、そんな便利なシステムがあるんだ。じゃあもう遠くの図書館まで行かなくてもいいんだ。」と嬉しくなった。それ以来、僕は学校帰りに駅の近くの図書館を利用している。本を探す手間も省けるので、学校の図書室より頻繁に使うくらいだ。そしてこのサービスも税金によって賄われているのだ。

これらのことから、僕は税金が今までより身近に感じられるようになった。そして国民は納税という義務を果たすと同時に、自己の生活をより快適に過ごす為の権利を得ているのだと思った。だから、今僕はわずかな消費税ぐらいしか納めていないが、大人になったらきちんと税を納め、ぜひそれを国民のよりよい生活の為に活用してもらいたいと思う。

商品を買うときに税込みという文字を目にしながらかも、何となく払っている消費税、親が働いた利益から払っている所得税など私たちにとって身近な税。しかし私は知らなかった。税がこんなにも大切だということ。

みなさんは、もしも日本に税がなかったらと考えたことがありますか。もしも税がなかったら、救急車、消防車を呼ぶのにお金がかかるようになります。そうすると、助かる命も助からなくなってしまいます。ゴミを捨てるのにも、道路の工事をするのにもお金がかかるので日本の環境は荒れていく一方だと思えます。

私たち中学生に一番関わりがあり、受けられることがあたりまえだと思っている義務教育も受けられなくなり、お金の問題で学校へ行ける子供は限られてしまいます。勉強をする子供が減ってしまうと、日本の未来は他国に比べて遅れを取り、衰退していつてしまうのではないかと思います。税がある今、私たちは義務教育を受けることができます。私たちが学校で使っている教科書や机やイスなどは全て税が使われています。

そこで私は、義務教育にどのくらいの税がかかっているのか調べてみました。すると九年間で一人あたり約七百九十万だということが分かりました。思っていた金額をはるかに超える大金で驚きました。それと同時にこんなことが脳裏に浮かびました。

「私はこの八年間、この税に相当するほど真剣に勉強に取り組んできたかどうか。」

私は自信をもって真剣に勉強に取り組んできたとは言えません。そんな自分が恥ずかしく思えました。税を払う大人たちは、未来への大きな可能性がある子供たちが、日本をよりよい国にしてくれるだろうと期待があるからこそ税を払ってくれているのだと思います。なので、私は勉強できるということをありがたく思い今まで以上に熱心に勉強に取り組もうと強く思うことができました。

税は他にもいろいろなところで使われています。例えば、市の図書館や体育館、グラウンドなどがあります。図書館があるから、気軽に本を借りて読むことができます。体育館やグラウンドがあるから部活の練習や大会を行うことができます。私たちは、税のおかげでとても充実した生活を送ることができています。

私は、税がなかったらと考えるまでは、
「税なんてなければみんなのお金の負担が減るのに。」
とっていました。でも考えたことによって税の大切さを知ることができました。

私が大人になったら、社会の一員として、しっかり税を納めていきたいと思えます。よりよい日本を作っていくために。

明るい未来を切り拓く道と税

新城市立千郷中学校 3年 浅井 香穂

「山がすごい削られちゃったね。」

「学校へ行く時にいつも見ていたけど、遠くからだから、こんなになっていたなんてわからなかった……。」

先日、作手方面へ続く国道を家族で通った時、山の姿を間近で見て驚きました。大量の木が切られたあとに、巨大な橋脚が何本も立っています。

私の住む新城市では今、新東名高速道路の建設が進んでいます。そのため見慣れた雁峰山の風景が、日に日に変わっています。山を土台から支えている木々があんなに切られてしまって、山は大丈夫なのかな。大雨が降った時に土砂崩れが起きたりしないのかな。ふと心配になりました。

同時に、一つ疑問がわいてきました。東名高速道路があるのに、なぜ新東名を造るのでしょうか。新東名は本当に必要なのでしょうか。

「新東名が完成すれば、お母さんのふる里に帰る時、ずいぶん時間が短縮できるよ。」と父が教えてくれました。そこで、新東名についてもっと詳しく調べてみることにしました。

まず、新東名の建設には、約四兆四千億円もの莫大な費用がかかっています。そしてその費用は、国民が納める税金が使われます。

新東名ができることで、東名の渋滞が緩和されて事故が減少したり、山間地域からの救急搬送時間が短縮されたりして、安心、安全な暮らしの実現のほか、地域産業の活性化も期待できるのだそうです。つまり、新東名のおかげで、私たちの暮らしはよりよくなることがわかりました。

また、新東名の建設では、環境保全に向けた取り組みも行っているそうです。一つ目は、道路建設のために切った大量の木を堆肥化し、高速道路のり面の吹きつけに利用した資源の有効利用です。二つ目は、建設現場に自生する樹木の種子を採取して苗木になるまで育て、他の場所に植樹することです。三つ目は、新工法によりその土地の自然環境に与える影響を最小限に抑えることです。

いろいろ調べてみると、新東名の建設は、人々の暮らしの便利さだけを求めるのではなく、自然環境の保全にも配慮されていることがわかりました。

これまで私は、学校、消防、警察などのほかに、建設が税金でまかなわれていることは知っていました。でも、それだけではなく、環境保全や人々の安全な暮らしと産業の発展など、高速道路建設に関わるあらゆる事柄を研究するためにも税金が使われていることを、改めて知ることができました。

このように、税金は国民生活の様々な場面で役に立っている、なくてはならないもの。国民一人一人が、自分たちの暮らしの向上のために、そして明るい未来を切り拓くために、手を取り合っていきたいと思います。

消費税について

朝日町立朝日中学校3年 片山 杏菜

私は、自分達にとって一番身近である「消費税」について考えました。

今、国会で問題になっている消費税増案に対して、私は賛成します。なぜなら今、日本は少子高齢化が進んでおり、社会保障にかける支出が多くなってきているからです。

現時点でフランスの消費税率は約二十パーセントで、十月からまた消費税率を引き上げるという予算案がでています。なぜここまで消費税率が高いのかというと、フランスでも高齢化が進んでおり、日本と同じように社会保障にかかる支出が多いからです。今後も、高齢者の総人口比率はフランスよりも日本の方が高くなると予想されるのに、なぜ日本の方が消費税率が低いのかと、疑問に感じました。

日本で消費税増案への反対の意見がある原因は主に二つあります。一つ目は税金の使い道がはっきりしていないことです。税金の使い道がはっきりしていないと、国民が税金の無駄遣いがあるのではないかと、思い、消費税増案には賛成できない人がいると思います。二つ目は所得が人それぞれ違うにも関わらず、同じ消費税率をかけられることです。このため、低所得者ほど負担率が高くなってしまふので、平等さに欠けてしまいます。この二つの問題を解決するには、税金の使い道を国民にきちんと述べることや、平等性を重視した新しい制度を消費税に取り入れることが大切だと思います。そして、教育の場を使って、もっと政府の財政活動についての知識を増やすことも、解決の第一歩だと思います。

次に、消費税の利点について考えました。消費税は所得税と比べて、税の徴収に安定性があることです。なぜならば、所得はその年度によって異なることもあるため、確実に納税することが難しいからです。反対に消費税は、所得に関係なく全員から確実に税を納めさせることができるからです。

以上のことより、消費税増案に対して、私は賛成します。今回取り上げた、消費税について考えるまで、私は消費税増案に反対でした。しかし、今の日本が少子高齢化であるため、多くの社会保障が必要とされるということや、消費税の利点を考えてみると、やはり消費税率を上げなければならないと改めて思いました。この問題について、国民ももっと真剣に考えていってほしいです。

税金の使い方

高島市立朽木中学校 3年 矢野 夏実

八月十日、消費税増税法案が参院本会議で可決されました。二〇一四年四月に八パーセントに、二〇一五年十月に十パーセントにと二段階で増税を行うと新聞に載っているのを見て「増税なんて嫌やなあ」となんとなく思っていました。三年後に二倍かあ、とガクツとなりました。他の国の税率は日本ほど高くないんだろうな思い、インターネットで調べてみました。

調べてみて、自分の考えが間違っていたことが分かりました。ヨーロッパの国々の消費税率を見てみると、二十パーセント台の国もありました。なんだ、日本の増税はヨーロッパの国々と比較したらちっぽけで軽い問題だったんだと思って、少し気が抜けましたが、私が参考にさせてもらったホームページにはこう続いていました。「消費税率だけ比較してみると日本の税率は安く見える。しかし、問題なのは日本ではどんな商品にも一律に税金をかける事である」と。例として年金暮らしのおばあちゃんが買う百円の大根と大富豪が道楽で買う一千万円以上のフェラーリがあげられてありました。大富豪は消費税が上がったところで問題はありませんが、年金暮らしのおばあちゃんは生活することが困難になります。この対策として先進国の大半では食料品の消費税率を低く設定してありますし、スウェーデンやノルウェーをはじめとする東欧諸国では税金は高いけど「ゆりかごから墓場まで」というように社会福祉が日本とは比べ物にならないくらいに充実しています。日本では経済的格差に関係なく一律同等に税をとっている上に、国の社会福祉保障も削減しようとしている、という文を読んで、日本は今まで何をやってきたんだろうと思いました。数年前に子どもも手あてが削減され、私の母が不満を言っていたことを思い出しました。

日本人はイタリア半島にあるサンマリノという国と並び世界一長生きです。また、日本は世界に例をみないほど急速に高齢化が進んでいて、それと同時に少子化も進んでいます。ということは、将来税金を払い高齢者を支えていく人が減少するのですが、支えてもらう高齢者はどんどん増加し、今の社会保障制度のまま放置した場合、年金や医療の負担が上昇の一途をたどり、将来の私たちの子どもや孫の世代まで負担が残ります。

この作文を書くとき、おそらく多くの方は「有意義に使ってほしい」と言われると思いますが、私の意見は「無駄なことはしないで今の状況をよく考えてほしい」です。国債という借金をしてまでも無理をしないでほしいです。私たちの未来はまだこれからです。だから税金は考えたうえで上げてもいいので、できる限りでわたしたち国民の生活を考えた使い方をしてくださることを望みます。

助け合い、支えあう心を大切に

京都光華中学校 3年 向井 友梨

私の祖母は人一倍働き者で元気な人ですが、三年前に心臓にペースメーカーを入れる手術を受けました。そして「身体障害者手帳」の交付を受けました。この手帳は、行政から種々の福祉サービスを受けることができるとてもありがたいものです。

「一緒に映画を見に行こうか。」

「一緒にバスで行こうか。」

と、祖母は明るく私を誘ってくれます。この手帳のお陰で、映画館は障がい者割引で、付き添いも一名まで安く映画を見る事ができます。市バスも付き添い一名分が無料となります。他にも近くの福祉センターで安い費用で書道や絵画を習っていると話してくれました。手術をする前は、元気にバイクに乗り趣味のステンドグラスを楽しんでいた祖母ですが、今はペースメーカーに影響があるためできません。しかし、「身体障害者手帳」のお陰で他の楽しみを見つけ以前と変わらない明るい笑顔の祖母の姿を、とてもうれしく思います。

今回税の作文を書くにあたって祖母の「身体障害者手帳」も福祉という項目で、国の税金が使われている事を知りました。そして私は、税金のシステムを次のようにとらえました。

日本には、国民が安心して暮らせるようにするために使える大きなおさいふがあって、そこにみんなが税金という形でお金を入れています。現在おさいふにある半分のお金は税金ですが、残りの半分は「公債金」という借りたお金で補っています。このおさいふから警察・消防・道路・水道の整備といった「みんなのために役立つ活動」や、年金・医療・福祉・教育など「社会での助け合いのための活動」に必要なお金を使っています。一方で二十四・三％は国の借金を返したり、利子を支払ったりするために使っています。つまり約二十五％は今も借金が増え続けている厳しい現状があることを知りました。

税と深くかわりがある少子高齢化の問題を新聞やニュースで見たりしますが、日本は高齢化が進んで、この先社会保障の費用が増えていく傾向があります。二〇〇〇年には、六十五歳以上の高齢者一人を三・六人で支えていたのに対して、私が五十三歳になる二〇五〇年には一・二人で支えることになるのです。

今、私たちが何気なく生活の中で受けている恩恵は継続してほしいと思う一方で、高齢化社会となる日本のおさいふが心配です。

私に出来る事は、税金の仕組みや使い道について、十分知ることから始まる気がします。そして将来、今まで受けた恩恵をお返しできる大人になりたいです。

東日本大震災やオリンピックでも、日本人の助け合う心は素晴らしいと感じました。これから先も助け合い、支えあえる国であり続けてほしいです。

税金は国がなりたつ為にあるもの

大阪市立宮原中学校 3年 山田 賢太

僕は消費税について書きたいことがあります。八月十日に「社会保障・税一体改革関連法案」が可決・成立しました。このできごとにより、テレビや新聞などで報道され、ニュース番組などの街頭インタビューでは「生活が苦しくなる。」や「マニフェストに書いてなかった。」などと批判する声が聞かれました。確かに生活は苦しくなりますが、野田首相はマニフェストになかったことを謝罪し「社会保障の安全財源を早急に確保し、社会保障を支えなければならぬ状況に陥っている。」という発言をされました。つまり、その引き上げられた分は増収分は全て社会保障に使うことを明言されました。この増税は私たち国民にとってマイナスばかりなのではないでしょうか？僕はマイナスばかりだとは思いません。なぜなら、私たち国民の老後がある程度保障されるからです。もう一つの理由は現在、日本は人類が経験したことのない世界最速のスピードで「少子高齢化」が進んでいます。二〇〇五年の国勢調査によると、一年前より二万人も人口が減少しました。恐ろしい数字です。なんとしてでも「少子高齢化」を食い止める必要があります。若者に対しての未来に希望を持てる政策をしてもらいたいです。そして、僕はフランスの「税金」の使い方、政策の内容にすごく好感を持ちました。それは、内閣府が発表した「財政経済白書（二〇〇三年版）」によれば、大卒女性が結婚・出産の為に二十八歳で一回退職した後、三十四歳で正社員として再就職して六十歳まで働いた場合、正社員として働き続けた場合と比べ、八五〇〇万円程度減少する計算になります。ここでフランスは一九九三年に一・六六まで落ち込んだ出生率が、二〇〇八年には二・〇一まで回復しました。一九九〇年代以降、女性の社会参加を促す就労支援や、出産・子育ての負担軽減に取り組んだことが実を結びました。これは本当によい「税金」の使い方だと思います。この例で分かったように「税金」により国の成長、景気の回復などとあらゆる国の悪い状況を打開することが可能です。しかし、失敗すると大きな負担や損害がでます。二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災により「原子力推進」が良い選択なのか悪い選択だったのか議論されています。私たち日本人はこの震災から何を学ぶのかが求められます。そして、今回浮き彫りになってしまった「原子力推進」を改善できるのも、「再生可能エネルギー」を研究、開発、実用化するのに必要なのも「税金」です。

「消費税」は一九八九年から施行され約二十三年間国民が納めてきました。そして、今「少子高齢化」など多くの深刻な問題を抱えている中で私たちの納めた「税金」が日本が良くなる「起爆剤」になるように使ってほしいです。

母の払う税金

枚方市立第四中学校 3年 松下 美波

私のお母さんは、私が小学生の時に看護学生でした。その頃お母さんは所得税を払っていませんでした。母子家庭だったので学校の行事の費用や給食費なども市の援助を受けていました。

そのお金は、市民の払った税金でした。みんなが税金を払ってくれたおかげで、私は他の友達と同じように学校生活を送ることができました。

母はその後、看護師になり、就職しました。そして今では所得税を払っています。母は、今までみんなの税金で学校に行き勉強できたので、これからはお返しができる、と喜んでいます。

私はこの話を聞いて、税金とは何のためにあるのか考えました。

税金は他の国を経済援助したり、大規模な開発をしたりすることにも使われますが、私たちの身近な暮らしをより良くするためにも役立っています。

誰でも、学校に行ったり、医療を受けたりできるように、税金が使われています。

また、災害に備えていろいろな対策をし、復旧にも税金が使われています。税金は、私達の身近にあり、私たちを助けてくれています。

今、私たちの払っている税金は、みんなの役に立つためにあります。私の母は、私に、どんな職業に就いても良いけれど、所得税や住民税を払ってお返しができるようになってほしいと言います。

私は自分も税金に支えられてきたことを知り、みんなが税金を払ってくれたことにとっても感謝しています。私も大人になったら、税金をきちんと納めて、役に立ちたいと思いました。

今、私の家では弟が保育園に通っています。それにも税金が使われています。保育料は、所得に応じて決められており、収入の少ない家庭でも保育園に行けるようになっていました。それによって、小さな子供がいる人も仕事に就くことができ、その人の納めた税金がまた他の誰かを支えています。

このように、税金は人と人とが支え合って成りたつようなしくみになっています。

消費税増税が検討されていますが、私は最初、消費税が上がるのは嫌でした。しかし、高齢化する社会の中で、みんなが支え合い安心してくらすしていくためには、消費税も大切だと思うようになりました。

私が買い物をした時に払っている5%の消費税も誰かの役に立ち、私も支え合いのしくみの中に入っていることを、改めて考えると、やはり税金は身近なものであり、納税の義務を果たすことも、自分のためになるのだと気付きました。

そして、母が税金を払うのが嬉しいと言うのは、おかしいと思っていましたが、その意味が私にもわかりました。

税と命

三田市立ゆりのき台中学校3年 原田 萌恵子

私は今まで、税のことについて深く考えたり、関心を持ったりしたことはありませんでした。しかし、今回税金について知りたいという気持ちを持ち、学校からもらった「私たちの生活と税」という教材を見たり、新聞やインターネットで調べたりしました。

私には一〇〇歳の曾祖母がいます。曾祖母は祖父母と一緒に暮らしていました。現在、祖父母は仕事を退職し、農業と年金で生活を支えています。しかし、祖父母も高齢のため寝たきりの曾祖母を家で介護することが難しくなり、数年前から特別老人介護施設でお世話になっています。私は「ひいおばあちゃんを介護するにはどれくらいのお金が必要なのだろう。」と思い祖母に尋ねてみました。すると「たくさんの費用が必要だけれど、その費用のうちの六分の五は税金で助けてもらっているんだよ。」と話してくれました。私はこの時、安心すると共に税金がとても身近なものに感じました。そして、いろいろと調べていく中で、私たち一人ひとりが、この世に生を受けてから今まで医療や福祉など公的なサービスを受けることで充実した生活を送ることができているということが分かりました。また、私は両親が共に仕事をしていたので、保育園でお世話になったり、病気にならないための予防注射を受けたりと、たくさんの税金に支えられて大きくなったということも分かりました。税金のおかげで私たちの生活や健康が守られ、平等に教育が受けられている。とても幸せなことだと思います。私の生活は納税者の方々に支えられているのです。

私は、お父さんやお母さんが仕事をしていても、小さな子どもたちがさみしい思いをすることなく、大切に育てられ、幸せな毎日を送り、平等な教育を受けることで、人を思いやることのできる立派な人が育つと思います。調べていく中で、二〇〇〇年には三.六人で一人の高齢者を支えていましたが、二〇五〇年には一.二人で一人の高齢者を支えていかなければいけないということが分かりました。デンマークなどの福祉国家と呼ばれる国では消費税をとっても高い割合でとっているということも知りました。私は大切に育てられた若い力が老後も安心して生活できる世の中を作っていけると信じています。

現在、テレビのニュースや新聞では、消費税の値上げについての話を見たり聞いたりしますが、これからも誰もが住みやすい社会にするために、やるべきことを考えていかななくてはならないと思います。そして、税金がどのように使われているかにも関心を持ち続けたいと思います。

私は今回、税金の勉強をし、私が将来税金を納める立場になった時には「今まで大切に育ててもらってありがとうございました。」という気持ちを持って税金を納めたいと思います。

知ることからはじまる税金

神戸市立湊翔楠中学校 3年 小林 真奈

最近、「税」に関するニュースがよく流れている。今までは自分には関係の無いことだとあまり気にしていなかったが、学校で行われたデリバリー授業をきっかけに「税」に関心を持つようになった。その授業では税の種類や税の使われ方などについてたくさんのお話を教えてもらった。その中で私が一番気になったことは、消費税が約三年後に十パーセントに上がるという話だ。実際に先日、『社会保険と税の一体改革法』が成立した。普段ほとんど自分で買い物をしない私にとって消費税が五パーセントから十パーセントになることで日々の生活がどう変化するのかよく分からなかった。なぜ、消費税を上げなければならないのか。消費税が上がることによって今までの私たちの生活がより豊かになるのだろうか。

東日本大震災によって大きな被害をもたらした原子力発電所のニュースの中で、原子力発電所がある地域に「補助金」といったお金が日本政府から出ていることを知った。そのお金を使い立派な道路や豪華な施設が立ち並んでいる映像が映し出された。その映像を見た時、これらの施設はここに住む人たちにとって本当に必要なもので日々有効に使用されているのだろうかと思った。

税の使われ方に関する資料を読んだ時も疑問が起こった。税金が放置自転車や不法投棄による大量のゴミを処理するために使用されていることが書かれてあったのだ。ゴミの処理は、地域をきれいにしているいいことだと思うが、ルールを守っていない人のために税金を使うのは無駄なことであり、税金を使う前にすべきことがあるのではないかと私は思った。

今、私が住んでいる地域の橋の付け替え工事が行われている。交通量も多くバスも通り私たちの生活にはなくてはならない橋である。この橋が老朽化してきたために付け替えが必要らしいが、その工事に五年かかると聞き驚いた。橋の付け替えにかかる五年という歳月やそれにかかる税金の額は本当に適切なのだろうか。また、全国にどれだけの橋がありそれらの老朽化に伴う工事も本当に適切に行われているのだろうか。何が適切で何が不適切であるのか、今の私には何一つ判断することができない。ただ感覚として「何か違う。本当にこれでいいのだろうか。」と感じてしまう。

『本当に困っている人がいるところに、本当に必要なことに税金を使ってほしい。』それが私の単純だけど正直な気持ちである。本当に必要なことの中には私が想像もできないこともたくさんあるだろう。また、私の知らない所で既に税金が使われ私自身の生活を支えてくれていることもたくさんあると思う。まずは私が税金に関心を持ち、社会で起こっていることに対して自分の頭で考え、正しい判断ができる人になっていきたい。

税とは

奈良市立富雄南中学校 3年 湯浅 美空

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

税があるからこそ

印南町立切目中学校3年 藁科 佳奈

私達が暮らしているこの世界。それは、税金があるからこそ成り立っているのです。そう、税金があるからこの世界は動いて、私達は生活をする事ができています。

今年の春、私は二ヵ月間入院をしました。入院中は、色々な検査をしたり点滴もしなければなりませんでした。それにはたくさんの費用が必要でした。費用の面も気になっていた私でしたが、私達の町で取り組んでくれている医療費助成金制度のおかげで、とても安心して治療を受ける事が出来ました。その医療費助成金制度とは、私達の町に住んでいる高校三年生までが受けられる医療費が免除される制度で、私達の親やその他たくさんの大人達が懸命に働き、納めてくれている税で成り立っているのです。その事を知った私は、「ありがたいなあ。」と感じたのと同時に、この国を支えてくれている大人達に感謝の気持ちが込み上げてきました。

そして、元気になる事ができた私は今、学校に通う事が出来ています。授業を受け、クラブ活動もでき、友達と笑い合ったり……とごく当たり前だけれど、幸せな毎日を過ごしています。こんな風に過ごせているのもまた、税金があってくれるからです。そして税があるからこそ、学校という場所があります。そこで私達は色々な事を感じ、思い、学んで成長しています。大人になり、一人の納税者となれる事を目指して。

しかし今、世界の中には勉学どころか、食べる事さえ不十分な子供達がたくさんいるとテレビなどで見たことがあります。たとえ、住んでいる場所は違って、同じ一人の人間には変わりはないはずです。それなのに「どうしてこんなにも環境が違うの。」と感じます。私が言える事ではありませんが「税という制度があれば、どうにかなるのではないか。」とも思います。もちろん、今回この経験をして「税」という制度は、決して簡単で単純なものではない。という事も知りました。けれどだからこそ今、日本という豊かな国に生まれ、多くの税に支えられている私達自身が、もっと真剣に税と向き合っていかなければいけないと思います。口にするのは簡単で、それを実現させることはすごく難しい事だけれど。学ぶ事のできる環境があるのだから。それに感謝し、世界中に住んでいる人々、一人一人が平等で安心できる生活を送れるように。

ちっぽけな私だけれど将来、一人の納税者として少しでも国を支えられるようになりたいです。税の大切さ、税金があるありがたさを、次の世代にもきちんと伝えてゆける、そんな大人に。

増税はおおごと？

呉市立両城中学校 2年 渡辺 隼生

「おおごとじゃわ〜。参議院で成立するよ、消費増税法が。消費税が 10%になるけん隼生のお小遣いも減らさないとねえ。」

ある日、テレビを見ていた母が僕に言った。

「わけわからん、なんで僕のお小遣いが減るわけ？増税と僕のお小遣い、関係ないじゃん。」

テレビは、国会中継。「社会保障・税一体改革関連法」という議題で賛成と反対の意見をそれぞれ述べていた。そして採決。消費増税法案においては、記名投票で壇上に賛成・反対の木札を議長に手渡し投票していた。僕は初めて法律が成立する瞬間を見た。

税について何も知らなかった。このような過程で税率が決まること。買い物をする時 5%の消費税を国に支払わなければならないが、それが 10%になるという現実。国が得をし、僕達の負担が増えるだけでなにになるのか。

今回、夏休みの課題で「税についての作文」というのがあったので、疑問を解決するチャンスとして、この作文に挑戦することにした。

【税】 国費・公費支弁のため、国家・地方公共団体の権力によって、国民から強制的に徴収する金銭など。(広辞苑)

税とは税金。みんなの安全・安心を支えるための会費。今僕が受けている義務教育の費用や、水道・道路・年金・医療・警察・消防・防衛・福祉・借金の元利返済分である国債費等に使われている。つまり、日本に生まれて、当たり前前の生活が、税金によって成り立っている。日本中の支えで今の僕がいるのだ。

その税金で行う財政は今、大変な事態になっていることも知った。財政赤字。高齢化社会で社会保障費が増えているのに対し、バブル崩壊で景気が落ち込み税収が減ってしまったのが原因。そこで今回消費税を 10%に上げ、さらに高齢化する日本の社会保障費にあてる必要がある。このままでいくと、日本は破綻してしまうかもしれない。

「おおごとじゃわ〜。」と、言った母の言葉も大げさではない。実際に消費税が上がれば、家計の負担が大幅に増す。渡辺家の財政が「おおごとになる」というわけだから。

しかし、実際もっと「おおごと」になっているのは国の財政である。ここはやはり、苦勞してやり繰りしてでも、支えあいによって成り立っている社会、国家の財政源の税を応援すべきだと僕は思う。

税は僕たちの暮らしに無くてはならないもので、税について深く理解して感謝することが今の僕に出来ることだと思う。小遣い減額もしかたないか…。

日本の財政赤字を見て、本当に驚いた。今後どうなるのだろう。行き先は不安だが、今やるべきことをしっかりやって、これから日本を支えられる人間になりたいと思う。

「日本の未来がおおごとにならんために。」

税が人の命を救う！

広島県立広島中学校2年 野田 鈴音

私が中学一年生の頃、あるクラスメイトが授業中に突然倒れた。私たちはその光景に驚くと共にそのクラスメイトの様子を見て怖くなり不安にかられた。しかし、その数分後学校に救急車が到着し、救急隊員の素早い処置により病院に運ばれていった。そして、大事には至らず病院から意識もはっきりしていると学校に知らせが入った。私はこのとき救急隊の方達への感謝と同時に、救急車の必要性を改めて認識した。

この救急車には、私達の納めた大切な税金が使われている。私は、税金が人の命を助けることもあると感じた。

一方、現在の日本では「救急車の不適切利用」が問題となっている。私はつい最近、平成十二年度から平成二十二年度までの十年間で救急車の出場件数が三十パーセント以上も増加しているということを耳にした。また、救急車の現地到着時間が以前に比べ、二分も長くなっていることも聞いた。不適切利用のひとつとしてはタクシー代わりで使われていることがあるそうだ。また、救急車で運ばれた患者のなんと半数以上がとても軽い怪我であるらしい。このように軽い気持ちで救急車を利用する人が増えてきていることが原因で、本当に大変な状況であるにも関わらず、救急車の到着が遅れて命が助からないというケースも増えてきているらしい。

救急車の不適切利用をしている人の中には「税金を払っているのだから救急車をいつ使おうと自由だ。」という考えを持っている人が多いようだ。そのような非常識な考えを持つ人がいるために助かるかもしれない命が助からないというのは、とてもいたたまれない事である。

「税金」というものは、人々がより安全に且つ快適な環境の中で生活できるようにするために租税として納める金銭のことだ。私達学生は、この税のおかげで義務教育を受けることができている。

国民は、納税する義務があると共にサービスを受ける権利を持っている。だからといって、税金を使って何をしてもいいという考えは間違っていると思う。国民によって納められた大切な税金は、個人で勝手に利用するものではなく、社会に暮らす人々の生活環境を整え、向上させ、よりよい日本にするために使うべきだと思う。

数年後、私も社会に出て税金を納めるときが来る。その時はきちんと税金を納め、それを有効に活用出来る社会づくりに貢献したいと思う。

ぼくを助けてくれた税

丸亀市立東中学校 3年 鈴木 浩太

ぼくの胸にはたてに走る傷あとがある。もうずいぶん薄くなってきたが、裸になると少し気になる。一才になったばかりの頃に受けた心臓の手術のあとだ。

ぼくは全く覚えていないので、あとになって周りにいた家族から聞いた話でしかわからないのだが、「心室中隔欠損」という先天性の病気で、幼い頃は入院を繰り返していたそうだ。母は、ぼくの入院する病院から通勤していたこともたびたびあったと言っていた。

なぜから始まって、たいていの病気に必ずかかっていた、と言われるぼくの医療費や手術の費用などがどれくらいかかっていたのだろうかと思ふと、母に聞いてみた。

母によると、三才までの医療費は、「乳児医療」という名称で、税金から払われているので、書類を出せば支払ったお金が返ってきていたということだ。幼い頃から予防接種の時以外は病院にかかることのなかった丈夫な姉と違って、病院にかかっていないことの方が少なかったぼくは、「乳児医療」の恩恵をかなり受けていたようだ。

また手術の費用も、どれだけかかるのだろうかと思っていたそうだが、手術前に、「育成医療」という、特定の病気の治療に対して費用が支払われる制度がある、という説明を受けて、一つ心配が減ったそうだ。

ぼくの医療費の例だけを取りあげてみても一番大変な時に、税によって支えられていたのだということを知った。

現在、増税をするかどうかで、政治のニュースが気になることも多いが、本当に困っている人を支えるための税だと思えば、逆にこれからのことを考えて、慎重に税の負担について考えていかなければならないと思う。若い人が少なく、高齢者が多くなっている現状を考えると、払える世代の人達が税を負担していかななくては、今の福祉制度や年金の制度も成り立っていないのではないかと思う。

中学三年生になって、進路のことを考え始めたぼくは、早く一人前になって働き、大人としての役割を果たせるようになりたいと考えている。同じように考えている友達と「早く仕事につきたいよな。」と話したこともある。

今ではすっかり丈夫になり、めったに病院に行くことなくなったぼくだが、心臓の手術のことは家族の中で話題にのぼる。はいはいも休みながらでないとできず、赤ちゃんのくせに真っ白な顔をしていたぼくは、今、元気にマラソンや水泳を楽しみ、真っ黒に日焼けしている。「こんなに元気になるなんて思わなかったねえ。」と周囲の皆に言われる。

ぼくたちはあまり意識していないけれど、毎日の生活の中で、税金のおかげで成り立っていることはたくさんあるのだ。家庭でも、学校でも、あまりにも当たり前すぎて、恩恵を忘れてしまっている税金についてぼくは感謝の気持ちもこめて意識していきたいと思う。

祖母を支えた税金

新居浜市立北中学校 2年 横井 里佳

私の祖母は七十歳を超えても元気で、正月やお盆に家を訪ねたときは、様々な手料理を振る舞ってくれたり、旅行に連れて行ったりしてくれました。同年代のお年寄りよりも足腰が健やかで肌が綺麗なことが、祖母の自慢でした。しかし七十五歳の直前に、今まで感じたことのない胸の痛みに襲われました。病名は完全房室ブロック。心臓病の一種で、心不全を伴い命に関わる病気でした。健康な生活を送っていた祖母にとって、まさに青天の霹靂でした。

完全房室ブロックの処置は症状の重さによって複数考えられますが、祖母の場合は比較的重症と診断された為、お医者さんは恒久式ペースメーカーの体内植込みが妥当と判断しました。ペースメーカーとは、電気刺激によって心臓を強制的に拍動させる機器のことです。植込みの方法は、まず鎖骨下部を切開し、皮下にペースメーカーの本体を収納するポケットを作ります。そして鎖骨下を走る太い静脈に、リードと呼ばれる電気刺激を通す導線を挿入します。そして、透視映像を見ながらリード線を心臓の適切な位置まで押し出します。個人差がありますが、電気刺激を送る為、心臓の深層にリード線を押し出す必要があります。

ペースメーカー本体は発明から様々な改良が施されてきましたが、機器の性質上、精度の向上、小型化及び省電化に力が注がれる為、非常に高額です。また、心臓に手を加える為、手術費も高額になります。祖母の場合、手術費や入院費を合計すると三百八十万円もの金額となりました。

我が国には、重症患者への支援と高額医療費の負担軽減の為の様々な法律があります。祖母の場合、主に障害者手当てにお世話になりました。まず、ペースメーカーを体内に埋める以前の段階での症状を鑑みて、身体障害者三級の交付を受けました。完全房室ブロックによる心不全症状を評価したもので、これによって医療費自己負担額が低減されます。最終的な祖母の自己負担額は四万四千四百円となりました。手術後、ペースメーカーが体内に埋め込まれたことから、身体障害者一級の交付を受けました。これによって今後一切の医療費を税金で賄ってもらえるようになりました。ペースメーカー内に僅かな細菌が入るだけで危険な為、病院に行きやすくなったことに祖母は感謝しきりでした。今では、祖母は元気を取り戻し、少しゆっくりですが料理を教えてください。

国民が高度な医療を受けることが可能になる為、社会保障は大切だと痛感し、それを支える為の納税は非常に重要だと思いました。現在、一般歳出における社会保障費の割合は、約半分ですが、少子高齢化が進む現状では、増える一方です。納税によって日本と支援を必要とする人々を支え、生かさなければいけないと思いました。

私の果たすべき役割

福岡市立姪浜中学校3年 次郎丸 絢香

私達の身の周りのものは、税金でつくられている。教科書もそのひとつである。税について調べたことや、祖母の話を書き、国に対して自分の果たすべき役割について考えてみた。

私達学生が使用している教科書は全て税金を使って無償で支給されている。一万円以上する教科書に税金を使用していることにありがたさを感じた。祖母にこの話をすると、「昔は、教科書は自分で買っていたんだよ。」と言って、祖母が学生の時に使っていた教科書を見せてくれた。祖母は勉強が大好きだったという。そのため、特に気に入っていた国語の教科書は空襲のときにも持って逃げていたそうだ。他の教科書は焼けてしまい、買い直すお金も無かったため、十分に授業が受けられなかったと悲しそうに言っていた。

このように勉強したいと思っても、買うお金が無くて満足に勉強ができない人がいた時代があったと知り、自分はとても恵まれていると思った。

また、福沢諭吉の「学問のすすめ」にこのような文章がある。「政府は法令を設けて悪人を制し、善人を保護す。これ即ち政府の商売なり。この商売をなすには莫大な費なれども、政府に米もなく金もなきゆえ、百姓、町人より年貢運上を出して政府の勝手方を賄わんと、双方一致の上相談を取極めたり。これを即ち政府と人民の約束なり。」つまり、政府は悪人を取りしまり、善人の安全と生活の保護に取り組むが、それにはお金がかかる。だから、税金として国民に負担してもらおう。これは政府が国民を守るかわりに国民が税金を負担するという約束であるということだ。

私は、政府と国民がこの約束を果たすために努力し合うことで、初めてよりよい環境をつくり出すことができると思った。しかし、税金を払わない人が存在する。これは大きな問題である。この問題を解決するためにも、政府は、税金の使用用途や金額を全て透明化する必要があるし、国民も知るための努力をしなければならぬと思う。そうすることでお互いの理解が深まり、約束を果たすことができると考えた。

これらの二つの事柄から、自分の果たすべき役割は勉強だと思った。なぜなら、勉強して、職につき、働いてお金を稼げる人は、良い納税者であると感じたからである。教科書を無償で支給するのは、将来への期待がこめられているとすると、やはりその期待に応えられるようにしなければならないと思う。少子高齢化などの問題をかかえる未来の日本を支えていくには、より今の勉強が必要になるだろう。私達は、税金のおかげで豊かな生活が送れている。だから、私達の次の代の人達も同じ生活を送ることができるように、一生懸命努力して頑張ろうと思う。

わが家は少子高齢家族

学校法人飯塚学園小倉日新館中学校 2年 平野 玉樹

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

未来を築く大切なもの

佐世保市立山澄中学校 2年 金子 瑞季

私は、長崎県の海外派遣事業「世界へこぎ出せ！長崎っ子応援事業」でヨーロッパの国際機関などを訪問する機会を与えていただきました。この事業は、外国の歴史などの教養や国際的な視野を身に付けるために初めて企画されたものです。スイスとフランス、オランダを訪問し、ユネスコや世界保健機関、国連欧州本部などを見学しました。

出発する前に父から、「県のお金で行かせてもらうんだから、楽しむだけでなく、今後の生活に活かせるように自分なりに何かを掴んできなさい。」と見送られました。「県のお金？」この事業にかかる多くの費用に税金が使われていると、その時改めて気づきました。

そこで私は、税金について少し調べてみました。すると、教育や科学技術の発展のために使われている費用は、約五兆四千億円とわかりました。また、学校にかかる費用は一枚当たり平均建設費約十三億円とありました。公立学校の児童・生徒一人当たりの公費負担教育費は九十八万円も使われているそうです。私たちが学校でみんなが平等に安心して学ぶことができるのは教育に多くの税金が使われているからです。ふだん、何も考えずに学校生活を送っていますが、このようにみんなに支えられていると思うとちょっと色々なことにチャレンジして頑張ろうという気持ちになりました。このことを後押しするように、世界保健機関で働いている日本人の職員の方々からも、話を聞く機会がありました。

世界中には貧しくて食べ物にも困り生きていくのがやっとの子どもたちが多くいるそうです。また、ナイジェリア、アフガニスタン、パキスタンなどの発展途上国では、ポリオやマラリアが流行っていて多くの幼い命が奪われています。これらのことを少しずつでも改善しようと「世界中のみんなを一斉に感染症から予防していく」という活動を行っています。この活動の資金は、世界中の国から寄付されたお金を使っていて、日本からも多くの税金を「ODA」として発展途上国に寄付し経済援助をしていると説明を受けました。日本の支援が世界の子どもたちの命を救っていると聞き、私は誇らしく思いました。また、豊かに学べる日本に生まれてよかったと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

税金は、私たちの暮らしを豊かで安全にするものです。下水の処理、水道管理、ほかにも国民の医療費負担、消防費など私たちの生活にかかせないものが税金で補われています。それは、生きていくために必要なもので、ずっと命を守り続けることにつながります。

「少子高齢化」など税金について今後の課題もありますが、私たちは明るい未来を切り開くために一人ひとりが責任を持って行動をしないとけません。日本を豊かにし、世界中の子どもたちが幸せになるように大切な税金を使いたいのです。

近年、少子高齢化という言葉をよくきくようになった。そればかりか、二十一世紀半ばには、国民の二・五人に一人が高齢者という超高齢化社会が到来するという予測までも立っている。年々増えゆく高齢者に、減り続ける子ども達。そうなってくると心配されるのが、年金や医療費、それらを賄う税金のことである。「まだまだ先のこと。」そんなことを言っている人もいるが、もう目の前まで来ていると私は思う。

私が前のように思うのには、わけがある。それは、私の住んでいる町の現状にある。私の住んでいる町は、年々人口が減り続けている。それは、グラフを見なくても分かる。私の家の周りは、高齢者がほとんどで、高齢化が進んでいる。それと同様に、少子化も確実に進んでいる。近くの小学校は、入学者が十人を切るような状態になり、小学校の統合が進められている。小学校が減れば当然、中学校への入学者も減る。現に、私達の学年は、一組しかない。これから入学する学年も、二組にはならないだろうとのことだった。又、私の家の近くにはもう、一人も幼稚園児、保育園児がいない。私が以前通っていた保育園も、最近廃園したようだった。これからは、職を求めて人口が流出し、さらに過疎化が進んでいくのだろう。

しかし、そんな状況だからといって、町は回っていないのかというと、そうではない。年金や医療費は国から出されるし、この町の税金が、人口の減少により少なくとも地方交付税のおかげで、一定に保つことができる。だから、小学校から高校生までの医療費を税金で賄うことによって、無償にするなど、住みやすい町づくりも進められている。だが、考えてほしい。もし、こういったことが日本という規模で起これば、どうなるだろう。税金を納める人が減るのだから、国の税金も減り、国からの税金で賄うというのは、無理になる。かといって年金や医療費を減らせば、高齢者が、安心できる社会をつくることができなくなる。だからこそ、真剣に考えなければならないと思う。

高齢者の人口に対する二十から六十四歳の人口は、年々減り続けている。少子高齢化は最早、避けては通れない問題だろう。年金や医療費を必要とする人が増えていく一方で、それらの財源である税金を納める人が減っている。税金は、暮らしの肥料だ。より良い明日を咲かせるためには、必要不可欠である。だからこそ、国民一人一人が納税の義務をしっかりと果たさなければいけないと思う。これからの社会を支えていくのは、他の誰でもなく、私達世代だ。明るい未来を迎えるためにも、ちゃんとした職につけるように努力し、納税の義務を果たしたいと思う。そして、それらをより有効に使い、社会に役立ててほしい。

情けをかけて、未来を見据え

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 3年 前田 桜子

「しゃ、しゅ、しよ、はい。」

「くしゃ、ちゅ、ちしよ。」

小さな口を小さな顔に目一杯広げて叫ぶ声。「はい」と笑顔で言う看護師にぺたんとベッドに座って顎を突き出している小さな背中。にやっと笑みを返す彼女の口唇はどこか引きつっている。

障害者や障害になる病気の子供に国から与えられる援助金。これを“自立支援”といい、国民から集めた税金で成り立っている。

冒頭での出来事はほんの四年前の私のベッドでのことだ。彼女の病気は口唇口蓋裂。発音障害になりうる病気の一つで、鼻孔から口唇と通り、口蓋から喉にかけて状態で生まれてくる病気だ。と随分客観的に書いたが、彼女の隣のベッドにいた私ももちろん同じ病気であるのだ。私の場合、穴が喉に届かなかったため、障害には至らなかったが、私も自立支援をいただけている。

先日、テレビで井上真央さんの主演のドラマ「トッカン」の放送を目にした。主人公が国税調査官として納税拒否者に納税させる仕事をする中で成長してゆくという話だったが、納税拒否者にもその理由があり、その話では拒否者の妻が事故にあったけれど税で動くべき救急車が遅れ、亡くなってしまったからなのであった。妻と二人で仕事し、多額の納税をした結果がこれかといたまれない気持ちは分かるが、税が使われるのはそれだけではないのだ。彼が出したゴミも税で集められ、町も美しく保たれていたのだ。他にも、私の父のような公務員の給料や、自立支援などにも使われる。ゴミ処理や公務員は身近だが、障害者は自分達とは疎遠なものだと思う人が多い筈だ。けれど私のこの病気は遺伝ではなくただの偶然なのだ。だから、偶然に、あなたの愛しい子供かもしれないのだ。また偶然に自分の大切な人の為の救急車が遅れるかもしれない。人は時の造る偶然に逆らえない。先日の東日本大震災が大きな例だ。けれどもそのように税で私の偶然を癒してもらった私は、誰かの偶然を癒せたり防げたらと納税するのだ。そう、納税とはいわば保険だと思うのだ。そして“情けは人の為ならず”というものだと思うのだ。よくこの言葉を偶然に意味をとらえ違えられるが、これが偶然を防ぎ、癒す手段なのだ。偶然を防げない可能性もあるがあなたの納税はあなたを救うものを生み出す気持ちのレバーを引くきっかけになるのだ。

そう、未来を見るのだ。今この納税が何を生むのか想像するのだ。余談だが、私はこの夏、この病気関係での最後の手術を迎える。あの少女は元気だろうか。また、決して楽でなかったこの道は多くの人に支えられてきた。その実感をもって偶然を癒す恩返しをする日まで頑張りたい。

さあ、保険を、情けをかけよう。—小さな背中と無限の未来へ。

家族をつなぐ一括交付金

那覇市立石嶺中学校 3年 比嘉 祐一

僕が中学二年の三月に父が仕事の転勤で石垣島に単身赴任しました。これまでに何度も家族で引っ越しや転校を繰り返してきました。しかし、僕が中学三年に進級し、受験生にとって学校や生活環境の変化は良くないと考え、家族全員で引っ越しせず、単身赴任しました。

まず、石垣島は沖縄県ですが、海を隔てた大変遠い島です。だから、父とはなかなか会えないと思い、寂しい気持ちでいっぱいでした。飛行機に乗ると、わずか55分ですが、那覇・石垣間の航空運賃はとても高いのです。大人の往復運賃が四万千円もします。春休みに入っていたので、父の新生活の手伝いに行きたかったのですが、僕たちの航空運賃は全額負担となり、約十一万円もします。その全額は家計を圧迫するので母一人で手伝いに行きました。

そして四月になり、朝新聞に目を返していると、沖縄タイムス四月十日の新聞にうれしい記事が載っていました。それは、沖縄県が離島の定住条件の整備などを目的に、離島住民や離島出身の高校生を対象に、沖縄振興交付金（一括交付金）を活用して本年度からスタートした「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」です。実施前の運賃に比べ、約40%も低減される事業でした。

早速父に電話すると、石垣島でも大きな話題となり、職場の全員で「離島運賃額引カード」を申し込んだとうれしそうに言いました。

県が一括交付金で高額な離島航空運賃を負担してくれたおかげで、大人往復運賃約二万円と安くなり、父が帰省しやすくなりました。

僕は、これまで税金の使い道は道路や公園などに使う土木費、予防接種などの衛生費など公共なものだけだと思っていました。しかし、父の転勤によって「一括交付金」から、税金の使い道を初めて身近に感じました。

そして、この制度と税金のおかげで父が五月の連休に帰省しました。久しぶりに会う父の元気な姿や、うれしそうな母や妹の笑顔に一家団らんの幸せと税金の大切さを改めて感じました。

県交通政策課は、「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」を来年度以降も継続するように取り組むそうです。たくさんの方が税金を納める事によって、この事業がこれからも継続していくのだと分かりました。僕は税金を納めている人々に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

一括交付金は、僕たち家族やたくさんの人々をつなぐやさしさの掛け橋です。

税と未来と私の教科書

北海道教育大学附属旭川中学校 2年 辻 美月

私は今まで税について深く考えたことがなかったし、そこまで興味がありませんでした。しかし最近、少し興味がわいてきました。なにしろ増税で百円ショップが百五円だったのに百十円になるというからです。そんな身近なことを言われると、さすがに気になります。「増税かあ…税金ねえ…」私の頭の中を一日中税という言葉が行ったり来たりしていました。

次の日、社会科の時間にふと地図帳をみると、こんなことが書いてありました。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と。少しおどろいて他の教科の教科書や資料集の裏を確認しました。するとほとんどの教科書や資料集が国民の税金によるものだということがわかりました。私はなんだかとてもはずかしくなりました。これだけ税金によるものに囲まれておきながら、「興味がない」なんて言っていたからです。さらに調べてみると学校そのものや机、いす、その他の備品ほとんど全てのもものも税金によって支給されていることを知りました。生徒一人につきいったいいくらくらいの税金が支給されているのだろうと思うと教科書も大事にしないわけにはいきません。しかしそれらのことを調べているうちに「国民の税金から支給されたものだからという理由で物を大事にしない人が多い」という事実も知ってしまいました。

私はそれはおかしいと思います。普通は逆ではないでしょうか。言ってしまうえば、私たちが教科書は必ずしも税金によって支給されたものでなくても良いのです。でも今、このような仕組みになっている以上、私たちは国に感謝し、与えられたものを大切にしなければいけないと思います。ただ教科書を裏返してみただけという、体験とはいえない体験をして、少なくとも私はそう思うようになりました。だから私はこの教科書をくれた全ての人にありがとうと言いたいです。もしかしたらその人たちはあまり深く考えずに税金を納めているかもしれないけど、私はとってもうれしいです。だってその人たちはきっと私の未来に期待してくれている。それがただの思い込みだとしても、私は今すごくあたたかいものを感じています。このあたたかさが多くの人に「税は必要だ」と思わせるものの一つなのかもしれません。私が大人になったらちゃんと税金をはらって「誰か」に今の私のような体験をしたほしいです。そしてその「誰か」の未来に期待してあげたいです。

私に教科書を与え、私の未来に税という形で期待してくれている誰か様。きっと、きっとその期待に応えてみせますよ。

税金の絆

郡山市立郡山第七中学校 3年 小西 美雨

東日本大震災は東北に住む人々から多くのものを奪っていった。私の住む郡山市も、津波の被害こそないが、大地震により、多くの建築物に被害が出た。震災が起こった当初、街の中は崩れた家屋や倒壊しかかったビルに溢れていた。『危険立ち入り禁止』と印刷されたテープで囲まれた場所も多く、今まで見慣れた平和な光景は一変していた。自分の住むこの街はどうなってしまうのか。あちこちの瓦礫と化した建物を見ながら思ったものだ。

あれから一年半が経とうとしている。今、私の住む街は少しずつ復旧してきている。住宅には瓦が新たに葺き替えられ、崩れたビルは撤去されて更地になった。テープで囲まれた場所も見かけることはなくなった。こうした瓦礫の撤去に税金が役立っていたことを私は最近知った。

税金の歳出予算には多岐に渡る種類がある。学校や文化振興のために使う教育費。福祉の充実のために使われる民生費などだ。その中に災害復興費という予算があることを、私は初めて知った。この災害復興費は、仮設住宅の建設や除染、瓦礫の処理など、震災からの復興のために役立てる税金なのだそう。瓦礫の撤去を全て個人が負担すれば、多額の費用がかかる。資金面で困難という理由から、これほどまでに早く瓦礫処理は進まなかったかもしれない。災害復興費を使用し、街は復旧してきたのである。

先日、「福島県へのふるさと納税が一昨年の二十四倍以上に。」という記事が新聞に掲載されていた。『ふるさと納税』とは、納税者が生まれ故郷や愛着のある地を応援する寄附金のことである。寄附することで、現在住んでいる市町村の住民税が軽減されるというシステムだ。この記事は、福島県へのふるさと納税額が、震災前より、二十四倍も増えたということだ。福島県を応援しようと考えた人が激増したことになる。『ふるさと納税』にはふるさとを思う気持ちや、出身地ではなくても、応援したいという優しさが込められている。震災・原子力発電所の事故によって、私たちは多くのものを失い、悲しみを味わった。私は、この記事を読み、心が温かくなった。日本中に、福島を応援してくれる人がいる。心強い応援に勇気づけられた。

東日本大震災以降、『絆』という言葉がクローズアップされている。被災地は『絆』に励まされ、元気をもらってきた。私は今まで税金と『絆』は対極の場所にあるものだと感じていた。なぜなら税金は人の気持ちの通わない「きまり」だと思っていたからだ。しかし、そうではない。人の優しい気持ち、応援したいという願いが税金という形になって、被災者を勇気づけているのだ。一度失ったものを元に戻すには時間や労力がかかる。しかし、税金という支えがある限り、私達には明るい未来がある。私はそう信じている。

税の大切さ

小川町立東中学校 3年 松本 有貴

税金を納めるということは私達が生活していくうえで、とても重要な役割を果たしています。税金について、私が一番驚いた事は、税金の種類が五十ほどあるという事です。私にとって一番身近な税は消費税ですが、それらが学校などの建設費や教育費になっていたり、ゴミの処理費用などになっている事はすごいと改めて関心しました。私は今まで、買い物をする時に支払うお金は、品物の代金であるとしか考えずに買い物をしていました。なので知らない間に、自分も税金を納めていると思うと、とても不思議な感じがします。

私の生活は様々な税金によって支えられています。身近な例として学校です。もし、税金を納める人がいなければ、私が学校に通う事はできません。また、教科書の裏に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金により無償で支給されています」と書かれていました。これを見て、納税者の方々に感謝の気持ちと、勉強を一生懸命やらなくてはという気持ちで胸が一杯になりました。教科書を乱暴にあつかったりすることは、とても失礼な行為なんだと痛感しました。私が勉強するか、しないかは私の自由ではなくて、精一杯勉強して欲しいという納税者の方々の思いも背負っているという事を常に頭の中に入れておこうと思いました。

この夏、ロンドンオリンピックが開催されました。選手達の全力な姿に感動しました。その選手達を強化する為に合宿の費用などのサポートに税金が使われていると聞きました。このように、日本全体が幸せな気持ちになるような事に税金が使われる事は、とても良い事だと思いました。私はオリンピックが大好きです。テレビで選手の活躍を見て興奮できるのは、選手の力や応援の力だけではなく、税金の力もあって成り立っているんだと思いました。

このように、税金は様々なところで私を支えてくれています。私も将来、納税者になりますが、私達の生活に役立っていくんだと思いながら納めようと思いました。納税は義務として行う事ですが、いやいや納めるのではなく、この税金が、国や地域の人々の生活をより良くするのだと考えて納めれば、税への見方が変わり、自然と、良い社会をつくっていける第一歩になっていくのではないかと思います。人は一人では生きて行けないということは、両親や友達などの支えがない事の他に、納税者の方々にも支えられないと生きて行けないという事です。多くの人に支えられて生きているという自覚と誇りを持ち、生活したいです。日本の未来が明るくなるために私達が納める税金が正しく使われる事を強く祈ります。

私たちの「宝」

甲府市立南中学校 3年 田中 彩音

「消費税引き上げ。十パーセントに……」最近ニュースでよく目にする。私はこれまで税について深く考えたことがなかった。小学生の時、市役所の人が税についての説明をしてくれたこともあった。私は税の使われ方が分かった。しかし、小学生の私には税の本当の大切さが理解できていなかったのだと思う。

そんな私が税の大切さについて考えさせられる出来事が起こった。それはあまりにも突然のことだった。「プルルプルルル」今年の一、月の、私の家に一本の電話がかかってきた。一人暮らしをしている祖父と連絡が取れないのだという。母は慌てて祖父の家に向かった。祖父は脳梗塞を発症して倒れていたようだ。救急車が来て祖父は受け入れてもらえる病院へ運ばれた。しかし、その日は県の病院にも市の病院にも脳外科の先生はいなかったらしい。私は母からその事を聞いて医師が不足しているということをつくづく感じた。

日本はこれから更に高齢化が進み、祖父のように医師を必要とする人達が増えまくるだろう。このような人達のためにも医療制度にもっと税金を使えるようにしてほしいと思う。必要な時に、必要な医師がいて、必要な治療を受けられる。私はそのような社会になってほしいと思う。

七か月が過ぎた今、祖父は少しずつ回復してきた。しかし、自分ではできなくなってしまうことも多い。母は祖父のために老人ホームを探している。施設は不足していて入れるまでに何年もかかるというのが現状だ。

「これからどうすればいいのだろう。」

母は今日もまた悩んでいる。

これから高齢者が増える中で、高齢者のための施設、保障が今よりも必要となってくるだろう。祖父のように施設に入れられない人を出さないように、福祉や介護のためにもっと税金が使われるべきだと思う。そうすれば、私の母のように苦しむ人が少しでも減るかもしれない。そうなることを願っている。

「消費税が引き上げられるらしいよ。」

「えー。高くなるの？嫌だな。」

「そうだよね。絶対反対。」

私はこのような会話を耳にしたことがある。この人達は、税金の本当の大切さを分かっていないのだろう。私もこの間まで全然分かっていなかったし、今でも完全に分かっているわけではないだろう。しかし、誰もが税金に助けられてありがたいと感じる時や、もっと税金に助けてほしいと感じる時が来ると思う。その時のためにも、今からみんなで税について見つめ直し、本当に必要な使い方について考えていくべきだと思う。

自分たちがよりよい生活を送るために。多くの人の笑顔を守るために。税は私たちを助けてくれる大切な「宝」なのだと思う。

未来のために

学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校附属中学校 3年 五井 佑加子

「消費税の増税って、必要だと思う？」私は父に尋ねてみた。今、大きな話題となっている消費税増税。年金などの社会保障や、東日本大震災からの復興のために使われるようだ。しかし、私たち子供からみれば、そう簡単に実感できることではない。私たちが増税の影響を実感できることといえば、ものを買うときの負担が増えるというようなことぐらいである。単純に考えれば、増税には反対ということになってしまう。そこで、家族の中で一番増税の影響を身近に感じているであろう父に、増税について、尋ねてみたのだ。

少し考えたあと、父は「やっぱり、必要だと思う。」と言って、こう続けた。

「増税でもしないと、国の借金はなくならないだろうし。」

なるほどと思いつつ、そこまで実感することも私にはないんだけど、と言うと、たしかにそうかもな、と父は笑って、話を聞いていた母がこう言った。

「税金は国民のために使われるものだから、税金が無かったら道路も無い。今、日本は震災で大変な状況にあるから、増税をすることが国民皆で日本を支えるためには必要になってくるんじゃない。」

確かにそうだと思う。震災が起こって、被害の大きかった地域もそうだが、日本全体が大きなダメージを受けた。そして、たくさんの方が今の自分にできることを考えた。募金をしたり、支援物資となるものを送ったり、ボランティアに駆けつけたり、人々の心のあたたかさによる支援は行われてきた。それでも、被災地には、多くのがれきりが残り、道や建物が崩れている。被災地を思う一人ひとりの小さな力でその状況を変えることは難しい。そうなると、日本全体でその状況を変えていくためにはやはり税金が必要となる。しかも、今よりもたくさん。震災に関してはたくさんの方が特別な思いを抱いているから、復興のための増税となると、賛同してくれる人を集めるのはそう難しいことではないような気がした。

一方、社会保障についてはやはり理解できなかった。けれど、考えるうちに、日本を担う私たちのためだと気付いた。私たちの負担を減らそうと、今の日本を背負う大人たちが必死に考えてくれている。今は実感できなくても、日本を背負う大人になったときに、良い方向へ進むように考えればいいのかも说不定。

両親と消費税増税について考えてみて、これは未来の、私たちのためのものなのだと気付いた。大変な状況にある日本を、明るい未来へ導くためには、状況を改善していくしかないのである。

消費税増税に対して前向きな考えを持てた今、税金が国民のために正しく使われると信じて、私は増税に賛成したいと思う。

税への感謝そして私たちにできること

東海市立名和中学校 1年 酒井 愛実

私は今まで、税は難しい、税に関する問題は大人の問題、と思い込み、税についてあまり耳を傾けてきませんでした。しかし、今回の「税に関する作文」により、初めて税金について関心を持つことができたのです。そして、この夏休みはいつも税金について考えながら生活するようになりました。その結果、税金は思った以上に私の日々の生活に関わっていることを知り、とても驚きました。

以前、イタリアのごみ問題のニュースで、道路に放置されたまま悪臭を放つ大量のごみの映像が映し出されていました。日本はいいね、とのんきに言ったのを思い出したのは、いつも何気なく出しているごみの収集が税金で成り立っているということを知ったときでした。また、私たちが今まさに受けている義務教育の費用、教科書代から机やいすにいたるまで、税金が使われているということも初めて知りました。私にとって当たり前前の日常が税金によって成り立っていたのです。ごみの収集や教育以外にも警察、消防、街のいたるところで、税金は私たちの生活の基盤となり、かかせないものになっていました。先日無料で接種した子宮頸がんワクチンも税金です。以前は、高額なため、接種しない人もいたと聞いたことがあります。税金はだれもが、よりよい生活を送るために常に平等に使われているのだな、と税金に感謝し、日本の素晴らしい税の仕組みに感心しました。

そんな中、政治にあまり興味のなかった私ですが、消費税を上げるか、上げないかという問題で自分なりに真剣に考えなくてはいけないと思いました。この税金の仕組みが壊れてしまうと、私たちの生活はもとより、日本全体が揺らぐからです。ある人が、少子・高齢社会により、このままの税金の仕組みでは日本が破たんするとテレビで言っていました。また、ある人は、税金を使う側の行政が間違った使い方をしたり、説明が不十分だと増税に反対していました。私は、ニュースや新聞を読み、両方とも正しいと思いました。今の時代に合った税の仕組みに替えたほうがいいのは確かだし、また税金を使う側はきちんと説明ができるように使わないといけません。

では、少子・高齢化が進み、医療費や介護費用がどんどん増えている今、行政の対策だけに頼らず、私たち自身でできることはないのでしょうか。例えば、自分の健康管理をきちんとし、病気をしないことも無駄な医療費を減らすことになります。また、自分の祖父母を大切に、家族みんなで助け合い、なるべく長く家族で暮らせるように心がけることも一つの方法だと思います。

私たちの生活の基盤となり柱となっているこの大切な税の仕組みを壊さないためには、一人でも多くの人が、税に関心を持ち、考え、行動することだと思います。その一つ一つの行動が集まれば大きな力になり、そしてそれが、将来も税に支えられ、安心して暮らせる未来の日本の力になるのでは、と考えました。

今の日本に必要なこと

尼崎市立日新中学校 3年 大内 美乃

公民の授業で税について学んできた。国民には納税の義務があり、税によって日本の国が成り立っていると理解している。ただ、授業で聞く税の印象と、税金の無駄使いを追及する国会中継や報道番組などを見て受ける税の印象が、私にとってはかなり違う。政治家の汚職・公費不正使用の報道も悪い印象を与えている。でも、税＝悪ではない。だから、税の必要性というものを私の目線でもう一度とらえなおそうと考えた。

私達は様々な公共サービスに囲まれて生活している。警察や消防署や役所などすぐに思い当たる公共サービス以外にも、道路や公園の整備やダム建設、国を守り救助活動をする自衛隊、医療費補助や年金や生活保護、そして私達が学校で学ぶための校舎や教科書など様々な場面で細部にわたって提供されている公共サービスがある。どれ一つなくなっても明日の生活に支障をきたすのではないだろうか。一部の富裕層の人達は場合によっては自力で公共サービス以上のことを実現できるかもしれないが、大抵の人達は公共サービスなしでは生活できない。

こういった公共サービスは、どんな不況時でも国民全員が人間らしい生活を送るために確保されないといけない。だから、自由競争の末、倒産するかもしれない民間会社に全面依頼する訳にはいかない。また、国民全員に平等にサービスが提供されないといけないから、民間会社では背負い切れず、国家プロジェクトとしてしか実現できない。そして、公共サービスを国家プロジェクトとして見るならば、国民全員による支えが不可欠となる。この支えが税なのだと思う。

勿論、日本では奈良時代の租庸調から続く税の歴史の中で、その必要性は裏付けされていて、長い年月を経て税のシステムは改良されてきたと思う。けれど、その一方で国民の生活が多様化し、本当の意味で平等に税を徴収することが難しくなっている気がする。「衣食足りて礼節を知る」ということわざがあるが、不況で今日の生活が精一杯の人が多いような世の中では、税システムが機能しないのではないかと思う。そんな中、税関連の悪い報道がなされると税への信頼が薄らいでしまうのではないだろうか。

まずは、大切な税をどれだけ正しく上手に使うかが課題だと思う。予算を正しく立て、使い道を精査し、反省をフィードバックできているかを国や地方自治体に任せてしまうのではなく、国民が関心の目を向けることが必要だ。そして、嫌々納めたり脱税したりするのではなく、誇りをもって納税し国や地方自治体に税の分配を委託するべきだと思う。国や地方自治体にも納税者一人一人に対する重大な責任感を持って税を使ってもらいたい。

そして正しく納税するためにも、国民全員が明日に希望を持てるような世の中にすることが今の日本にとって急務ではないだろうか。

税の必要性和無駄遣い

笹岡市立新吉中学校 3年 原田 拓郎

今「消費税をどうするか」が議論されている。必要な場合にはやむを得ないという意見と、税をあげる前に見直すことがあるという意見がある。削れるところは可能な限り削り、お金を必要なところに使うというとてもいい意見だと思う。見直すというのは、いわゆる無駄遣いがあるということなのだろうか。

山間部を車で走っていたとき、急にとっても道路がきれいになった。ほとんど対向車も来ない道をずっと通っていた。横には昔の道なのか、そんなに不便そうでもない道路が通っていた。税金の無駄遣いかなあとも思え、何のためにつくった道路なのか、疑問に思った。

しかし、今年のゲリラ豪雨や洪水のニュースを見ると、道路が寸断され、孤立してしまった地域を見るととても心配になる。その道路がなかったら通うことができない場所にきれいで便利な道路を作ったとしたらどうだろう。ふと通った道ならば、こんなところにこんな大きな道路を作ってもったいないと思うだろう。その道路がなかったら生活できない、いざというとき孤立してしまうような道路だったら、いくら使用する割合が少なくても、決して無駄遣いとはいえないだろう。その地区の人たちにとってはとても重要なことである。単に車が多いかどうかだけではないと思った。

また、新聞で、過疎の地域にバス路線を確保するために税金を投入するという記事を見た。とうぜん民間会社では採算が合わないからだ。今自分は動くとしたら自動車や自転車で動けるので、なぜバスをわざわざ走らせるのかと思った。これも違う立場で考えると、自動車や自転車が使えない高齢者や病気の人などにとっては、ここの路線がなくてはすべてタクシーとなり、必要なときに動けなくなる。このように考えると生きていく上で必要となるものだ。

今、自分が望む税金の使い道といえば、学校の施設をきれいにしてほしいとか、夜暗いので街灯を整備してほしいとか、スポーツの施設がいつも満員だからつくってほしいといったものである。自分にとっては必要だと思う。しかし、他の立場から見るとどうなのだろう。我慢すればいいことだとか、使う人が少ないと考えられるのだろうか。

このように考えると税金の使い道で無駄遣いを考えるというのは、とても難しい問題だと思う。見直しも今まで多くの場所でこれでもかというくらいやってきたことかもしれない。誰もが不要ないというものは、はっきりさせてやめばいいと思う。限られたお金を使うのだから、見直しは必要だと思うが、大きな声に従うとか、少数だからやめるというのではおかしいことも起きてくる。みんなが出している限られた税金だからこそ、本当に必要なところのお金を落とさないように考えて使ってほしい。

税との関わり

松山市立南中学校 1年 大堀 聖李亜

「車にも様々な税金がかかっているんだよ。」そう教えてくれたのは私の両親です。

私の両親は自動車販売業を営んでいます。車を仕入れるにも、販売するにも、その中に色んな税金がかかっているそうです。消費税はもちろんのこと、車の排気量によってかかる自動車税や車の重量に応じてかかる重量税、取得金額によっては取得税等があるそうです。今の時代にはエコカー減税というものもあります。これはハイブリッド車やエコカー基準を満たす車に先程挙げた数々の税金が優遇される措置です。ガソリンにかかるガソリン税というものもあります。課税には国税、都道府県税、市町村税と様々です。

政府が決めたルールに基づき、その金額が変動したりすることもあり、それに対応するのも実は大変なんだと両親が言っていました。事業するに当たっても消費税、事業税…とにかく国民は税に囲まれて生きているのです。支え、支えられて人は生きているのだと知りました。

消費税引き上げ等、日本にはたくさんの課題があります。

小さなものだと気付きにくいですが、家や車などといった大きなものになると、その税額はずっしりとのしかかったことに気付きます。税金の使い方も今後の課題です。国民が納めたそのような税金を無駄に使うわけにはいかないのです。私が税金を納める年齢になった時、国はどのようになっているのかという不安もあります。不安を抱えるということがどういうことを意味しているのか、これは今回税金について正しく知ろうと思った中で、納税者である大人や新聞、インターネットでの情報に何かしら疑問が浮かんできたからです。「使い道」これが正しくなければ「義務」として成り立たないのです。

この作文を書く事がきっかけで両親と話し合った「税金」のこと。両親の身近にある車に関わる税金は、道路整備等に使われるということも知りました。まだまだ知らないこともたくさんあります。それを知ろうとすることも私たちにとっては納税者になる一歩手前の準備だと思いました。私たちのよりよい暮らしのために国民一人一人が「義務」として納めている数々の税金が今後も無駄なく役立てられることを願わずにいられます。きっかけを与えてもらい、「国民の三大義務」の一つ、「納税」をすることによってその税金が人を支え、そして、人に支えられているという関係を知った今、税金というものに感謝しながら生きていかなければならないと思いました。同時に国民の一員として、税に関心を持ち続けることも大切だと思いました。

離島の振興と税

新上五島町立若松中学校 3年 荒木 麻菜

高校受験を目前に控え、進路について、真剣に考える時期となった。

私は、日本列島の最西端に位置する、五島列島に生まれ、美しい自然の中で育ってきた。

現在、島内の高校は二校だけで、選択肢が限られている。私は、市内の高校への進学を希望しているため、先日、オープンスクールに行った。

五島は離島であるため、船をつかって海を渡らなければならない。島の人々は、本土の人と比べて、移動するのに多くの時間とお金がかかるのだ。五島はそういった島ならではの問題も抱えている。

しかし、最近、船の運賃が以前より安くなった。それはなぜか、と父に聞いてみると、「地域活力基盤創造交付金」というものができて、運賃の引き下げ等が可能になった、ということを知ってくれた。そこで私は、そういった離島振興について調べてみることにした。

まず、昨年新しい船、フェリー万葉ができた。そのための新船造船費は、国からの補助である。九州商船は、国から建造費を出してもらうので、その見返りとして、運賃を引き下げることができた。税はこういった場面でも使われていて、私が考えていた以上に重要であることを知った。離島振興をはかるには税が必要不可欠で、それがなければ、私たちの生活は苦しくなっていくだろう。そして、島の人口流出という大きな問題も、より一層深刻になってくると思う。

また、ガソリン税についても調べた。以前五島は“日本一ガソリンが高い”という問題を抱えていた。しかし、昨年のはじめに、リッター十円の減税が実施され、今現在は、十五円となっている。これは、離島ガソリン税減免法案がとおったことによるものだ。離島は、本土に比べ、交通網が発達していないため、ほとんどが自動車での移動になる。そういった生活の中で、船の運賃の引き下げや、ガソリンの減税は、とても助かるのだと両親が話していた。

島の状況は少しずつではあるが、改善されつつあることが分かった。離島のための法をつくってもらうことで、本土との格差がなくなっていけばいいと思う。

国民がきちんと税を納め、政府は国民に応じて、五島列島、そして日本列島全体が活気づいてほしい。

幼少期からの税に関する教育

霧島市立霧島中学校 3年 松元 敦哉

毎週日曜日の朝六時十五分から放送されている「薩摩剣士・隼人」は、鹿児島の子どもたちに人気の番組だ。八月十九日の放送は、子ども向け番組にも関わらず、とても興味深いものだった。

幻魔神狐ヤッセンボーが吉野狐コンコンに一万円を持たせて、買い物に行かせた。しかし、消費税分の金額が足らず、欲しい物が買えなかった。そのことに腹を立てたヤッセンボーが、世の中のありとあらゆる税金をなくしてしまう。すると警察による犯罪の取り締まりが行われず、治安が乱れ、子どもたちが遊ぶ公園は草が繁り、遊べなくなってしまう。そこで薩摩剣士隼人がヤッセンボーを倒し、税金を元に戻すという内容だった。

この話は治安維持や住みやすい環境作り、そこから派生して社会福祉や社会保障という私たちの生活になくってはならないものが、税金によってまかなわれているということ、わかりやすく教えてくれている。そしてこれが子ども向け番組の内容だということが、とても画期的なものだと思う。

なぜなら、幼少期から税を身近に感じ、親しみを持つことが、大切だと考えるからだ。中学生の僕にとっても消費税以外の税を、身近に感じることは少ない。しかし、子どもたちに人気のあるキャラクターを通すと、身近なものに感じられ、税金の仕組みをわかりやすく知ることができる。そして何よりも、人気キャラクターを通すことによって、税に対してマイナスのイメージを抱くことがない。「税金がなければ今の生活は維持できない。だから、税金は大切なんだ。」という意識が、自然と身につくのではないだろうか。その意識を持続させるためにも、小中高でその年齢に応じた税に関する教育を、継続して行っていく必要がある。その意識を持ったまま成長して大人になると、自分たちの今の生活を維持するためには、必ず税金を納めなければならないと思うだろう。

現在、税を取り巻く環境は年々悪くなる一方だ。消費税率アップや不況による納税額の減少、税金の滞納者の増加、挙げれば次々に問題が出てくる。これらの問題解決のためにも、まずは、幼少期からの税に関する教育に力を入れてみてはどうだろうか。それと平行して、国は国民が「納税しよう。」と思えるような税金の使い方や国民への説明・どの国民も公正となるような制度作りを考えていく必要があるのではないだろうか。

もし私が大人になり、納税者となったら、しっかりと税金は納めたいと考えている。なぜなら、納税は一番身近な社会貢献の第一歩だからだ。またそれが自分のためでもあり、自分の大切な人の生活を守るためでもあるからだ。

国民の三大義務の一つである「納税の義務。」これをしっかりと果たしていきたい。

国を支える一人に…

宮古島市立平良中学校 1年 新城 里依

中学生になって、教科書がずい分増えた。「これ、全部、勉強しなければいけないんだよな。大変だなあ。」私はそうつぶやき、教科書をぼんやり観察していた。何気に国語の教科書の裏表紙の小さな文字を読んだ。そこには、『この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。』と記されてあった。教育費は、税金によって賄われていると、頭では理解していたが、今まで「ただで教科書をもたらってきた。」という感覚で使っていた自分に気が付く。「教科書は、一体いくらするんだらう。今までどれくらい使ってきたのかな。」そんな思いから、改めて「税」について考えてみようという気になった。

税金は、主に国民医療費、年金、公共事業、教育費、警察・消防、ゴミ処理費用、経済協力費などがある。特に私達中学生がお世話になっている教育費などを挙げると、税金で支払われない場合、年間、約九十四万円ほどかかるという。高校を卒業するまでに、一体いくらかかるのか考えると、本当にありがたい制度だ。

去年、曾祖母が国の特定疾患に含まれる難病にかかった。原因不明で完治しない病気だった。みんなは「曾祖母に少しでも長生きしてほしい。生きることを楽しんでほしい。」という思いで、曾祖母に胃ろうというものを取り付け、そこから、特定の食事や薬を体の中に入れてあげる治療や、日々の介護などを専門の方々をお願いした。もちろん、高額な医療費や介護費用も必要であった。しかし、「特定疾患医療費助成」という国の制度で、その主な費用が助成されていることを母に聞いた。そして、母はこう続けた。

「もし誰かが病気にかかったら、病気のことだけでなく、治療費のことも考えなくてはいけない。それが高額であればあるほど、その負担は重くのしかかる。でも、国の制度でその負担が軽減されると、治療費の心配も無く、病気の治療のことだけを考えることが出来るよね。改めて考えると税金の仕組みってありがたいね。」

誰かが困って大変なときは、国民のみんなで支えてあげる。また他の誰かが困っているときは、支えてもらった方から、手を差し伸べる。税金は、そんな人と人の助け合いの絆なんだなと思いました。

もう一度、教科書に目を向ける。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

この言葉がとてもありがたく感じる。今、私は国民の皆さんに支えられて、安心して勉学に励むことができる。そのことに感謝し、私も、将来の日本の子ども達が、安心して学べる国になるように、また、国を支える一人になれるように、頑張っていこうと思う。

僕は、税金は必要ないと思ったことは一度もありません。なぜなら税金が無ければ、僕はこんなに自由に、健やかに暮らせていないからです。今、自分が学校に通って勉強しているのも、警察や消防が守ってくれているのも、生きていく上でのさまざまなことが税金があって成り立っています。だから税金は必要です。

先日、国会で平成二十六年四月からの増税が決定しました。これは、さらに国民の負担が大きくなることを意味します。なぜ、増税をする必要があるのでしょうか。これにはさまざまな理由がありますが、僕たちが公民で習った「少子高齢化」が一つの大きな問題です。今の日本はとても福祉の充実している国です。その福祉も税金から成り立っています。充実した福祉環境から、日本は世界有数の長寿国です。そのため、お年寄りの方の数も多いです。しかし、今でも福祉施設はたくさんあるのに、急速な高齢化により、さらに福祉にかけるお金が必要になってきています。だから増税が必要になるのです。

増税という問題はいつか必ずぶつかる問題なので、僕は仕方無いと思っています。これを先送りしていけば、年金を削らなければならなくなる可能性もあります。事態が深刻化しないために、今、増税の決断が必要だったのです。打ち手の小槌のようにお金が舞い降りてくるわけがないので、国民一人一人がつらい思いをしなければなりません。

まだ、少子高齢化には問題点があります。先ほどは「高齢化」の問題について考えましたが、今度は「少子化」に目を向けてみましょう。少子化とは「全人口に占める子どもの割合が減ること」です。これは、子どもが少ない、ということの意味ですが、さらにいえば、将来税金を納める大人が減ることです。つまり、将来はさらに国民一人あたりの負担が大きくなってしまいます。日本は先進国の中でもおそろしい程の速さで少子高齢化が進んでいる国です。僕が大人になるころはもっともっと進んで、負担もそれに応じて大きくなるでしょう。

僕が今、政府に望んでいることは、増税した税金で、福祉施設はもちろんですが、保育所などの幼児のための施設も充実させることです。そうすれば、安心して子どもを産み、育てることができるので、少しでも子どもの割合が増えると思います。そして、将来の国民一人あたりの負担も軽減されると思います。

僕たち子どもは、働いて納税することはできません。こうして健やかに暮らせているのは一生懸命働いている皆さんのおかげです。今、僕たちにできることは限られていますがこうして税について考え、自分の意見を持つことが、将来の日本のためにとっても大切なことだと思います。

「お願いですから、お金に殺されないで下さい。」

私は、ある夏、一つのドラマを見たことがきっかけとなり、税について深く考えるようになりました。これは、主演していた女優さんが言った言葉です。主人公は、税を払わない市民、いわゆる税金の滞納者に、払うように交渉したり、万が一の場合は、差し押さえにしたりすることが仕事でした。税金を払わない人達の中には、本当にお金に困っている人だけでなく、お金があるのに、「もったいない。」と言って、払わない人もいました。ドラマながらに、そんな人達がいることに私は驚きをおぼせませんでした。主人公の仕事は、国民のためにやっていることなのですが、税金を徴収する仕事だけに、市民の受けとめ方は「税金泥棒」と冷たいのが現実でした。でもきっと、差し押さえにする方も、決して良い気分にはならないと思います。もしその人がいなければ、国の税金制度は、崩れていくかもしれません。私は、そこで初めて税金を取りしめるための仕事があるのだと知り、「カッコいいお仕事だな。」とあこがれをいただきました。

私の学校では最近、税の教室が開かれました。実際に税務署の方が来て下さり、お話をして下さいました。みなさんは、税金について、どれくらい知っていますか。私達の国日本にある税金の種類は、五十種類以上。国の歳入の約六十パーセントを占めるのは、税金となっています。もしかすると、何についての税金なのか、分からないまま払っている人も多いのではないかと思います。私もその中の一人でした。そのようなことも深く知らずに、私は、新聞やニュースなどの情報からか、税金は悪いイメージとしかとらえていませんでした。でも、それは税金についての少ない知識の中での判断でしかありませんでした。

私達の交通安全を支える一つである、信号機の値段は、四百万円から五百万円。人の命を左右することになる救急車は、二千六百万円。防災ヘリに関しては十億円にもなります。これらは一部にすぎませんが、すべて税金によってまかなわれているそうです。私達が普通に幸せに暮らしていく中で、税金はなくてはならない存在です。それがどれだけ大切なことなのか、一人一人が知識を高めて知っておかなければならないと思います。そうしなければ、税金は国民にとっての重荷であり、悪いものというイメージが無くならないままです。

身近な税のしくみを知ること、学ぶことは、未来の自分を助ける役割をはたしてくれる、そう私は思います。

私と税金

牛久市立牛久第三中学校 1年 武藤 みなみ

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」このメッセージは、父と一緒にテスト勉強していた時、教科書の裏表紙で見つけました。父は、「昔の教科書には、書いてなかったと思うよ。今の教科書には、なぜ書いてあるのかな。」

私は、その理由を考えるために、身近な税金の使い道を考えてみました。

まず、道路の整備に税金が使われています。最近、私の家の近くに新しい道路ができました。道路ができる前は、通学路を車がたくさん通り、通学するときにとっても危険でした。でも、今は道路が整備されて、安全に通学できるようになりました。

また、私は自転車で通学しているので、道がでこぼこしていると乗り心地が悪いし、パンクの心配もしなければなりません。道を修理した後は、平らな道で走りやすく、通学のときに自転車がパンクしなくなりました。

次に、公共施設の維持費です。私は、小学生の時からバドミントンを続けています。いろいろな体育館を借りて、たくさん練習してきました。今でも小学生のころに習っていた少年団に通っています。練習場所の小学校の照明代は、税金が使われています。そのおかげで、いつでも好きなバドミントンを友達と一緒に練習することができます。

最後に、一日の半分を生活している学校で、税金がたくさん使われています。教科書はもちろん、電気代や水道代など、私たちの学校生活のほとんどは、税金が使われています。そのおかげで、私は友達と楽しく生活したりいろいろなことを学んだりして、学校で貴重な体験ができるのだと思います。

このように、私たちの生活にとって税金はなくてはならないものだということがわかります。

それでは、なぜ教科書の裏に、あのようなメッセージが書かれているのでしょうか。

それは、私たちが税金の使い道についてあまり考えないで生活しているからではないでしょうか。正直いうと、私も普段から前に述べたようなことを考えながら生活しているわけではありません。道があるのも当然、学校で友達と過ごすのも、勉強するのも当然のこととして、気にもとめずに生きています。あのメッセージは、そういう私たちに税金が私たちの生活を支えてくれていることに気づき私たちが未来の日本を担える大人になってほしいという願いをこめたメッセージだと思います。私は、この願いを受け入れ、税金の大切さを考えながら、これから生活していきたいと思います。

僕らの税が日本を守る

南房総市立白浜中学校 3年 林 貢平

最近、ニュースや新聞で、消費税を最終的に十パーセントとするという野田首相の政策を聞く。国民にしてみれば、負担が多くなってしまおうと思われがちだが、僕はそういうデメリットがあったとしても、きっとそれを大きく越えるメリットがあるだろうと思い、消費税の増税について調べてみることにした。

新聞、ニュース、報道番組、インターネットなど、色々な手を使い調べてみた。そうすると、増税をし、大きな二つの問題を解決しなければならないことがわかった。

一つ目は国債についてのことが。今、世界的に経済が不安定となっている。ヨーロッパをみると、ユーロの信用不安が広がり、特にギリシャでは国債が発行され続けて借金がどんどん増え、国が破産してしまった。一見、他人事のように見えそうだがとんでもない。日本ではそれよりずっと多くの国債が発行され続けている。いつ国が破産してもおかしくない。それほど日本は信頼されているのだろう。初めて知ったときはとても驚き、不安になった。

二つ目は東日本大震災についてだ。日本中が震撼した昨年の大震災。本当に残念で悲しい出来事であった。今でも被災地の方々は苦しんでおられる。仮設住宅、避難所で暮らされている方々は不自由であるだろう。津波によって失われた公共施設や道路の復旧、そして東北の復興には長い時間を費やすだろう。

そう、今の日本は国難なのだ。しかし、この二つの大きな問題を解決していくためには莫大な費用が必要となる。そこでキーポイントとなってくるのは、消費税の増税だ。それによって集められた税金は、国債発行の食い止めや、震災復興のために使われるのだ。素晴らしいことだなと僕は思った。確かに、国民の負担は増えるけれど、それがまた自分達や困っている方々に返ってくるのだ。

僕は早く経済的に信用される日本を見たい。早く復興した美しい東北を見たい。この願いを達するには、国民自身の手で実現していかななくてはならないのだ。僕は絶対この願いを達しなければ、と強く思った。

しかし、僕はまだ中学生だ。税に関わる場面は大人よりは少ないだろう。でも、税についていくことはできる。そして、僕が一人前の大人になったとき、税についての知識をしっかりと知っておくこともとても大事だと考えた。

それに加え、税を納めているという自分の行動も頭に焼き付けておこう。人のため、日本のために、わずかであるが消費税という納税に、僕は貢献できているのだ。これはとてもうれしいことだ。この自分の行動をステップとして未来を担っていく力を十分に身に付けて、税を納めるという国民の義務を十分に果たし、これからの人生を歩み続けていこうと僕は決意する。

震災から学んだ税のありがたみ

魚津市立西部中学校3年 小竹 美月

去年の三月に起こった東日本大震災。見たことのない津波が、ものすごい速さで街からすべてを奪っていく様子がテレビから伝わってきました。原発の事故も起こり、放射能で汚染されてしまった区域には、立ち入れなくなりました。三月十一日で日本は変わりました。すべてを失ってしまった被災者の生活を支えたのは、税金でした。仮設住宅の設置、自衛隊の派遣、すべてを税金が行いました。このことを知ったとき、税を納めることが人々を救っているんだと思い、私も一人の国民として、義務を果たしていることにうれしくなりました。

税金は税金でも、消費税、法人税、所得税など様々なものがあります。その一つ一つは納め方が異なります。でも、全てに共通するのは、何かのために誰かのために役立っているということです。人を助けるため、何かを作るために、私たちは、税を納めています。逆に、私も税金のおかげで、今の生活ができています。毎日学校に通えるのも、道路を通れるのも、公園で遊べるのも、全ては税金があるからです。

私は、今まで税金について、深く考えたことはありませんでした。三月十一日、残酷な出来事が起こって、被災者の方は、大切なものを失いました。私は何も失いませんでした。自分が何も被害に遭わなかったから、それでいいのではなくて、被災者の方が少しでも前の生活に戻ったなど思ってもらえるように、私たちにはすべきことがあると思います。その気持ちの第一歩として、税を納めているのだと思います。

税金がないと、私たちが生活していくのは無理です。消費税わずか数パーセントでも、そのお金で、誰かを救えるのなら、税金の役割は百パーセント果たしていると思います。

税を納めることは、誰かを助けるためでもあり、自分も誰かに助けてもらっているということだと思います。税金の存在そのものが人を助け、生活を支え、心をつないでいます。

税金は「仕方ない」や「払うしかない」という気持ちで納めるのではなくて、「誰かのために何かのために協力する」「日本国民の一人としての義務を果たしている」という気持ちで納めることが大切です。この気持ちが持てたとき、安全で協力し合える社会を作っていくことに貢献しているということだと思います。

心をつなぐ第一歩として、税を納めることは、何よりも大切だと思います。震災があったから学んだことは、たくさんありました。震災で悲しい思いをした人の分も、私たちはこれから、税についてももっともっと学び、伝えていくべきだと思います。

無駄な支出が減り、本当に大切なことに、たくさん使われるような社会を考えてほしいし、私自身も考えていきたいなと思いました。

これからの税を考えて

名古屋市立城山中学校 3年 木村 なつき

私は中学生になり、スクールランチを食べるようになってから、「一食二八〇円でこんな豪華なランチが食べられるのか。」と、不思議に思っていた。そして、以前母にこの話をしたら、「二八〇円で豪華なランチは食べられないよ。」と言われた。私がなぜかと聞くと、名古屋市が私たちのために税金を使って負担してくれているのだと教えてくれた。そこで私は税について興味をもち、調べてみることにした。

昔から税金はあったのだろうか。社会科で勉強したように、昔はお金ではなく物を納めていた。例えば、年貢として農民が将軍に納めていた米などが当てはまる。このように、昔は農民が一生懸命働き、将軍のために納めていた。

しかし今はどうだろう。所得者が税金を納め、それは私たち一人ひとりが安全で快適な暮らしを送るために使われている。例えば、私たち中学生が学校で生活するために、一人当たり年間で九十五万円以上もの税金が使われているそうだ。こんなにもお金をかけてもらっているのだから、教科書や机は大切にしなければいけないと思った。

また最近では、世界中の税金が私たちの地球のために使われている。スウェーデンやオランダなどでは、二酸化炭素の排出量を減らすため、炭素税というものが存在するそうだ。日本でも地球環境を守るための税金について研究が行われている。さらに日本は、開発途上国に対して多くの資金援助や技術の協力をしていることがわかった。このような使われ方は本当に素晴らしいと思う。税金で世界はつながっているのだと感じた。これからも、これらの活動を続けてほしい。

その一方で、問題点もある。「少子・高齢社会」という言葉を耳にすることが多くなった。現代、将来の日本を担う若者、つまり働き手が減り、六十五歳以上の高齢者が増えてきている。そのため、二〇五〇年には働き手約一人で高齢者一人を支えるという「超高齢社会」に世界で最も早く日本が直面すると言われているのだ。高齢者が増えれば、当然医療や介護に多くの財源が必要になる。そしてその財源は私たちの税金からなるので、これからの時代に合った仕組みが重要だと思う。

高齢者を支えるために、またこれからの日本を支えるために、私たちに何ができるだろうか。私は、一人ひとりができることはたくさんあると思う。その第一歩として、まずは税についてみんなが「知る」ということが大切だと思った。そのためにも、誰にでもわかりやすいよう難しい言葉を使わず、税金の使いみちを明確にしてくれると政治もわかりやすくなるのではないかと考えた。

今、私は中学生だが、将来お金を稼ぐようになったら、政治を知り、税金を正しく納め「誰かの役に立ちたい」と思えるような、広い視野をもった優しい大人になりたい。

「守りつづけるために」

茨木市立西陵中学校 3年 横山 七海

「まさか、私が……。」

この夏、祖母は子宮を全摘出する大手術をしました。手術前、祖母は医師から、毎年きちんと定期検診を受けていれば、大手術にはならなかったと言われたそうです。残念なことに、手術を受ける多くの患者は、祖母と同じ言葉を口にするそうです。

祖母は、自分と同じ失敗をしてほしくないと、私に定期検診の大切さを教えてくれました。そして、公費負担で定期検診を受けることができる素晴らしい制度が、日本にはあるということも教えてくれました。

公費＝税金で定期検診が受けられる。その他に、病院で私達は、医療費を全額負担していません。それは、税金から残りのお金を負担しているからです。また、予防接種、こども医療費の助成や健康診査、健康相談なども税金でまかなわれています。

税金についていろいろ調べていくうちに、税金＝損をするというマイナスのイメージがガラリと変わりました。私達の健康のために国民一人当たり、約十万六千円もの税金が一年間に使われているのです。税金で私達の健康で安心な生活が守られているのなら、私達も大切に、そして有効に使っていかなければいけないと思いました。

税金は医療だけではなく、福祉、警察、消防、市町村のゴミ処理費用、そして公立学校など、いたる所で使われています。特に、教育費に一番多くの税金が使われていることを知り、驚きました。

私は、消費税でしか納税をしていません。しかし、生まれてから、多くの税金に守られ支えられていたことを知り、なんだか申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。私たちより前の世代のたくさんの人々が、税金として納めてくれ、私達を守り、支えてくれている。それなら、私達は今、しっかりと学び、未来へつなげていかなければいけないと責任を感じました。

国民の三大義務に、教育の義務、勤労の義務、納税の義務があります。私には、この三大義務が、陸上のリレーコースの様に思えました。

各世代が決められたコースを全力で努め、走り、バトンをつなげていく。そのバトンには、祖母が私にしてくれたような教えが、たくさん税金と共に詰め込まれていて、各世代の人々に健康で安心な生活を届けている。

少子高齢化に伴い、一九七五年では、一人の高齢者を七・七人で支えることができましたが、二〇五〇年には一・二人で支えなければなりません。今後、働き手が減り、税収入も減っていくでしょう。だからこそ、私のムダ使いはやめなくてははいけません。そして、私達は、その状況に負けることなく、これからも学び、考え、知恵を出し合って、健康で安心な生活を守っていきたいと思います。

私は被爆都市広島で生まれました。

今通っている中学校も、原爆の被害を受け多くの先輩が亡くなりました。町は焼け野原となり何もかも無くなってしまいました。今年、六十七年目の原爆日を迎え、町の中で当時の様子を知るものは原爆ドームだけです。しかし、私達は小さいころから平和について考え広島がどのようになったのか、どうやって復興していったのかよく知っています。

なぜ、私が税の作文の初めにこのようなことを書いたかということ、焼け野原となり壊滅的な被害を受けた町を復興させてくれたのは税金のおかげだと思ったからです。町には、多くの街灯があり、道路があり、水道があり、学校や警察などがあって、そのおかげで私達は安心して生活ができています。この設置や維持、管理は多くの税金によって行われていると聞きました。当時の広島は町自体が無くなってしまい一から作り直さなければならず当然多くの税金が使われたと思うのです。道路が整備され、水道、電気が通じ、町は少しずつ元の姿を取り戻しました。今はきれいでとても住みやすい町になっています。

もし、税金がなかったら町はどうなるのでしょうか。街灯が壊れてもそのまま、道路に穴があいてもそのまま、今の広島の姿も無かったかもしれせん。治安も悪くなるでしょうし、水道や電気も高額なものになるでしょう。ゴミの回収も無くなり衛生面も悪くなると思います。国民が納税の義務を負うことでこれらの不安がなくなり安心して生活ができる社会になり、大きな災害などが起こった場合に早急な復興ができるのだと思います。

私は親にどんな税金を納めているかきってみました。親は、自動車税、固定資産税、住民税、所得税、消費税などたくさんあるよ、と教えてくれました。私自身もどのような税金を納めているか考えてみたところ、一番にかんだのは消費税でした。文ぼう具を買っても、本を買っても、お菓子を買っても納めています。親が納める税金も私が納める税金も安心して生活ができる社会を創るためだと思うとなんだか税金を納めることに誇りを持てる気がしてきました。

広島が復興したときから考えると税金の種類や仕組みは変わっていると思います。でも安心して平和に生活ができることにはかわりないと思います。私はまだまだ税金のことについて分からないことが多いですが、これからも税の仕組みや種類などよく勉強して税の意味をよく理解していきたいと思います。

七月。ガラガラと太陽が照りつける暑い夏がやって来た。ちょうど二年前のあの日も、こんな暑い日だった。

今まで病気ひとつしなかった祖父が、突然脳梗塞で入院することになった。その前日から会話が上手にできない様子があり、祖母も不安に思っていた矢先のことだった。

大学病院で手術を受け、一命を取り留めた祖父だが、右半身と言語に少し麻痺が残ってしまった。祖父は若いころから大工の仕事をしていて、職人氣質の真面目な人で、早く病気を治して仕事に復帰したいという気持ちが強かった。それからの祖父は、身体と言語の両方のリハビリを一生懸命頑張り、六ヶ月の入院生活を経て、無事退院した。

祖母から聞いた話だが、祖父は集中治療室に入院し、完全看護で最高の治療をしてもらったそうだ。そして現在、祖父は介護サービスを受けている。週二回のデイサービスと週一回の訪問リハビリを祖父は心待ちにし、表情も生き生きとしている。そんな祖父を近くで支える祖母も、本当にうれしそうだ。

しかし、年金で生活している祖父母にとって、入院、手術、リハビリと、経済的にも大きな負担になるのではないかと心配になり、祖母に尋ねてみた。そこで初めて、祖父の治療にはたくさんの税金が活用されていたことを知った。

税金は、国民が健康で豊かな生活を送るために、国や地方公共団体が行う活動の財源となる大切なお金だ。その税金で、祖父は高度な治療を受け、そして現在も身体の回復に努めることができている。今、私は、小さい負担で祖父母を支えてくれる色々な社会制度を心からありがたく思う。

今、改めて私たちの暮らしを振り返ってみると、当たり前すぎて見過ごしがちな様々な所で税金が使われていることがわかる。朝、きれいに舗装された道を通り学校へ行き、授業を受ける。教科書は無償で支給され、また放課後は設備の整った体育館で部活動に打ち込める。私が住んでいる町では小学六年生まで医療費も無料だ。でも、それらがすべて税金で賄われていることを、特に意識することもなく、また感謝することもなく、当たり前のように過ごしてきた。

しかし、税について家族と話をする中で、私が毎日笑顔でこのような生活を送ることができるのも、税金のおかげだということを学んだ。そして、私たちの生活をサポートしてくれる社会の仕組みを心強く思った。

これからますます高齢化が進み、祖父がお世話になったように、老人医療、福祉、介護など、税金の役割が大きくなるだろう。社会のために貢献してきたすべてのお年寄りが、整った環境の中で生きがいを持って安心して生活できるように、税金の在り方について、もっと関心を持ちたい。そして将来、税金に感謝しながら納税できる大人になりたい。

税金と生きている

朝倉市立南陵中学校 2年 幸島 月歩

私は、全身性エリトマトーデス（SLE）という病気です。SLEは毎日、一生薬を飲まなければいけません。しかも私が飲んでいる薬は高額です。加えて定期的に通院も必要です。とてもお金がかかるのですが特定疾患医療給付制度によって自己負担が少なくなります。私はあまり意識せずこの制度を受けていましたが、税が関係していると知り調べてみることにしました。

まず、最初に特定疾患のことです。特定疾患とは、原因が分からず治療法が確立していない難病の中で、福岡県が指定している45の疾患のことです。特定疾患医療給付制度は治療にかかる医療費のうち、患者が支払う自己負担の一部を公費負担する制度のことです。この給付制度は国、都道府県に納められた税によって賄われています。ですが最近では国の給付割合が減り、県に負担がある状態が続いているそうです。もし、このままの状態が続くとどうなるのでしょうか？先日の新聞にこんな記事がありました。「難病助成拡大を検討」と。内容はこれまで特定疾患に指定されていない極稀に見る病気にも助成を拡大するというものでした。しかし、受給者数が増えるということは現在受給している人へ影響は無いのだろうか、という不安もあります。例えば対象から外されたり、支給額が減らされたりしないのだろうかと考えたりします。

このままだと日本は借金で破綻してしまいます。そうならない為に「納税」という義務を果たしてほしいです。もし、このまま国からお金が無くなっていったらきっと、特定疾患の給付制度をはじめ、人々の暮らしを支える制度が崩れると思います。そうすると私達特定疾患患者は生活は苦しくなります。ただでさえ働く場所が限られるのに、この不況の中、医療費を稼げるような職に就けるのでしょうか。

現在の社会に対して私は不安です。震災復興、生活保護不正受給、高齢化社会による税収の減少、公費負担の増大、それに伴う多額の借金、脱税と日本のお金が足りていない事が分かります。だから、生活保護不正受給や脱税を防ぐ事や、税金が無駄に使われない様にする必要があると思います。

将来の日本がどうなっているかは分かりません。しかし、税金によって日本が支えられているのは確かだと思います。生計中心者が自分となったとき、通院は出来るだろうか、薬は飲めるだろうか。不安は少しあるけれど、税金は私達の暮らしを「安心・安全」にしてくれます。それが分かってこそ税金の素晴らしさや大切さを実感できるのだと思います。私達は税金と生きているのだと思います。

命をつなげるために

出水市立米ノ津中学校 1年 河野 裕真

新聞の一面に、日本人女性の平均寿命が世界一から転落したと、大きな見出しで書かれていた。多くの方が死亡した東日本大震災が大きく影響したと説明されていたが、もう一つの原因として、自殺者数の増加が挙げられていた。

今、日本では生活保護費の方が最低賃金よりも高くなっていて、就職難で就職できない人や、就職しても賃金が安くて生活に息詰まっている若い二十代の女性の自殺者が特に増えているようだ。収入の高い人が、収入の低い人の生活を税金によって支えることが、税制度の基本的な目的だとぼくは思う。そして、税金は人間の命を守るためにも必要なものである。

ぼくの祖父は慢性のじん臓病で、長い間人工透析をしていた。祖父を介護していた祖母は口ぐせのように、

「おじいちゃんの命は、たくさんの人のおかげで生かされているのだよ。」
と言っていた。それは、医療保険制度があるおかげで、高額の治療費を個人が全額負担せずすむからだ。

日本人は増税という言葉に不信感を抱き、税金が自分たちの生活に大きな負担をかけているとかん違いをしているように思える。身近に高齢者や病人がいると、多くの方の納めている税金のおかげで、安心した生活ができていることを実感する。

世界に目を向けると、貧困のために病気になっても治療すらうけられず、路上で死んだり、餓死したりする人が多くいる発展途上の国がまだまだある。物が豊かで、食料があふれている日本に住んでいるぼくたちは、そのことが自分たちの生活とは無関係のようにして生きている。しかし、他国の悲惨な現状を考えれば、税金によって守られている安定した日本の生活のありがたさを痛感する。

祖父は二年前に八十二才で亡くなった。病気と長い間闘い続けていたが、それでも長生きできたと思う。祖父が多くの方が納めた税金のおかげで、安心して病気の治療ができたように、ぼくも大人になったら、正しい知識と理解をもって、納税という形で恩返しをしたい。

震災の復興のために、そして、若い人の自殺が減り、また長寿国世界一になるために、命を未来につなげるために、税金は大切なものだと多くの方にわかってほしい。

税の大切さ

那覇市立小禄中学校 3年 金城 ひかり

この作品は、受賞者の御意向によりホームページへの掲載を差し控えさせていただきます。

税について

札幌市立あやめ野中学校3年 後藤 菜奈

私は家で税金について調べてみました。すると、未納税者という人がいることが分かりました。ある未納税者は「他にも払っていない人がいるのだから、自分だって払わなくていいではないか。」と主張しました。確かに未納税者は一人ではないと思います。しかし私は、その人たちも税金によって管理されているものに、どこかで必ず助けられていると思います。本人は助けられる生活が当たり前だと思ってしまっているから、気づいていないだけだと思います。そのことにちゃんと気づいている人が増えるだけで未納税者は減ると思います。

私はまだ働くことができないし、お金を稼いで納めるということがどれだけ大変なのかよく分かっていません。今のように安心安全で、便利に暮らすことが出来ているなか、その裏でどれだけの人がかんばってくれていることか、考えただけで今の私達は本当に恵まれているんだなと幸せに感じます。

そもそも税金があるおかげで暮らしやすく安全な日本が今あると思います。税金がなければ道は古いままであったり、ゴミは放置されたまま…。公共サービスや公共施設だって税金。病院に行った薬の値段だって税金で負担してくれています。今まで税金について深く考えたことは、正直言ってあんまりなかったです。いつ、どこでどのように使われているのかなんて思ったこともなかったと思います。しかし、普通に使っていた教科書だって税金。私は税金のおかげで生きていける、そう言っても過言ではないと思います。

何億、何兆というお金は、中学生の私には多すぎてはっきりまだ想像することができません。でも、日本に住んでいる人みんなで少しずつでもお金を出せれば、それはとても大きな額になると思います。その分、生活もしやすくなり喜びも増えると思います。

一生懸命に働き税金を納める方々と、一生懸命に使い道を考える方々がいるからこそ、様々なところで税金に支えられることが出来るんだと思います。だから私は毎日を全力で楽しみつつ、今の豊かな生活に感謝をしたいと思います。

しっかり働いて沢山の税を払えるということは、日本の豊かさやこれからの発展を支えていけるという点で、とても名誉なことだと私は思います。上の世代の方々によって支えられてきたものに感謝をし、今度は次世代をしっかり支えていけるような責任感のある社会人になりたいと思います。そして今は支えてもらうことしか出来ませんが、大人になったら一生懸命働いて、そしていただいたお給料から、さらに素敵な社会になることを願って社会人である誇りを持ってきちんと税金を納めていきたいです。

納税は私たちの誇り

多賀城市立東豊中学校3年 平山 あかり

なぜ、私たちは納める税額に違いがあっても公平な公共のサービスを受けることができるのだろうか。

私の父は、会社から給与収入を得ている。祖父は、不動産収入を得て生計を立てている。祖父の所得税の納税額は、父よりも多い。しかし、私たち家族は、祖父と同じ公共のサービスを受けている。

私たちの暮らしに欠かせない公共のサービスには費用が掛かる。その費用を負担するのが税金である。税金を納めることは、国民が果たすべき基本的な義務の一つだ。その税金により、私たちは、消防や警察、学校教育、福祉などの様々なサービスを受け、安全で健康的な生活が保障されている。

私の暮らす地域は、東日本大震災での津波により大規模な被害に遭った。道路は漂流物で埋まり、通行することもできず、生活に欠かせない上下水道が使えず、不便な暮らしを経験した。蛇口をひねれば水が出る。トイレを使用した後に水を流す。日常の当たり前のことができない。私は数日間、避難所で過ごしたが、水を流せないトイレが劣悪な衛生環境であったことは、一生忘れないだろう。そのことで上下水道の整備の大切さを十分に理解した。生活のための復旧は、すぐに行われた。現在では、公共事業などにより復興が進み、環境整備の整った快適な暮らしをしている。震災の復旧、復興も国民の納める税金によって支えられているのだ。だから、父や祖父の納めた税金も有効的に使われている。

ある一定の所得がある人は、所得金額に応じて所得税を納めなくてはならない。しかし、様々な事情から収入がなく、税金を納めることのできない人もいる。そのため、所得や資産などが多い人には多めに税を負担してもらっている。所得の低い人には、税負担を軽くしている。しかし、税負担を拒み、不正手段で納税義務を免れようとする人も存在するのは確かだ。富に格差が生じても、お互いを支えあう税負担のシステムのおかげで私たちは公共のサービスを公平に受けることができるのだ。消費税の増税についても私は賛成する。なぜなら、増税により、社会保障が厚くなることは、私たちの将来にとっても有利なことだからだ。富を求め、個人の活動だけを優先しているようでは、社会の安定は望めない。納税意識の向上は、私たちの国の発展にもつながることだ。そのためには、学校の授業の中でも税金の役割を学ぶ時間を多く設けることが必要だと思う。そうすることによって、社会人になるころには、しっかりとした納税意識が身についているのではないだろうか。

私も将来、父や祖父のように、しっかりと納税し、国民として社会のために貢献し、納税できることを誇りに思えるような立派な大人になりたい。

「明日」を守る納税

深谷市立上柴中学校 2年 向井 修吾

「修吾。お菓子のおばちゃんがけがをしたらしいの。お見舞に一緒に行っ
ね。」

お母さんから頼まれてこのお見舞に行ったことで僕は初めて介護保険という
制度や税金のありがたさを知ることになりました。

お菓子のおばちゃんというのは八十才でお母さんのおばさんで、八十二才の
だんなさんと二人暮らしをしています。小さい頃から僕が遊びに行くと、いつ
もお菓子をたくさんくれるので、お菓子のおばちゃんと呼んでいました。おば
さんのけがは左腕の骨折でした。もともと糖尿病や足腰が悪くなっていたおば
さんは、夜中にトイレに起きた時にベッドから落ちて動けなくなってしまい、
救急車で病院に運ばれたということでした。すでに退院したので、お見舞はお
ばさんの家に行きました。

お見舞に行った僕は、ちょっとびっくりしました。いつもはおばさんとおじ
さんの二人なのに、その日は知らない人がエプロンをして家の事をしていたか
らです。僕はけがをして不自由なおばさんが家政婦さんを頼んだのかなあと思
いました。でも家政婦さんでなくヘルパーさんでした。家のことができないの
で介護支援の人に相談をしたら、市役所の人や介護施設の人が来て、今のおば
さんの病状を調査して「要支援」という介護になり、ヘルパーさんが一日二時
間と決まり、家事をしてもらっていることを知りました。また、食事は宅配の
お弁当が届くそうです。僕は話を聞いて良かったなあと安心しました。でも、
かなり高いお金なのだろうと思いました。後でおばさんがお母さんに介護保
険のおかげで金は安いことを話しているのを聞いて、介護保険って何だろうと
思いながらもおばさんが元気そうで良かったと帰りました。

僕はおばさんのけがをきっかけに介護保険について、お母さんやお父さんに
聞いてみました。介護保険とは平成十二年に施行された高齢者や核家族化に対
応して要介護者を社会全体で支える仕組みだということがわかりました。財源
は個人が納付する保険料と、国、都道府県、市町村による負担もあり、やはり
税金が使われているということでした。いろいろ課題も多いらしいのですが、
おばさんのように、この制度で助かっている人を知ると税金の使われ方がわか
りやすく、困っている時に役立っていると感じました。

国会で、消費税の値上げが成立しました。値上げすれば僕も買物をした時は
必ず負担を感じることでしょう。でも病気になったり年老いた人が安心して暮
らせる社会のためには、国の財源を確保する税金は必要です。国が豊かであれ
ば人に優しくおだやかな社会になると思います。納税は負担かもしれないけれ
ど、明日を守る貯金と考えれば安心した明日につながります。明日を守るため
に僕も納税の義務を果たそうと思います。

税と責任と信頼関係

江戸川区立葛西第三中学校 3年 和田 欣大

僕は転勤族だ。今まで福岡、新潟、そして小学三年生の時、東京に引っ越ししてきた。江戸川区に住んでからいつも母が言っている。「子供の医療費が無料で驚く。」と。福岡や新潟で、まだ小さかった僕は、よく風邪をひき、何度も病院に行ったそう。その当時、母は医療費を当然支払い、受診していた。現在、江戸川区では、税金の約二割を子育て支援等に充て、支援策の一つとして「子ども医療費助成制度」がある。これは、中三までの子供が医療機関に子ども医療証を提示することにより、保険診療の自己負担分を支払わずに受診できる制度だ。この制度の目的は、未来を担う子供達が健やかに育つよう、また子育て世代への経済的負担の軽減を図ることである。

納税は国民の義務である。そして国民の納める税金は、国や地方自治体が行う様々な制度の財源となる。大切なのは税金の使い方だ。国民が義務を守り、納めた貴い税金を、国や自治体がどう大切に使うかである。江戸川区の母親達は、この制度のおかげで助かっているだろう。経済的にはもちろん、精神的にも安心して子育てができるのではないだろうか。この制度は、税金を納める区民と、税金を預かり、運用する区との信頼関係の上に成り立っている制度だと思う。

僕達国民は、しっかりと納税し、約束を守る。国はこの任された税を、大切に正しく使う。この信頼関係を僕は信じている。社会、そこで暮らす人々の為に有意義に使ってほしい。共に生きる皆の為、皆が喜び、豊かになるよう使ってほしい。もし、国と国民の信頼関係が崩れればどうなるだろう。社会が成り立たない。人々は共に暮らせない。国は崩壊してしまうだろう。

東京都では細かい条件は違うが、子供の医療費助成制度がある区は十三区ある。その中の一つ、江戸川区は、とても過ごしやすく明るい区だと僕は感じている。ここでは、いつも小さな子供達の笑い声が聞こえる。聞いている僕も楽しくなる。僕は、江戸川区がずっと、子供達が元気にのびのびと暮らせる区であってほしい。その為にも、納税する区民も、その税金を運用する区も、各々が果たすべき責任を全うする必要があると思う。

今、日本は、税の無駄使い等、税に関する様々な問題を抱えている。解決する為に、この国に住む僕達は何ができるだろう。何の為に税があるのか、税とは何なのか、税をどう生かすべきか。各々の立場でお互いを思いやり、想像力を働かせてみてはどうだろう。皆が自分自身に問いかけ、自分なりに答えを出し、税と向き合うことが大切だと思う。

僕は、社会で皆と共に生活する為の「会費」である税に、正しく関わってほしいと思う。そして皆が気持ち良く、生活できる社会に協力したい。僕達の国、日本が明るい笑顔が溢れる、豊かな国になることを願って。

幸せと安心を支える税金

射水市立大門中学校 3年 赤尾 知世

「おじさんの会社が、道路補修の新しいやり方を試してみたんだって。成功したら安く道路補修ができるから、公共事業費が減って税金の節約になるよね。」

ある朝、母が嬉しそうに新聞を見せました。そこには、親せきのおじさんが経営する会社が、低コスト新工法で道路補修を試験的に行ったという記事が載っていました。

「社員の生活を背負つとるから頑張らんなん。」と言っていたおじさんの顔が思いかび、社会の役に立っていてえらいなと思いました。また、『税金の節約になる』という母の言葉から、租税教室のことを思い出しました。

租税教室では、まず「税」を一言で言っても、多くの種類があることを教わりました。私が知っていたのは、小遣いで買い物をしたときにかかる消費税ぐらいでした。しかし、所得税や贈与税の他に、父が好きなお酒やたばこにかかる酒税やたばこ税、温泉に入るときには入湯税……と、本当にたくさんの種類があることを知ってびっくりしました。

「会社は法人税を納めているんだよ。」

と、以前おじさんが言っていました。それは、一万円が高額に感じられる私にとって、ケタはずれの額だったように覚えています。

そしてこれらの税金によって、道路の建設や補修を行ったり、上下水道を整備したりすることを知りました。学校で授業を受けられるのも、救急車や消防車を呼べるのも、ゴミを収集してもらえるのも、すべて税金のおかげ。税金を払うことによって、私たちは互いに生活を支え合っているのだと思いました。

また、租税教室で私が一番驚いたのは、国が借金をしていて、その借金が年々増加しているということです。歳入と歳出の円グラフを見せてもらおうと、税金で足りない分を「公債金」という国の借金で補っていることが分かりました。借金が増え続けたら、日本はどうなるのだろうかと思い、母に聞いてみました。

すると母は、住民税、自動車税、固定資産税等の納税通知書の他に、国民健康保険料や国民年金保険料といった、社会保険と呼ばれる納付書も見せてくれました。

「日本は少子高齢化が急速に進んでいて、年金や医療や介護の費用は増えているのに、その費用の担い手である働き手が減っているから、公債が増える一方なんだよ。わが家の三人の子供たちも社会に出たら、きちんと税金や社会保険料が払える大人になってほしいな。」と、母がにっこり笑いました。

私は、みんなが幸せに安心して暮らせる社会のために、税金をきちんと払おうと思います。そして国の政治に関心を持ち、どのように税金が使われるべきかを国民一人一人が考え、大切に使う必要があると思います。

安心した社会をつくるために

大治町立大治中学校 3年 大谷 真未

「日本に生まれてよかった。」と心から思ったことがある。誰から聞いたのかも忘れてしまうほど前のことだが、こんな話をしてくれた人がいた。日本ではどんな人でも助けてくれる。裕福でも貧乏でも、知らない人だって道端で倒れていたら身元が分からなくても救急車に乗せてくれる。ところがすべての国がそういう訳にはいかない。まず、払えるお金があるのかを尋ねられるのだという。お金がなければ病院でみてもらえない。薬局へ行くように言われるそう。こういった内容の話だった。この話を聞いたとき私は幼いながら、衝撃を受けた。日本では病院でみてもらえるのが当たり前だからだ。ではこの当たり前の光景をつくり出しているのは何だろう。

それは日本の社会のシステムだ。生活保護法のように、日本には貧しい人や働けない人が最低限度の生活を送れるようなシステムがある。これを実行するにはお金が必要だ。そのお金というのが国民の納める税金である。

しかし税金を納める者は公平でないように思う。生活保護法には払う人と払われる人がいる。またNHKはコマーシャルが一切ないが、それは番組をつくるためのスポンサーがないということだ。NHKもまた税金でまかなわれている。だが、NHKの番組をよく見る人もいれば、全然見ない人もいる。これらのことから分かるように払った分だけ利益がある人もいればいない人もいることが分かる。

不公平だからといって私は税金制度を止めてほしい、あるいは軽くしてほしいと言っているのではない。それよりも日本がこれだけ安心な国であるのは税金のおかげだと思い、税金制度に賛成である。

人間は一人として完ぺきな人はいない。いつ病気になるかも分からないし、いつ挫折するかも分からない。もし自分が誰かの援助を必要とするとき、助けてもらえたらとても嬉しい。日本では税金によってそれを行っているのだ。

「情けは人のためならず」ということわざがある。情けをかけると必ず自分のところに返ってくるという意味だ。

こんな体験があった。友達と名古屋に遊びに行くために、バスに乗ったときだった。つえをついたおばあさんが乗ってきた。私はそのとき「どうぞ。」と席を譲った。なかなか勇気があったなと思う。そのおばあさんはとても喜んで名古屋に行くまでたくさん話した。すごく楽しかった。私のほうが元気をもらった気がした。

こういった体験のように税金はいつか自分に返る、思いやりとして大切にしたい。そして税金のお陰で私たちの生活は楽になっているということを忘れず、税金を支払っている人に対して感謝していきたい。日本に生まれてよかったと思えることだけで、税金は十分な役割を果たしているのかもしれない。

税は社会のバックアップシステム

神戸市立太山寺中学校 3年 松岡 菜那子

先日、東日本大震災の復興状況がテレビで映し出されていた。着実に復興が進み、通常の市民生活が戻りつつあるようだが、全く手つかずで震災当時のままの地域も多くあるらしい。日本の観測史上最大の地震による被害から、地域の力だけで元の街並みや生活を取り戻すのは難しいことだ。テレビに映る被災地を見ながら、私が住む神戸のことを思った。

平成七年の阪神・淡路大震災で、神戸も壊滅的な打撃を受けた。ビルや高速道路が倒壊し、地震直後の火災で焼け野原になった。それが、今は空港が新たに開港し医療産業都市として発展している。私は震災を直接体験していないが、わずか十数年でよくここまで復興できたものだと思う。

震災後、街の復興への取り組みが行われたが、それには大きなお金が投入された。私はそのお金をどうやって確保したのか調べてみた。当時、国や地方では震災復興関連として大きな予算が組まれたが、そのもとは全国のみなさんが納めた税金だった。本当は、被災地に駆けつけて手助けをしたいと思っても、仕事や学校等でできない多くの人たちが、税金を納めることで被災地の復興に大きく貢献してくれたのだ。つまり震災等の非常事態には、私たちが納めている税金が私たち自身の生活をバックアップするシステムになっていることがわかり、とても心強く思えた。

最近、消費税について、景気が悪いのに増税がよいのかという意見もなかには出されている。買い物をするとき、「消費税が増えたらどうなるのだろう。」と不安に思えることもある。消費税増税は、私たちの家計に影響するかもしれない。でも、増税という形で私たちが今少しだけ我慢すれば、日本の将来にきっと役立っていくのだ。現在の繁栄を次の世代へつなぐことが私たちの課題だが、税金がその解決に役割を果たすだろう。つまり、私たちが納める税金が、将来の世代の生活を守るバックアップシステムと考えることができるのだ。確かに今は不景気だから多くの人が生活は厳しいと感じており、増税に対していろいろな意見がある。だから、人びとの所得の差も考えながら、だれもが公平感を持てる税の負担方法や生活の苦しい人たちへの給付方法についても検討が必要だと思う。

全国のみなさんが納めた税金が大きな力となって復興できた神戸の街を思うと、東北をはじめ全国の災害被災地の復興に私たちの納める税金が役立ってほしいと願う。さらに、日本の将来を担う次世代に夢を持てる社会を引き継いでいくには、税が世代を超えたバックアップシステムの役割を果たしてくれることを認識したうえで、今を生きる私たちが正しく納税を行うことがとても大切なことだと思う。

税についての学習を続けたい

近畿大学附属福山中学校 1年 宮本 彩佳

二〇一二年八月十日夕方の参院本会議で消費増税法が成立した。十八年ぶりに消費税率が引き上げられるそう。何と税率は二〇一四年四月に八パーセント、二〇一五年十月に十パーセントになるそう。私は、買い物をしても税金をたくさん払わないといけないと思うと、ため息が出た。新聞を読んでも「節約生活」とか「地方・企業も深刻」とか暗い話題ばかりだ。私の家族も、生活が苦しくなるとぶつぶつ文句を言っている。

私は、日常生活の中で、税について考えたことはほとんどなかった。税金は大人が払うのだから、子どもが税について考える必要がないと思っていた。でも、この度の消費税増税のニュースをきっかけに、小学校の社会科で習った「税についての学習」を思い出した。それは、とにかく驚くことばかりだった。私たちの身の回りの公園も道路も交番も、その他いろいろなものが税金でできている。もし、税金がなかったら――。交番が有料になると行きづらくなり、事件が多発するかもしれない。公園のベンチでリラックスして休けいできなくなる。救急車を呼ぶような病気でも、お金が要るとなると、ためらってしまい、手遅れになるかもしれない。世の中がパニックになる様子が想像され、恐ろしくなる。そう考えると、私たちが安心して生活していくためには、警察・消防・道路・公園など公共サービスが必要になってくる。そのためには税金を納めなくてはならない。

私は、税金とは消費税だけだと思っていた。しかし、「税についての学習」で、自動車税や酒税など、五十種類もの税があることを知った。また、世界の国々と比べると、消費税の税率が低いことにも驚いた。

消費増税法成立。確かにいやだ。でも、なぜそうなったのか、きっと理由はある。日本の経済が赤字？借金？私が思ってもいなかった言葉が次々と出てきた。新聞には、社会保障、積み残された課題が表にまとめてあった。読んでも難しく何となく分かりにくい。でも知らなければ、分かろうとしなければ、ただ文句を言うだけだ。何のために税金を払っているのか、「めんどくさい」ではなく「あたりまえ」と納得するためには、税金の使いみちについても十分知りたい。国語の漢字を習うように、数学の計算方法を習うように、学校でも少しずつ「税についての学習」を続けていくことができたらいと思う。そうすれば、こんなところで税金が役だっているよとか、今年はみんながこれだけ税金を納めたよとか、今日本はこんな状態だよ、など家の人にも教えてあげられる。

少子高齢化の進展などで日本の経済社会は大きく変化している。でも税金にお世話になっていない人なんてだれもない。私たち中学生にとって税金を納めることは少ないけど、よりよい世の中にするための税について、日常生活の中でもしっかり考えていきたい。

社会を支える税

四国中央市立三島南中学校 3年 大西 里奈

数か月前、英語のALTの先生がかぜをひいて、とてもつらそうにしているのを見かけた私は、病院には行ったのですか。」と尋ねてみました。すると先生は、

「アメリカ人はめったに病院へは行きません。なぜなら、アメリカの医療費は日本に比べてものすごく高いからなのです。私がアメリカにいた時も、年に一、二回しか行きませんでしたよ。」

と、答えてくれました。先生の話から、世界には日本のように安く治療を受けられる医療制度の整った国ばかりではないということを知りました。医療費が高いと、本当に治療を必要としている人が病院に行くのを我慢したり、貧しくて病院に行きたくても行けない人が出てきてしまうのではないかと心配になります。日本の医療制度はすばらしくて、ありがたいものだと思います。

先日、足をけがして病院に行った私は、自己負担は医療費の三割ですむことを母に教えてもらいました。そして、残りの七割は、税金で賄われていることに初めて気付きました。税金は、私たちの生活をより良くし、幸せにしてくれるすばらしいものなのだと思います。大人の人たちが汗を流して一生懸命に働き、納めてくれているもので、たくさんの人の努力や優しさが詰まった温かいお金なのです。

日本語には「お互いさま」という言葉があります。お互いを許し合い、尊重し合う心を一言で表す素敵な言葉です。今は助ける立場にあっても、いつか助けをもらう時が来るかもしれないという気持ちが、「お互いさま」という言葉に込められています。働いて収入を得た者が納税をして、子供たちやお年寄りの生活を支えるこの制度は、「お互いさま」の精神の下にこそ、成り立っているのだと思います。だからこそ、税の負担は公平・公正でなければならないと思います。脱税や税金の滞納、所得隠し、年金の不正受給などの報道が新聞にのる度に、どうしてこういう事が繰り返されるのか悲しくなってしまうます。正直に税金を納めることがばからしくなってくるかもしれません。一人一人が気持ちよく税金を納めることができるような社会であってほしいと思います。

その為には、税金の在り方や使い道についてもっと学習し、正しく理解することが大切なのだと思います。

税金なくして、私達の生活は絶対に成り立ちません。私が今、楽しく学校に通って勉強したり、普段当たり前のように思っていることの多くが、税金によって成り立っていて、税金と私たちの生活が深く関わり合い、つながっているのだということが分かりました。そのつながりがあるからこそ、今、こうして社会は成り立っているのだと思います。

将来、学校を卒業し社会人となった時には、今までお世話になったことへの感謝の気持ちを忘れずに、社会を支える一員として、きちんと納税をしていきたいと思います。

「古事記」が書かれて今年で千三百年を迎えた。その中に、「民のかまど」という話がある。この話には、仁徳天皇が即位され、農業生産性を高め、都市機能を整えることを目的とし大規模な工事に取り組んだ。しかし、四年後、高台から周囲を見渡すとかまどの煙が全く立っている様子がないことに仁徳天皇が気付いた。民が大規模工事によって、飯も炊けないほど貧しくなってしまったことを天皇は知った。そのため、年貢や工事への労働を三年間取りやめ、天皇も雨漏りがする宮殿で質素な生活を送った。その結果、民に豊かな暮らしが戻ってきた。これが、日本の税の原点とも言われ、一人で出来ないことを皆で協力して助け合う税制度が出来ていたようだ。

平成二十四年八月十日に可決した消費税増税法では、平成二十六年四月に八%、翌年十月には十%の消費税増税となる。

消費税が初めて導入されたのは、平成元年で、消費に対して広く薄く負担を求め所得税中心の戦後税体系を見直す手がかりとなった。また、平成九年には、消費税率が五%となり所得税制度の限界と高齢化社会への対処を目的に税率が引き上げられた。

しかし、今回成立した消費税増税法では、低所得者や年金で生活している人達に対して食料品等の日常必需品を含めて一律に課税されるため負担が重い。また、医療や介護、福祉、住宅、教育等の分野では、消費税がかからない品やサービスが多いが、部品や材料の調達時点では消費税がかかるため最終的にはだれかが増税分を負担しなければならない。

今回の消費税増税で積み残された所得税・相続税の増税など、低所得者や年金で生活している人達に対して負担を軽減することを含めた税制度の見直しが必要ではないか。大企業や高額所得者の富裕層の人達に優遇されていた法人税や所得税の上限見直しなど、騎馬戦型の担ぎ手として収入や私財、収益に応じた負担をしてもらうことが必要だと思う。また、大企業等の雇用主は、消費税の増税により勤労所得を引き下げることが生じないように努力して欲しいと思う。

なぜならば、仁徳天皇は、国民をおおみたから（大御宝）と言い「国民は国の元の元であり、たからである。」という考えから、自ら率先して辛抱をし、国民が裕福になるのを待った。そして、「高き屋に のぼりて見れば煙立つ 民のかまどは にぎはひにけり。」と詠み、国民の生活が潤ったことが何よりの自分の富だと考えていたようだ。まさに、税の原点であると思う。

さて、今の日本では「民のかまど」から煙が上がっているのだろうか。疑問である。

消費税増税は、騎馬戦の上に乗る高齢者も負担する制度と言えるが、国の借金を先延ばしに出来ない状況でもあり、国を総合的に支える税制度の見直しも必要だと私は思う。

私の税感覚の芽

天津市立本渡中学校 3年 立田 安那

約三年前。私が六年生のとき、「税に関する絵はがきコンクール」というものに出品した。「学校には税がいっぱいです」このようなキャッチコピーを書き、絵は日本が学校のもののかかえている絵だったと思う。私はこの作品で最優秀賞をいただくことができた。だが、年を重ねていくうちに、いただいた賞に対して、

「本当にもらって良かったのだろうか。」

とってしまう。それほど、税に対する考えが幼かったということだ。

現在、消費税が注目されている。五パーセントの消費税が八パーセント。しまいには、十パーセントも上げるといふ。日本は、これらに今、反発している状態である。

しかし、世の中には消費税が二十五パーセントの国があるのだという。その国は、デンマークだ。デンマークは、『あなたは、幸せですか。』という質問に対し、結果一位だったのだという。でも、なぜ消費税二十五パーセントの国で幸せだと言えるのだろうか。私は疑問に思った。二十五パーセントは、例えば一万円の商品を買うと一万二千五百円払わなくてはならない。そう考えると、国民の負担は大きいに違いない。税は何に回されているかに視点を置いた。すると、あるものに使われていることが分かる。デンマークは福祉社会だ。つまり、国民の医療費が生きていく間お金がかからないのである。だから、幸せだと言うことができたのだ。

このように考えると、日本も広い心で受けとめなければならないのかもしれない。少子高齢化が進んでいる中で社会の担い手は私達若者なのだ。私達が社会人となった時、高齢者の年金や医療費用を負担する人が減っていく。これによって一人の負担が大きくなっていくのだ。未来を考えると、今から将来に備えておくべきではないかと私は思う。もしかしたら、若者への負担が全てでなくても小さくなるかもしれない。また、少しでも早く理想の社会に近づけるかもしれない。ほとんどの日本の国民が反対しているが、私は賛成できる部分がある。

税を私は甘く見ていたのだろう。税は物に変えられているだけでない。自然でも市町村でも施設でも様々な面で使われているのだ。私が成長すると共に、税感覚も養われてきた。関心を持つこと。これが私の心にあるかぎり、それが水となり税感覚の芽を育て続けるだろう。

安心できる未来を願って

浦添市立浦西中学校3年 比嘉 麻衣子

何気なく観ていたテレビ番組で、日本の借金が平成二十四年までに七百九兆円もあることを知った。

「国の借金？」これと言って不自由することなく暮らしている今、私はそのことが全くピンと来なかった。現に食べたいものが食べられ、買いたいものだってある程度のものであったら買うことができる。病気やケガの時だって保険証があれば診てもらえる。世界に誇れる大きな会社や有名メーカーがあって、国民総生産だっていつも上位にある日本だからそんな暮らしは当たり前だと思っていた。毎日の暮らしの細かいところまでが税金で成り立っていることを考えたことすらなかった。予算で足りない分を国は国債を発行することで補っている。これが国の借金なのである。なぜ借金をする必要があるのだろうか。またどうしてこんなにまで借金が膨らんだのだろうか。そのことを母に話すと「簡単なことだよ。収入と支出のバランスが悪いから。」また、病院の領収書を私に見せて「負担割合の欄に三割って記されているでしょう。これは窓口で自分が支払う分で残りは国や市町村が負担してくれているんだよ。だから、病院にかかる人や回数が増えれば増える程、国や市町村の負担も増えていくの、まかなえる財源がたくさんあればいいけれど、今は支出がそれを越えてしまっているのが現状なんだよ。」と教えてくれた。私は領収書の金額を単純に計算してみた。「もし、これを全額毎回自分で支払うとしたら・・・。」そう考えると日本の医療制度は本当にありがたいと思った。それがもっと高額ならなおさらだと思う。

しかし、このところの不景気で保険料を納められなかったり、高齢化で医療を必要とする人がますます増え、母の言った収入と支出のバランスも悪くなっている。このままどんどん借金が膨らんでいくと、やがて日本の医療も立ち行かなくなってしまうかもしれない。そうなると、本当に医療保険を受けるべき人が受けられなくなって、尊い命を失ってしまう。

私達は、支出を増やしてしまう何か無駄なことをしてはいないだろうか。お互いの相互扶助で成り立っている医療保険、納めるべき人が納めるべき税金をきちんと納めているだろうか。

医療費などの社会保障だけが国の借金を増やしているわけではないと思うが、その他の問題も見直され、私達一人ひとりがもっと国の借金に関心を持ち、国の借金は自分達の借金なのだという意識を持てれば、この現状を打破し、皆が安心できる暮らしを作り出せると思う。これから私も豊かな未来を作り出していけるように、きちんと税金を納め、正しく使える大人になりたい。そのためにも、税金の意味について考え続けていきたいと思う。

公平のために

清水町立清水中学校 3年 桑嶋 桃子

税金は5%。私が税について知っていることは、それぐらいでした。私がそれ以外にも税があることを知ったのは中学二年生のときです。

中学二年生の頃、私は子宮頸癌のワクチンを打ちに、母と病院に行きました。そして帰宅途中、母に聞きました。

「ねえ、これってどれくらいお金かかんの？」

母は答えました。

「期間中だから、お金はかかかないよ。」

私はそれを聞き、驚きました。自分の予防のためのワクチンなのにお金がかからない？私は更に聞きました。

「じゃあどこからお金でてんの？」

母は答えました。

「町が負担してくれているんだよ。市町村によっても違うみたいだけどね。」

町が負担してくれている、というのは町の人が納めている税からお金がでていくということです。つまり、私は税を納めている父や母はもちろん、すぐ横を歩いている見知らぬ人にも支えられている、ということを知りました。

私が中学三年生になって五ヶ月がたった頃、学校で租税教室がありました。私はそこで税について色々なことを学びました。国に納める税は国税、道や町に納める税は地方税、などそれぞれ違うこと。東日本大震災復興関連予算にも税は使われていること。ビデオも観ました。テーマは“もし税がなかったら”。そこで私は一年前に自分が使った税のことを思い出しました。社会保障関係費。主に医療や年金、介護、生活保護、社会福祉などの公共サービスに使われています。もし税がなかったら、それら全てがなくなるので子宮頸癌のワクチンもちろん有料です。子宮頸癌のワクチンは通常料金で約五万円です。でも私の母は「有料だとしても打った方がいい。」と言っていました。なぜなら、子宮頸癌は癌による死亡原因の第三位、女性特有の癌の中では乳癌に次ぐ第二位だからです。しかし値段が約五万円となれば、ちょっとやめておこう…となる人もいるはずですが。基本的にはワクチンを打てば二十年は予防できますが、打っていない人は予防できません。もし税がなかったら、誰でも予防できるはずの病気を予防できない人がいるということになってしまいます。それでは公平とは言えません。

租税教室を終えて、私は“税は公平を保つためになくてはならないもの”だと思いました。お金がある人もない人も公平に生きるために税はあるのだと。私は大人になったら、しっかり税を納めたいです。私のために税を納めてくれた人の恩返しのために、そして公平のために。

私には今年で九十歳になった曾祖母がいる。私が幼いころには、山に連れていってくれたり、昔話を話してくれたりして、よく遊んでもらった。そんな曾祖母も、耳が聞こえにくくなり、腰もずいぶん曲がってしまった。私が十五年間成長している裏側で曾祖母はかなり年をとってしまった。そして曾祖母は今、デイサービスに行っている。週に二回行っているのだが、曾祖母はいつも笑顔で帰ってきているような気がする。家族に『おかえり』と迎えられながら。

今年の夏休み、私は驚くべき事実を知った。その事実とは、曾祖母の行っているデイサービスのお金の一部が税金でまかなわれているということだった。デイサービスに行っている人が全額支払うと思っていた私は、心底驚いた。そんなところにも税金が使われているなんて、思ったことがなかったからだ。しかし、もし税金がなかったらどうなるのだろうか。私は、ふとそんなことを考えた。私の曾祖母は家族と一緒に暮らしている。しかし、日本には一人、あるいは二人で暮らしているお年寄りの方もいるはずだ。そのような人達はお金が足りず、デイサービスにも行けない苦しい生活をしているかもしれない。そう考えると、税金はなくてはならないものだ実感した。もし、かなりの額が税金でまかなわれているのだとしたら、税金がなければ私の曾祖母だってデイサービスに行けなかったかもしれない。決して他人事ではないのだ。

私の曾祖母もそうであるように、税金に救われている人達は日本にたくさんいるはずだ。私の家族だってそうだ。特に、いつも曾祖母の世話をしてくれている祖父母は大変助かっている。年をとることはしょうがないことだとわかっているけども、言ったことがうまく聞こえなかったり、すぐもの忘れをしたりするとなつきつい言葉をかけてしまっているのを何度も見たことがある。今のは言い過ぎだ、と私はよく思うのだが、当の本人になってみなければその気持ちはわからないのだろう。曾祖母は大正生まれだ。戦争の時代を生き抜いてきた曾祖母にゆったりと暮らしてほしいと思う気持ちと、耳が聞こえなかったりしてイライラしてしまう気持ちが交錯しているのかな、と私は思う。しかし最近、そのようなことが減ってきたように思う。きっと、デイサービスがあることによって気持ちにゆとりが生まれたのだろう。

このように税金は私の身の回りの人を幸せにしてくれる。納税をし、その税金が使われて、皆が笑顔になる。その良い循環が暮らしを豊かにしてくれる。皆、自分のために納税をしているのだ。私が社会人になっても、税金の大切さを噛みしめて生きたい。私の身の回りの人のために、そして、自分自身のために。

理にかなったシステムー税金

さいたま市立大宮西中学校 3年 岩堀 直哉

「自分の支払っている税金の税率って知ってる？」僕は、両親に聞いてみた。父は「だいたい。」と答え、母は「消費税の5%しか知らない。」だった。

母は自分の毎月の給与から、各種の税金が天引きされていることを気にも留めていなかった。母の給与支給明細書には、所得税、住民税が引かれ、他には年金や介護保険料などの社会保険料も引かれていた。母に言わせると、納税するのが当たり前すぎて、考えたこともなかったらしい。

こういう人は、案外多いのではないか。自分が一体、毎月いくら位納税し、何%の税率でそれが決められているのか、知らないというか無関心な人が、多いのではないか。そのくせ、ニュースや新聞などで消費税率が上がることについては、敏感になる。

母は、毎月支払っている税金以外にも、年に一回納税する固定資産税や、自動車重量税も何故その金額になったのか疑問にならないようだ。別に家は大金持ちではないので、それで気にならないのではない。むしろ、資産のある人の方が税金は多額だ。ただ、母は税金の納付請求書が届くと「ああ。」とため息をつき、「また、この季節がやってきたのね。」と肩を落とすのだ。しかし、請求された納付額通りをもちろん支払う。八百屋や魚屋の買い物の時の様に値切らない。なぜなら、義務だから。

母は昔、父に税金が高いと愚痴を言った時、父に言われたそうだ。「文明も無い原始人だった頃から人々は助け合って生きていた。ケガをして働けない人には火の見守り役など動かなくても出来る仕事を任せ、他の人は狩りに出かけ、誰のことも見捨てることなく役割を果たして、助け合って生きていたらしい。税金も同じ様に、納められる人が納めて、それを困っている人や障害のある人達、自分達の為に使う為にあるんだよ。その使い道を決める議員を選んだのは、私達国民だよ。」

僕はその話を聞いて、税金の意味が少しわかった気がした。多分、文句ばかり言う人は税金に無関心な人だ。僕達はもっと税金に対して興味を持ち、注目しなければならない。以前、ニュースのアンケートで税金に対する不満の一つに、税金の使われ方があげられていた。やはり、納めたからにはその使い道を知りたい。正しい情報公開や可視化は納税者にとっての権利だ。

長い歴史の中で人間は、平和や平等、科学、文化、そして民主主義をつくってきた。税金もそうだ。とても理にかなったシステムだと思う。納められる人が納めて、平等に使うべきところに使う。とても平和で文化的なシステムだ。

僕も、いつか、そのシステムを担う人間になりたい。

「お姉ちゃん、これ読んで。」

次から次へと本を持ってくる彼らの足どりはまだまだ頼りない。好奇心で溢れた瞳を輝かせながら、辺りを走り回る三才児達。

今年の夏、私は地域のとある保育園にボランティアに来ていた。ここは色々な種類の玩具に囲まれていたが、中でも絵本は年齢を問わず、園児達から絶大な人気を集めていて、そのせいか、この保育園では絵本が多く備えられている様に感じた。

——園児達は、毎日の様に新しい絵本を持ってくる。所詮は絵本、といえどもこれだけの数が集まればかなりの金額になるに違いない……。

私はふと、そんなことを思った。

後に分かったことだが、この絵本の財源の正体は「税」であり、この「税」は私が生きるに当たっても重要な役割を果たしていた。私が三年間大切にしている吹奏楽部の打楽器も税金で購入されたものであり、夏休みに演奏会が開かれた区民ホールも税によって建てられたものだったのだ。また、楽しかった修学旅行の宿泊費の一部も区からの税で賄われており、私の中学校生活の思い出の多くが税によって支えられていたことを知った。

私の祖父は今、介護を受けている。最初は祖母が一人で介護をしていたものの、祖母も年齢的に介護が難しくなってきたことから、最近ヘルパーさんが手伝いに来てくれている。祖父の自立を助けるため、ヘルパーさんとは別でリハビリの人もつくようになった。

「福祉が充実しているお陰でここまでお世話になっても大きな負担にはならないのよね。」

祖母は回復に向かっている祖父を見て、嬉しそうだった。

税は保育園に通うような、小さな子どもから、私の祖父のような高齢者まで、様々な年齢層の人が安心して暮らすための礎になっていると思う。税による公共サービスはどんな境遇の人にも平等に与えられている。

三月十一日、日本の人々を震撼させた東日本大震災は幾多の家を襲い、幾多の命を奪っていった。テレビで見た、震災直後の東北の光景は、今でも私の脳裏にしっかりと焼きついている。

あれから約一年半経って、東北は、瓦礫の山も減り、体育館へ身を寄せていた人達は仮設住宅へ移り、少しずつではあるが復興へと歩み始めている。ボランティアの方々や地元の方々の努力はもちろんのこと、ここでも震災復興費として多くの税が使われ、人々の役に立っていた。

人が人らしく生きるために必要な費用を賄うことが税金の使命であり、老若男女全ての人が、税と深い関わりを持って今を生きている。私達の生活、そして人生を共に過ごす税金についてよく知り、考え、誰もが希望をもてる社会へと進んでいきたい。また私自身が明るい未来へ導いていける存在でありたい。

税金に守られる私たち

横須賀市立大津中学校3年 竹内 亜友美

「予防接種の三回目、ワクチンを頼んでおいたからこの夏休み中に済ませようね。次の部活の休みはいつ？」と聞かれ予定表を見ていると、「接種券の期限が切れちゃってる！」と母が大声を出した。「そういえば、有料になるから早く済ませないって他のお母さん達と話していたのに。うっかりしちゃった。」そう言ってワクチンの価格を調べはじめた。「三回分で四万八千円だって。きっと一万六千円ぐらいかかっちゃう。」と悲鳴をあげた。「受けなくても大丈夫だよ。」という、「三回受けて効果が出るものだから、高額でも受けないとね。」

この一件で、当たり前のように無料で受けている予防接種も実は税金で賄われているという事に気付かされた。

「税金」というと物を買うときにかかる消費税ぐらいしか思い当たらなかったのだが、実際には私達は税金の恩恵を生活のあらゆる部分で受けている。教科書、学校で使っている机や椅子も税金で購入されており、私達が普段利用している病院や図書館、部活動で利用する競技場等の設備に伴う費用も同様である。

税金の使い道を知るために、横須賀市のホームページを検索してみた。そこには市税の使い道が分かりやすく表示されており、それによると約三十五%が健康や福祉に、十%が教育や文化費にあてられている。〈横須賀市HPより〉生活の全ての面において税金の恩恵を受けているが、その中でも私達青少年に直接かかわる部分が約半分を占めるのである。

最も税金の恩恵を受け、大人と子供の間地点にいる私達が大切にすべき事は、税金の大切さを理解し、物や施設を大切に使ったり、受けられるサービスを感謝して利用させて頂くことなのだと思う。

社会の授業で学んだように、日本は少子高齢化が進み福祉にかかる費用も増えてきている。税金を納める労働人口が少なくなっている以上、消費税の十%引き上げも必然だと思われる。

税金はみんなが幸せに生きるために、分け合わなければならない積み立て金のようなもの。全ての人が、自分の家族、仲間、そして自分自身のために気持ちよく税金を払い、誰もが健康で豊かに暮らせる社会を私達がつくっていかなければならない。

予防接種の件は保健所に問い合わせたところ、「国の方針が変わり、一年無償化が延長になった」ということで、税金のありがたみを身をもって感じた夏となった。

税の使い道と税負担

能美市立辰口中学校 3年 東出 夏実

現在、国の収入で一番多いのは公債、そして支出で多いのは社会保障です。

収入のうち、税収でまかなわれているのはおよそ 47%、将来私達の世代が負担する公債はおよそ 49%です。国の借金が税収を上回っている、この現状に私は驚きました。さらに、支出としてその公債（借金）を国は返していますが、それより収入の国債の方が上回っています。返すお金より借りるお金が多い、つまり、毎年借金は増え続けているということです。

しかし、この借金は私達世代が将来税金で返していかなければなりません。そして今からでもできる解決策として私は増税することだと思います。増税に反対の人もいますが、このままだと借金が増えすぎて国がまわらなくなると思います。それに、増税すれば国からの保障も増えて、より豊かな生活が出来るようになるだろうと思います。

この、より豊かな生活のために税金は、例えば学校、教科書、道路、橋、警察、消防に使われています。そして義務教育を受ける私達中学生一人当たりの年間教育費九十五万七千円、小学生の八十二万七千円も税金です。計算すると義務教育九年間で一人当たりおよそ八百万円が使われていることが分かります。日本国民全員がそれを受けているとすると、莫大なお金が使われたでしょう。しかし、この義務教育がないと、字が読めず、書けず、計算までできないことになります。外国には勉強したくてもできない子供がいるのに、私たちは無料で授業が受けられます。しかし、私達の親だけの税金であの八百万を支払っているわけではありません。近所のおじさん、おばさん、お兄さん、お姉さんのみんなが税金を納めて、学校が成り立つようにと、負担しているのです。そのことに、私は感謝の気持ちを忘れず、一生懸命学業に励みたいと思いました。

日本の税負担水準は世界最低水準になってしまっています。その理由は負担が嫌い、払うことが嫌い、と国民も企業もなっているからでしょう。しかし高い税金を払い、豊かな生活を得ているスウェーデンでは、払ったら現金やサービスとして戻ると考えています。少子、高齢社会の進行の著しい日本が高負担国家となったらそのように考えられるのか。私には疑問が残ります。日本国民は、国や地方がどれだけ借金を重ねても、ほとんどの人が無頓着です。そんなことをしていたら、日本には将来がなくなります。

だから、しっかりと税を納め、選挙などにも積極的に参加する大人になりたいです。そのためにも、正しく税を納め、税金の使い道にも十分にこれから関心をもっていきたいです。

僕は今年の夏、一宮市中学生海外派遣団として、八日間中国へ訪問してきました。中国では、北京・西安・上海の三つの都市へ行き、また、三つの中学校で現地の中学生と交流をしました。この体験では、言葉が違い、言葉で気持ちを伝える事が出来なくても、ジェスチャーで相手に積極的に伝えていく事の大切さを知り、かけがえのない思い出となりました。万里の長城や兵馬俑などの偉大な歴史的遺産や中国の独特のにおい、活気あふれる街、四川料理や上海料理など、実際に行って体験しないと分からない事を五感を使って学ぶ事が出来ました。

最初は緊張しながら話をしていた仲間とも八日間共に過ごし、とても絆が深まりました。僕にとってこの八日間は一生忘れられない思い出となりました。

この充実した八日間を過ごす事が出来たのは、裏からのみえない支えがあったからです。僕たちのこの海外派遣の旅費の八割を一宮市が負担してくださったのです。そのお金には税金が使われていると知りました。遙か昔、税金が年貢であった時代、年貢を納める事はただつらい事であり、自分たちに何も良い点はなく、政府に反対し、一揆などを起こした事もありました。しかし、現在では、税金で犯罪や事故があると警察の方がかけつけてくださったり、家族が倒れた時には救急車が出動してくれたり、義務教育をするための建物が各地域にきちんとあったりと、さまざまな人を助けたり、教育や生活を支えてくれています。僕も税金で支えられている人の一人です。

中国では、売り子と呼ばれる子どもや大人の人達が僕たちに「千円！千円！」と物を売りつけて来ます。このような事をしている貧しい子ども達は学校には行く事が出来ていません。僕が今、通っている中学校も、すべて税金によって建てられました。普段なにげなく通っている学校にも、みえない税金の支えがある事を実感し、納税している人達への感謝の気持ちが湧き出てきました。

僕も納税している人の一人です。消費税という税をわずかですが納めています。このわずかな金額でも役に立てていると信じ、これからも納めていきたいです。

現在日本は税金によって成り立っています。もし、国民一人一人が税金を納める事が出来なければ、中国のように日本でも売り子のような人が出てきてしまうかもしれません。そんな日本は見たくありません。これから、新たな命として生まれてくる子ども達のためにも、日本という国のすばらしさを他の国々に知ってもらうためにも、国民一人一人が税金に対する思いをもっともっと強いものにして、僕も大人になった時にきちんと納税出来る人に成長するよう努力していきたいと思います。その気持ちが世界の中の日本を支える力となるから。

先日私は、「子宮頸がん」の予防接種を受けに行きました。広島市内在住の、中学一年から高校一年の女子は、期間限定で、無料で接種出来たからです。このワクチン、三回の接種が必要ですが、全部で、およそ五万円もします。私には中学一年の妹もいるので、全額自己負担では、ちょっと家計も大変です。全額無料と聞いて、早速、二人揃って受けに行きました。

ちょっと得した気分家で家に帰ると、「こんなに高い注射を、どうして無料にすることが出来たのだろうか？」と、急に気になり始めました。いったい、誰が費用を出してくれたのでしょうか？病院でしょうか？学校でしょうか？急いでパソコンに向かい、調べてみることにしました。

答えは、すぐに分かりました。私達の代わりに費用を出してくれていたのは、何と「税金」でした。しかも、今まで、散々お世話になってきたことも、同時に知りました。私達が赤ちゃんのころから、当然のごとく受けて来た、数々の予防接種は、全て税金で賄われていたのです。今このように、感染症に怯えることなく、日常生活を送れているのは、税金のおかげでした。

他にも調べてみると、公立図書館の本や施設の費用、道路・河川・下水道などの整備、ゴミの処理費用など、私達の生活に密着した場所で、税金は使われていました。私達の快適な生活は、税金によって、守られていたのです。意識して見ないと、気付かないものです。今まで私は、正直なところ、税金に対してあまり良い印象を持っていませんでした。特に、大人だけでなく、中学生の私達も払わなければならない「消費税」。欲しい物を買う時に、消費税分のお金が足りなくて、我慢したこともありました。そんな「消費税」ですが、何に使われているのか調べてみると、意外なことが分かりました。基礎年金・老人医療・介護予算などの、福祉目的のみに、使途が限定されているんだそうです。「中学生の私でも、微量ながら、消費税を通して、社会に貢献しているのかな？」と思いました。

私達が生まれて、成長していく過程において、随所に税金は使われていました。それが分かった今、急に、税金に対する印象が変わりました。私も大人になったら、税金を払うようになりますが、今まで税金にお世話になった分を、大人になってから返していると思えば、損をした気分にはならないような気がします。私が払った税金が、その時代の子供達の為に使われるのです。そして、私自身のためにも使われるのです。税金の使われ方を正確に知ることは大事なことだと、今回、改めて実感しました。

「税」の幸せ

板野町立板野中学校3年 大西 真央

身のまわりのさまざまところで使われている税金。しかし、私は「税」について深く考えたことがありませんでした。日常生活でも考えることがあるとすれば、買い物をする時に消費税について考えるだけです。けれどこの作文を書くにあたって、自分の生活や周りを見直してみると、私たちが幸せな生活をおくることができるのは、税金のおかげだということが分かってきました。

たとえば、中学校生活で欠かせない教科書も、国民の税金によって無償で支給されています。しかし、私たちは学年が上がるたびに、ぴかぴかの新しい教科書もらえることが、あたり前のことのようになっています。教科書は一人ずつ持っているのがあたり前。机で勉強するのがあたり前。しかし、私たちがついあたり前に思ってしまうことが、ある国の子どもたちにとっては「夢」となっているのです。

少し前に、私はある番組で「カンボジアに学校を建てよう」という企画があるのを観ました。カンボジアという国はとても貧しい国で、学校が少なく、たくさん子どもたちが学校に通えていない状況でした。やっとのことで学校に通えている子どもたちも、十分な数の教科書がなく、ボロボロの教科書を子どもたちが肩を寄せ合って見ていました。机や椅子などもなく、子どもたちは地面に座って必死に授業をきいているのです。

この映像を観たとき、学校へ行けることがあたり前になっていた私は、自分がどれだけ恵まれた環境にいるのかを思い知らされました。そして今、私たちが快適で幸せな暮らしができているのは、税金のおかげなのだということが分かりました。

税金が使われているのは学校生活の中だけではありません。行き届いた医療制度や福祉。警察署や消防署、自衛隊など。考えてみると、税は様々なものに姿を変えて、私たちの暮らしを支えています。また、私たちの国だけではなく、カンボジアなどのたくさんの恵まれた環境でない国の支援も、私たちの税金が使われている事を忘れてはいけません。

税はたくさんの人々に「幸せ」を届けているのです。

今の私たちにできることは、公共の物を大切にしたり、税金に関心を持ち、その仕組みについて正しい知識を身につけることだと思います。今、過ごしている生活をあたり前だと思わないで、常に、納税者の方たちへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていくことです。そして、社会に役立てる人間になれるように成長して、将来私が納税者になったときには、支えられた分のお返しをしていきたいと思います。未来の子どもたちが「幸せ」と言える社会をつくるのが、私たちの役目なんだと思います。

私達の暮らしを守る税金

福岡市立高取中学校3年 横山 由依

二〇〇九年七月、私が住んでいる福岡市は、集中豪雨にみまわれました。その日、私は近くのバレエスタジオでレッスンを受けていました。雨や雷が激しい事は知っていましたが、レッスンが終わって帰ろうと外に出た時、信じられない光景が目飛び込んできました。周囲は水浸しで、ひざの高さまで水位があり、とても帰れる状況ではありませんでした。数時間後、水位が下がるのを待って、やっと家に帰ることができました。

後の報道で、原因の一つに、近くの樋井川の氾濫があった事を知りました。そして、その時の豪雨を含む災害は、「激甚災害」に指定されました。

「激甚災害」とは、著しく甚大な被害を伴う災害の事で、地方財政の負担の緩和や被災者に対する特別な助成が必要な場合、政令により指定されます。阪神淡路大震災や東日本大震災も、もちろん「激甚災害」に指定されています。

被災地の復旧の為には、多くのお金が必要になります。個人の財産や企業の自己資金だけでは、とうてい足りません。災害が起こったら、国は、速やかに多くの補助金を出し、一日でも早く、被災した人々の生活を取り戻す為に援助する事が、何よりも大切です。

前述の三年前の水害を教訓に、県は二〇一〇年から五年間「樋井川河川改修工事」に取り組んでいます。総額三六億円もの費用がかかっているようですが、私達の生活を水害から守る為なのだから、有意義な税の使い道だと思います。現に、今年の七月に一時間五十ミリの豪雨が降った際には、工事が進んでいたお陰で、幸い、近所での浸水被害はありませんでした。

この七月の「九州北部豪雨」も、各地で様々な被害を及ぼし、「激甚災害」に指定されました。テレビの報道で、道路が寸断されたり、橋が崩落した映像を見たり、孤立した集落の人々の悲痛な訴えを聞くと、早く何とかしてあげなくては、と痛感します。

被災地の為に、国庫補助という形で税金が使われますが、国庫が安定していないと、万一の時に対処できない事態に陥るかもしれません。

国庫を安定させる為には、私達が納税の義務を果たすしかないのです。

これまで、税について何の興味もありませんでしたが、税について学習する機会に恵まれて、税金が以前より身近なものに思えてきました。そして、私達が税金を納める事が、私達の暮らしを守っているという事実に目を向けることができました。

税金、自分の為に誰かの為に

西都市立銀鏡中学校3年 福島 千広

昨今、世論が注目しているのは、やはり「消費税法案」ではないだろうか？平成二十六年には八%、二十七年には十%と段階的な引き上げとなる。

私は今回税金の事を調べる前までは、反対でした。それは、自分のおこづかいで買える物が減ってしまうからという単純な理由でした。

消費税の事を調べていくうちに、さまざまな税金がある事に驚いたのと、同時に様々な意見があることも知りました。その中で気づいた事があります。

税は、国民一人一人の暮らしを守る為にありますが、一人一人を100%満足させる為にあるのではないという事です。

だから「公的」なのではないでしょうか？

私は、自分の事ばかり考え反対していたけど今は、消費税増税は賛成と言うより「必要である」という答えになりました。

一番心配なのは国の債務です。一日でも早くこの債務を無くし、未来ある日本へ、希望ある日本へ変えていくべきだと思います。

漠然ですが私はこの日本が大好きです。

世界には、学校にも行けない子供達、食料不足や貧困で苦しむ人々、ワクチン接種ができず死んでいく幼い命。

日本に生まれて良かったと思えていた理由は様々な税金がある代わりに、私達は守られていたからなんです。今まで納税してくれた人々のおかげで、この事に気づけた事だけでも大きな成果です。

私の願いは、東北の復興支援です。

その為にも税は必要です。それに日本は、地震や大雨などの自然災害が多い国です。何かあった時に援助できるよう税を積み立てる必要があると思います。

悲惨な状況の中、世界から人間性を称賛された東北の人々、そして必死で救助支援される自衛隊や消防隊員、警察官、ボランティアの方々、誰もが感銘を受けたはずです。

身近では私の父です。

私の父は地方公務員です。台風や大雨などの警報が発令されると出動します。家族としてはとても心配です。

父の口癖は、「家族や家の建物に何かあっても帰ってこれないから自分達で対応しなさい。」と言って大雨と強風の中仕事に向かいます。

やっと警報が解除されて帰ってきた父の作業着は泥だらけで、人々の安全を守る仕事はどんなに大変なのか良くわかります。

私もいつか社会人となり納税者となります。税金を支払う時、このお金は、自分の為にも自分以外の誰かにも役立っている事を忘れずに何より税を支払える事を忘れずに、そして税を支払える事は社会人として幸せな義務なんだと思いました。大好きな日本が、世界一番平和で幸せな国になるように私も今できることを精一杯頑張って社会に貢献できる大人になりたいです。

意外と身近な税金

那覇市立金城中学校3年 田仲 梨紗

最近テレビで、税金の滞納者が増加傾向にあるというニュースを目にしたことがある。正直、税金について興味があったわけでもないし、私はまだ税金を納める年齢でもないのであまり関係のない事だと思っていた。

でも、このニュースを見た時に何気なく母に税金について聞いてみた。すると、税金は意外にも私の身近にあることがわかった。例えば、普段コンビニなどで買い物をする時には消費税を払っているし、私がいつも通っている学校も税金で建てられている。また、友達と遊ぶ公園など、私には全然関係のないと思っていた税金はこんな身近にたくさんあった。

ある日、私は時間を忘れて友達と遊んでいた。まだ7時前だったが、日の短い冬の季節だった為外はもう真っ暗だった。帰り道は途中から友達と別れて一人だったので、私はなるべく街灯のある明るい道を選んで帰るようにした。

その時は特に何も感じなかったが今になって考えてみると、あの時私の帰り道を照らしてくれたあの街灯も税金によって立てられているんだと気づいた。

これは私が小学生の頃の話になるが、私が学校へ通う道には横断歩道はあったがその頃まだ信号機は立っていなかった。その道は結構車の通る量が多いし、私がまだ小さくて運転手に見えにくかったせいか、車はなかなか止まってくれず、とても不便だった。

しかし、信号機ができてからは横断しやすく、便利になった。そして何より安全に渡れるようになった。この信号機も税金のおかげで立っている。

今まで気づけなかったが、税金は意外と私の身近にたくさんあって、色々な面で守られたり助けられたりしているんだなと感じた。

私のように、税金によって助けられたと感じている人は他にもたくさんいるはずだ。また、気づいていなくても実際私達の周りには税金によってまかなわれているものがたくさんある。

世の中には税金を納めていない滞納者も多々いるようだが、国民みんなが納めている税金は国民みんなの為に使われているということに気づける人が一人でも増えれば、滞納者は減っていくと思う。

近い将来、私も色々な種類の税金を納めることになるが、滞納や未納、脱税などはせずに期限内に納めることが当たり前ができるような大人になりたい。

そして、私達にとってより良い社会になってほしいと思う。